青鞜

1

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜 第三年第一號目次

近代人の告白(ミュッセ)……一……野上彌生譯

青き疊(短歌)……九……武山英

巴里雜詠(詩)……一三……與謝野しやう

新らしき望多き地へ(シエンキウッチ)……一六……增田初譯

王昭君(脚本筋書)……二九……長谷川時雨

日常生活(詩)……四三……茅野雅

ひな鳥(小說)……四九……小笠原貞

ホイットマン論(翻譯)……六五……榊纓

愛の郷へ(小說)……七六……荒木郁

あまき縛め(短歌)……九三……原阿佐緒

夢の夢(仝上)……一〇〇……三ヶ島葭

東北風(アヂシチエフ)……一〇七……瀨沼夏葉譯

年(小說)……一一七……岡田八千代

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

京　人　形(短歌)……一二三……岩瀬百合
Sよなどてさは聞きわけのなき(仝上)……一二六……岡本かの
雜　木　林(小說)……一二九……神崎恒
編輯室より……一三六……同人

附　錄

戀愛と結婚(エレン、ケイ)……一……らいてう譯
新らしき女の道……二〇……伊藤野枝
人類としての男性と女性は平等である……二三……岩野淸
新らしい女に就いて……二九……加藤緑
新らしい女の解說……三六……長曾我部菊
超脫俗觀……四六……上野葉
諸姉に望む……五七……宮崎光
私は古い女です……六一……堀保
表　紙……尾竹紅吉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

オノト萬年筆

無飾　金六圓以上

飾付　金七圓以上

オリオン萬年筆

無飾　金二圓八十錢

金飾　金三圓廿五錢

郵税各金十二錢

新ラシイ女は萬年筆の所有者也

新らしい教育、新らしい道徳、新らしい修養、新らしい趣味、新らしい職業、新らしい家庭、の婦人は皆萬年筆の愛用者也、新らしい大正の日記や家庭帳簿や手帳や葉書は新らしい萬年筆を用ひて愈々新らしかるべき也

（萬年筆目錄進呈）

萬年筆用『アテナ』インキ
二オンス入　金二十錢

東京日本橋區通
大阪東區博勞町
京都三條通

丸善株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

長曾我部菊子著

竹久夢二氏口繪
小寺白衣子裝幀

情熱の女

菊半裁　三百六十頁
洋裝美本　價五十錢　送費六錢

本書に現れたる女性は、周圍の人々な熱愛する爲に生れて來たもの丶様である、弱いのが女の代表である時代はもう過ぎ去つたが、理智の女の冷たい心にくらべて此の女性の強い感情な味はうのは面白いに相違ない。

東京淺草
下平右衛門町

岡村店店

振替東京
一九〇六五番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

尾上柴舟先生著

中澤弘光畫伯木版挿畫着色數度刷二葉
岡野榮畫伯裝幀畫

最新刊

日記の端より

全一冊洋裝
角形裝幀
金文字入
定價七十錢
送料八錢

現代歌壇に於ける柴舟先生の聲名と作品の價値とは今更喋々を要せず本書は先生が『覊旅』及び折にふれて詠み出でられたる歌稿中の逸品五百有餘章を收錄す

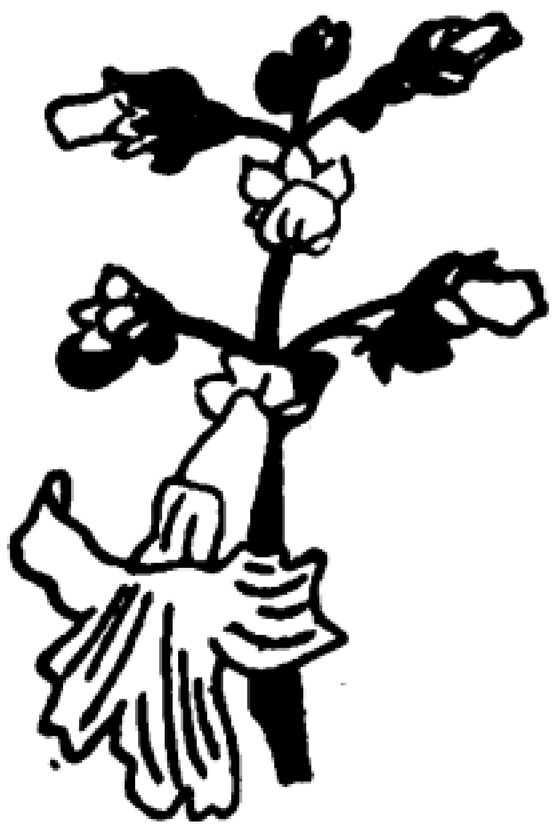
東京神田仲町
發行元 辰文館
電下谷五九五
振替一六八五九

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

北原白秋氏著及畫

本文朱黒二度刷……歌二百余首及歌論
挿畫桐畫數十種……装幀[illegible]と白の瀟洒
定價金壹圓……送費金六錢

KIRI-NO-HANA.



桐の花

抒情歌集

凡てこれ快くして悲しき氏が内心の息づかひと清新なる感觸の記錄なり。今や新装成る。

發行所
東京市京橋區南傳馬町三丁目
(振替東京五六一四番)
東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

發行所　東京市京橋區南傳馬町　振替東京五六一四　東雲堂

求むるこころに手をのべよ。遠く行け。靜にうたへ。落ちたる塀に纏はる蔦は、悲しけれども力あふるゝものなり。煙や水や山岳や月光や、香氣ある太陽や、これら皆無言にして心を養ふものなり。この詩集の如き僅に著者が心に培かひたる蔦の芽生に過ぎず。

四六判頗美本
定價金壹圓
郵税六錢

阪本繁二郎畫

三木露風著

詩集

白き手の獵人

二月上旬發賣

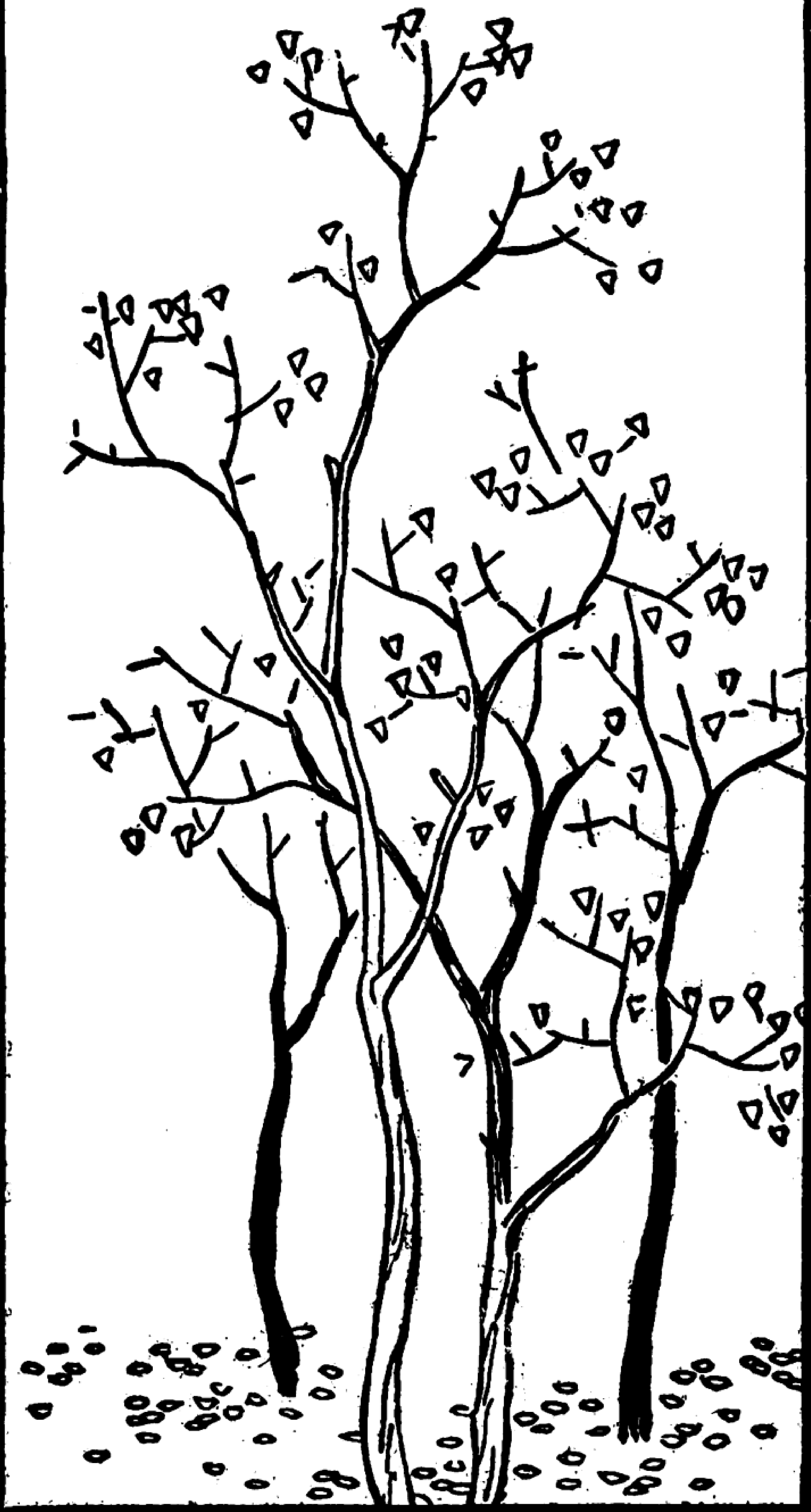
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歌集

死か藝術か

新裝發賣

東京
京橋區
東雲堂



若山牧水氏著

内容

手術刀
落葉と自殺
かなしき[illegible]

發賣

四六判總クロオス美本
定價金七十錢
郵稅金八錢

吉井勇著

水莊記

山脇信德畫
齋藤與里畫

内容

■水莊記
■苦痛の谷
■山上哀話
■戯曲「無智の序」
■湘南秘事
■七尺牘
■海郷異志

奇しく凄艶なる七篇の物語を收む。

新刊發賣

菊版[illegible]美本
本文黒青二度刷
挿畫二葉
定價壹圓
郵税八錢

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替貯金東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜
原稿用紙

■大判（藍色刷）二十字十行百枚綴

■大判（褐色の色紙へ墨刷）同上

■小判（朱色刷）同上

定價各一册十五錢　送費一册四錢

右三種紙質は最も精良なるものを撰み
發賣いたし候間御愛用願上候

發賣所
東京市京橋區京橋際
東雲堂書店
電話京橋一六三九
振替東京五六一四

青鞜叢書刊行

■ 岡本かの著　和田英作畫
歌集　かろきねたみ　歌双紙第一篇
定價金二十五錢
郵税金二錢

■ 二十氏執筆　小笠原貞裝幀
青鞜小説集　近刊

■ 青鞜同人譯　尾竹紅吉裝幀
ポオ散文詩集　近刊

■ らいてう著　尾竹紅吉裝幀
圓窓より　近刊

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　(振替貯金東京五六一一四)　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岡本かの子著

（青鞜叢書のうち）

新刊發賣

小形美本
全部日本紙
木版手刷
挿畫一葉
定價貳拾五錢
送費二錢

挿畫 和田英作氏
装幀及裏畫 岡本一平氏
彫刻者 吉田悦太郎氏

この歌双紙は年四回刊行する全部本版刷の、純日本式装幀に成る歌集で、本篇は女史の新作七十首を收めてある。「女なればか」「かろきねたみ」「袷の襟」「暗の手ざわり」「舊作のうちより」「いばらの芽」「むなおしろい」「淡黄の糸」「ひるの湯の底」「水のこゝろ」の十章。かろくやさしく、なつかしき女史の氣持ちは、頃合ひの年數を經た櫻の板につゝましく彫られて、稍々にじみ勝に刷り出された薄墨の色に、その情緒の顫へを窺ふことが出來る。

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番） 東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自由劇場主事
文學士　小山内薫氏著（新刊發賣）

演劇論集

演劇新聲

四六判洋裝
挿畫十葉
定價金八拾錢
送費八錢

著者今や演劇研究のため西遊の途にあり。本書は著者が日本に殘したる最近の研究を集めたる書にして、劇論、劇評、舞臺裝置に關する新らしき研究、泰西劇壇の新潮等を紹介せり。好劇家も讀むべし、俳優も讀むべし、興行主も讀むべし。敢て新劇壇に薦む。

■演劇に關する新智識を網羅せるは
■本書也、新興劇壇に與ふる羅針盤！

■藝術か娯樂か
■再び「藝術か娯樂か」
■演劇の新使命
■劇評の價値
■ウオオクレエの「劇評論」
■俳優の俳優論
■內的寫實主義の一女優
■丁抹のイブセン女優
■俳優グランヰル・バアカアに就て
■オスカア・ワイルドの諸作
■ゴオドン・グレエグの第二對話
■新劇小觀（五篇）
■四十一年の劇評（十二篇）
■英吉利の旅役者
■「ゼ、チヨコレエト、ソオルヂヤア」を見て

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東雲堂書店出版書

種別	書名	著者	定價	送費
歌集	桐の花	北原白秋	定價金八十五錢	送費金六錢
歌集	水荘記	吉井勇	定價金壹圓	送費金八錢
歌集	死か藝術か	若山牧水	定價金七十錢	送費金六錢
歌集	黄昏に	土岐哀果	定價金五十錢	送費金六錢
歌集	別離	若山牧水	定價金七十錢	送費金六錢
歌集	收穫	前田夕暮	定價金七十錢	送費金六錢
歌集	一握の砂	石川啄木	定價金六十錢	送費金六錢
歌集	悲しき玩具	石川啄木	定價金五十錢	送費金六錢
詩集	思ひ出	北原白秋	定價金九十錢	送費金六錢
詩集	邪宗門	北原白秋	定價金八十五錢	送費金六錢
詩集	霧	河井酔茗	定價金五十五錢	送費金六錢
詩集	路傍の花	川路柳虹	定價金五十錢	送費金六錢
詩集	夜の葉	森川葵村	定價金六十錢	送費金六錢
戯曲集	午後三時	吉井勇	定價金壹圓	送費金八錢
戯曲集	和泉屋染物店	木下杢太郎	定價金壹圓	送費金八錢
論集	演劇新聲	小山内薫	定價金八十錢	送費金八錢
評傳	哲人カアペンター	石川三四郎	定價金八十錢	送費金八錢

東京市京橋區南傳馬町三丁目十番地

電話京橋一六三九振替東京五六一四

近代人の告白

――アルフレッド・ド・ミュッセエ――

澤山な罪惡を行つてゐる社會と云ふものは、印度の毒蛇がその咬み傷を癒やす草木の葉を棲み家としてゐるのによく似通つてゐる。社會は常に自分の惹き起した苦痛と一所にその治術を呈出してゐる。例へば事業にも、訪問にも、働きにも、戀愛にも時間を割いて几帳面な生活を送つてゐる人ならば、をんなを失つたつて何の危險もないのである。その人の職業や思想は戰線に列んで平然たる兵士等の如きもので、彈丸が若し其の一人を打ち倒したつて、はたの者が補充するから、その人は失はれる事はない。

私がひとりぼつちになつてからは、此方法がなくなつた。私の愛する母なる『自然』は、これまでよりずつと廣大無邊な寄り附き場の無いものに思はれた。もし私が全くをんなを忘れてしまふことが出來たなら私は救はれたに相違ない。世間にはそれほど治療の必要でない人が、どの位澤山あることだらう。彼等は不信實な女を愛する事が出來ない。而してそんな場合に於ての彼等の行爲は、堅い決心の手本である。けれど、世の中の事を何一つ知る事もなく、たゞあらゆる物を望み求め、同時に凡ての情熱の芽生を感ずる青年であつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た我々十九の時の戀は斯んなものなのか知ら。此年頃では誰も物を疑ぐる事はない。右にも、左にも、足の下にも、地平線上にも、いたる所、其處には一つの聲が呼んでゐる。あらゆる事が望みである。夢幻樂である。心の若い時には現實といふものがない。其處にはドライヤッドの生せぬ程なぎざ〴〵した堅い樫はない。もし人間に百本の手が持てるものならば、彼はその百本の手を開く事を恐れないだろう。彼はたゞ彼のそんなをかき抱かなければならぬ。然うすれば空所は充たされるのである。

私は人間が戀以外に何事かをするものとは考へなかつた。それで人が他の職業の話などをする時には、私は返事をしなかつた。そんなに對しての私の熱情は殆んど殘忍なものであつた。而して私の全生命はその中に劇しい、氣違ひじみた何物かを感じた。私はたゞ一例を引いて見よう。彼女は私に小金盒に這入つた彼女の小畫像（ミニエーチユーア）を呉れた。それを私は多くの人達のするように、肌身につけてゐた。けれど或日私は骨董店で鐵製の拷問道具の、端に澤山な釘の逆さに附いた板金のあるのを見つけたので、小金盒をその板金に附けて、そのまゝ肌身に着けた。釘は、動く度に胸に喰ひ入つて、私に微妙な快感を與へた。時によるともつと強く感ずるように自分の手で其れを押へつけた程であつた。私はそれが馬鹿馬鹿しい事だとは十分よく知つてゐた。けれど戀故にはこんな事もするものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此女が私を欺いてからは、私はその殘酷な小金盒を取り去つた。私はどんなに悲しい思ひをして鐵の帶を脫はづしたか。而して自分の身もいよ〳〵自由になつたと分つた時どんなに深い溜息を吐いたかと云ふ事を話す事は出來ない。『あゝ、哀れな創痕よ』。と私はひとり言を云つた。『お前は直ぐと消えてしまふだろう。あゝ創傷よ。懷しい創傷よ。どんな香油を私はお前に塗つたものだらう。』

私は此女を惡まうとして惡み得なかつた。彼女は云はゞ私の血管の血に住んでゐたのである。私は彼女を罵り呪ひながらも、彼女の夢を見た。如何したら私はそれを避ける事が出來たゞろう。夢に對して何んとする事が出來たゞろう。マクベスはダンカンを殺した後、大海も我が手を洗ひ清めはしまいと云つた。大海は私の創痕をも洗ひ去らなかつたゞろう。私はデゼネヱに云つた。『僕はどうしたらいゝんだい。眠ると直ぐ枕の上にある女の頭が見えるんだもの』。

私はたゞ此女を通して世の中に生きてゐたのである。彼女を疑ふのはあらゆる人間を疑ふことになる。彼女を呪ふのはあらゆる事を否認することになる。彼女を失ふのは有らゆる物を滅ぼすことになる。私は表に出なかつた。私の目には、世の中は怪物や野獸や鰐魚のような物で充されてゐるように見えた。私を引き入れようとして人がいろんな事を說く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のに對しては私はこう返事をした。『そうだ、それはいゝ考へだ。併し僕にはとてもそれを受け入れられない。』

私は窓ぎわに坐つて獨り思ひつゞけた。『彼女はきつと來るだろう。もう來つゝある。あの角を廻つてる。私には彼女が近よりつゝあるのが分かる。彼女がなくては私が暮らせないと同じ樣に、私がなくては彼女も暮らして行けないのだ。私は彼女に何んと云つたものだろう。どんな表情をしたものだろう』。その時彼女の裏切りが思ひ起された。『あゝ、彼女は來ない方がいゝ。私は手紙を書いて、彼女を殺ろすかもしれないから來るなと云つてやらなければならぬ。』

私の最後の手紙をやつてから、私はもう彼女のを噂を聞かなかつた。『何をしてるんだろう。』と私はひとり言を云つた。『彼女は他の男を戀してる。此方だつて他の人を戀してやれ。併し誰を戀したものだらう。』私が戀の相手を探してゐた間ぢう、遠い所でこんな事を云つてるような氣がした。『あなたは私の代りに誰かに戀をなさいよ。戀して抱擁する二人の人、それはあなたと私とぢやありません。それが出來て。あなたは氣でも違つたの。』

『臆病者。』とデゼネエは私に云つた。『いつになつたら君はこの女を忘れるのだ。あの女がそれほど惜しいのかね。あの女に愛されるのがそれほど面白いかね。誰でも一番に來る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものを取るさ。』

『いゝや』私は答へた。『あの女がそれ程惜いのぢやない。僕は僕のする丈けの事をして、あの女を此處から追つ拂つたぢやないか。君は何を云ふ積りなのだい。僕はたゞじつと氣を休めてゐ度いのだ。鬪牛に傷づいた牛は勝手に行つて、鬪牛士の劍を肩に刺されたまゝ何處か隅つこに寢てゐゝのだ。而して平和に命を終へてゐゝのだ。僕は何をしなければならないのか云つて呉れ。君の一番に來る人つて何處へ居るんだ。晴れた空と、樹木と家と、話したり、飮んだり、歌つたりする男と、踊る女と駈ける馬と、君は斯んなものを僕に見せて呉れなければならない。それはみんな人生ぢやない。人生の空鳴なのだ。行つて呉れ。而して僕をじつとさしてゝ呉れ。』

第五章

もう迚も私の失望を癒すものはなく、私は誰の云ふ事も聞かねば、部屋から一歩も足を蹈み出さないといふ事がデゼネエに分つた時、彼はこれは一大事だと考へた。私はある晩彼が眞面目な樣子をして來たのを見た。彼は私のをんなの話をして、それから言葉を續け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て彼の思ひ出せる丈けの女のいろんな惡い事を話して、それで私を茶化そうとした。彼が話をしてる間、私は片肱をついて、寢床の上に起き上つて熱心に彼に耳傾けた。

それは吹き荒さぶ風が死にかゝつた人の唸めき聲のように響くある暗い晩であつた。細かい雨が窓に打ちつけた。鳥は籔に隱れて市街は空になつてゐた。私の傷は私を苦しめてゐた。つい少し以前まで有つてゐたをんなと友達を私は失つた。をんなは私を欺いた。而して友達は私を病氣にして了つた。私はその時自分の腦髓を通りすぎるいろんな者を一々はつきりと解釋する事が出來なかつた。時によると自分は何か怖ろしい夢を見てるのぢやないか知ら、而してたゞ自分の眼を閉ぢてさへゐれば翌朝は幸福に目をさまされるのざやないかとも思はれた。又或時は自分の生涯がたわけた子供つぽい夢のように見えて、その夢のうそが分つて來たようにも思はれた。デゼネエはランプの近くに私と向き合つて坐つてゐた。彼は絕えず微笑を湛へて、大眞面目な男であつた。彼は氣立ての優しい男ではあつたが、輕石のように趣味が枯れきつてゐた。あるませた冒險をしたゝめに、年に似合はず禿げてしまつた。彼は人生を知つてゐた。而していつも泣いてゐた。けれど彼の悲しみは甲羅を張つた。彼は唯物論者となつて、死を待つてゐた。

『オクターヴ。』彼は私に云つた。『君のやつてる事を見ると、君は詩人や小說家の描いた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ような戀を信ずるのだねえ。君は言葉を信ずるので、行爲を信ずるのぢやない。それは正確な方法で推理しないから來る事なので、君にひどい煩悶をさせるのだ。

『詩人は、彫刻家が美を象つたり、音樂者が諧調を創作したりする通りに、戀を描き出すのだ。即ち衆にすぐれた神經質な組織を惠まれてゐるので、彼等は人生の中で一番純潔な元素、物質の中で一番美しい線、自然の中で一番調和した聲を手際よく熱心に集めるのだ。こんな話がある。アデシに綺麗な娘達が澤山ゐた。プラクシテレス（譯者註、プラックシテレスは希臘の有名な彫刻家）が次ぎ〳〵に皆んなその美を拔き取つてしまつた。而して後になつて、これ等の相異つた美からみんな欠點を埋め合して彼は何一つ疵のない無双の美を作つた。而してヴィナスを創作した。初めて樂器を作つて音樂と云ふものに律呂や調節を與へた一番最初の人は、はじめに長い間芦のそよぎや鳥の歌を聞いてゐたのだ。それと同じでようく人生を知つてゐる詩人は、幾らかの多少果敢ない戀を見たり、或深さまで熱情の崇高になる樣を感じたりした後で、人間の本性からそれを貶しめるものを切り去つて、時代から時代へかけて人間の唇に上る不思議な名前をこさへたのだ。――ダフニスとクローエ。ヒーローとリアンダー。ピラムスとシスベと云ふようなものがそれだ。

『現實の人生に彼等のような永久の絶體的の戀を求めるのは、ヴィナスみたいな美しい女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を大通りに探したり、ベートォヴェーンのシンフォニーを歌ふ鶯を聞き度いと望むのと同じなのだ。

『完全と云ふものが存在するものぢやない。それを了解するのは人間の智識の智利である。その完全を自分のものにしようなどと望むのは、人間の一番危險な痴愚である。君の窓を開け玉へ、オクターヴ。君には無窮が見えないか。君は大空に何んにも境界のない事が分らないか。君の理性が君にそうだとは云はないか。併し君は無窮を信ずるかい。君は昨日生れて明朝死ぬる人間でありながら、終りのない物に對して、何かの思想を持つ事が出來るかい。此無限と云ふ光景が、世界各國に一番多く發狂者を生ずるのだ。宗敎は其處から生ずるのだ。ケートは無限を所有したいためにのど笛をかき切つた。同じ理由で耶蘇敎徒は自分達の自體を獅子にやつた。ユグノー(中世期佛國の新敎徒)はカトリック敎徒にやつた。世界の人間は皆んな無限の空間に向つて彼等の手をさし延ばして、その方に自分達の身體を投げ度いと願つてゐる。狂人は大空を自分の物にし度いと望んでゐる。賢人は無限を讃めたゝえて跪まづく事はするが、併しそれをわが物にしようとは思はない。』(未完)

野上彌生子譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青き疊 ―武山英―

淋しさはいづくよりわれにまつはるや眼閉づれば眼瞼（まぶた）のあたゝかき感じ

繪草紙の中の動かぬ人のやう君のこゝろに殘るわれはも

うるさくもわれを呼ぶ母のこゑをきゝ冬の夜空をあふぐ庭かな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふるとしもあらぬ夕べの雨の脚見守りてある
無事なるこゝろ

部屋に入りてふすまたつればうら安きこゝろ
になりておもふ來し方

樹をゆすれば熟れし木の實の地に落ちぬあゝ
柔らかになつかしきひゞき

ふるき部屋に靑き疊をひきかへしことよりも
のいはずなりし母と子

窓際に午後の陽をうけてそりかへる黄なる表
紙をひらき見るかな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この部屋にこのまゝにあることのならぬやう
思はれて立てる夜のわが影

人々のそしりの的(まと)にならむとて着飾れる夜の
わがすがたかな

すべてものゝしづまりてある夜半のひと時、
あゝ心地よき夜半のこの時

母の袖にかくれしことなどふとおもひ意氣地
なくしばし泣き入りしかな

女といふせまき型(かた)よりいでがたき身にいとし
くもめぐれる運命

たそかれの電柱に鳴る風の音さびしくきゝて
門を入るかな

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

巴里雜詠　―與謝野しやう―

巴里(パリイ)の宿の朝寢髮、
しろい象牙の細櫛で
梳けばほろほろ、あさましく
昨日も今日も落ちること。

君に見せじと、物かげに
隱れて梳けば、わが額(ぬか)の
鏡にうつる靑白さ。
身のすくむまでうら悲し。

巴里の街の橡(こち)の葉は

はや八月に散りかかる。
わたしの髮もこの國の
慣れぬ夜風に吹かれたか。

いいえ、それとも、惜らしく、
しろい象牙の細櫛が
鋸となりて擦り切るか。
戀を貪るこらしめに。

または悲しい人の世の
命の秋の入口に、
わたしも早く著きながら、
眞夏の花をまだ嗅ぐか

梳けばほろほろ、堪(こら)へかね、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昨日の戀が、今日の血が、
明日(あした)の夢が泣きじやくる。
からんだ髮を琴にして。

心ひとつは若々と、
かをる油に打浸り、
死なぬ焔を立つれども、
ああ灰のよに髮が散る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新らしき望多き地へ――シェンキウイッチ――

一、

大西洋の波の上をハムブルグを出て紐育へ向つてる獨逸の汽船ブリューヘル號は今浮んで行く。

海て出てから四日目であつた。此の二日間にアイルランドの縁りなす海岸を横に見て大洋へ出て來たのであつた。目の達く限り擴がつてる灰蒼色の水面はうねりを打つていとも重げに動搖し、泡立ち、遠い方は黒く光つてゐた。

時々雲からの反射は水の上に落ちた。その輝いた背景の上に汽船の影はくつきりと浮び出た。西へ向つて行く船は、寄せ事る濤の頭に乘り上げてそれから溺れるのではないかと思はれる程海の中に沈んで行くのであつた。時には全く眼界から沒し去る、時には龍骨の一部が見られる程高く濤の頂に上げられる、が絶えず撓まず進んで行つた。船は卷き來る濤に向つて行つてそれを艇で碎いで行くのであつた。船の後には泡立つ水は巨大な蛇のや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うにうづを巻いて居た。空にけたゝましく叫き交はす鷗(かもめ)は船の行く手に從つて行つた。風は涼しく、船は眞帆をかけて半ば流れにそうて進んで行つた。天氣は益々好くなるばかり、所々雲の切れ目に覗く碧空(あをぞら)は始終その形を變えて行くのだ。ブルユーヘル號がハムブルグ港を出帆してから強風に遭つたのみ、嵐ではなかつたのだ。微風(そよかぜ)は今西に吹いてゐる、時々止んで終ふ。そうすると帆はバタバタと動搖して白鳥(はくちやう)の胸のやうにふくらむで來るのであつた。青い、毛のスウエッターを着た水夫は低い方の帆桁の綱を引つ張つて、「ヨーホイ」「ヨーホイ」と叫び乍ら歌に合して身體を曲げたり延ばしたりした。歌は水夫長の笛子(よびこ)や烟突のうなり聲と混合(まじ)るのであつた。

船客(きやく)は天氣がよいので皆甲板(デッキ)に出て居た。船尾(とも)の方に黒い外套や上等室の船客帽が見え船首の方には下等室からの樣々(さまざま)の人々が群(む)れて居た。短い煙管(パイプ)をくはへながらベンチに腰をかけてるものもある。寢ころんでるものもある。欄杆に凭(もた)れて水面を凝視してるものまあつた。

五六人の女は皆腕に小供をかゝえて帶にコップをつけてゐた。若い男たちの中には船首と船橋(ブリッヂ)との間を足踏みしながら危く中心を取つてるものもあつた。そして口々に「母國獨逸(ウオーイストダス)何れに行きし(ドイッチエバーテルランド)」と歌つて居た。多分彼等はその故郷(ふるさと)の地を再び見やうとは思つて居ないら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しかつた。けれ共少しもそんな事を苦にする様子も見えなかつた。

此の群れの中に最も可哀そうな人があつた。それは始終皆から離れてゐる老人と娘とである。獨逸語が解せられぬ爲め二人は外國人ばかりの中に入つて非常にさびしく思ふのであつた。二人はポーランドの百姓なのであつた。

老人の名はロレンツ、トポレと呼び、女はメリーと云つてその娘であつた。彼等は今アメリカへ渡らうとしてる途すがらなのである。そして二人は此の時初めて勇氣を皷して甲板へ出て來たのであつた。船暈で蒼白くなつてる二人の面には恐怖と好奇心とが漂やうてゐた。おづ〳〵しながら、乘り合ひの人々や水夫や船や盛んに烟を吐きつゝある高い煙突や甲板の上へ迄しぶきを飛ばせて行く大濤などを眺めてゐた――そして口をきかうとはしなかつた。ロレンツは片手で欄杆につかまり隻手で四角の妙な風の帽子を風に飛ばされぬやうにしつかりと押へて居た。メリーは父に寄りそうて立つて居て船が傾く度に恐ろしそうに微かに打叫んで父の身體につかまるのであつた。不意に老人は恁う云つた。

「メリー」。

「何です、お父さん」。

「何んなだ」。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「え〻」、

「驚いたか」。

「え〻、全く」。

けれ共女は驚いたよりも一層恐ろしがつてゐた。トポレ老人もそうなのである。幸にも浪は益々靜かになり、風は止み、太陽は雲を破つて出て來た。二人は此のお太陽様を見たときリピンツで見た時と全く同じなので稍々心安らかになつたのである。總てのものは二人には新らしく見知らぬもの〻みになつたのに、唯あの圓い光り輝いてる太陽だけが昔の友達で亦守護神のやうな氣がしてゐるのであつた。

海は一層滑かになつた。間もなく帆がバタ〳〵とあをり立つて、船長の信號の笛が船橋から響き渡ると水夫等は帆を卷かん爲めに走つた。水夫等が底知れぬ水の上に釣り下つたやうになつたのを見てトポレと娘は再び驚きの目を見張つた。

「俺らの國の奴にや能きない業だ。」老人は云つた。

「獨逸人が登れるんならジョンにだつて登れますよ」。とメリーは云つた。

「何方のジョン――ソベクか」。

「ソベクなどか何うして。馬丁のスモラの事ですよ」。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「ありや悧巧な奴だ。けれ共お前はもうあれの事なんか忘れなきやいけないよ。お前はアメリカへ行つて貴婦人になるのに、彼れは矢張り元の馬丁じやないか」。

「あの人は幾らか財産を持つてゐましたよ」。

「持つて居たつてそれリピンツでの事さ」。

メリーはそれには答へずに逃れ難き運命を考へた。そして深い溜め息をするのであつた。その中に帆は巻かれ、スクリユーは水をかき廻し始めたので。船全體は顫えて來て、大きな動搖だけは止まつた。水は遙か遠く迄滑かで蒼々として居た。甲板へ出て來る船客は增して來た。職工や獨逸の百姓や、諸處の港から出て働きに行くのではなくて快樂を求めて歩いてる怠け者などが居た。甲板は非常に混んで來たのでロレンツとメリーは人の居らぬ方を探して、船首に近い隅の方の巻かれてある綱の上に坐つた。

「御父さん、私達は何の位海の上に居るんでしやう」。とメリーは尋ねた。

「何うして俺が知るものか。此處等に居る人に尋いて御覽、邪教徒あつかいにされるから」。

「アメリカへ行つたら私共は何うして口をきゝましやう」。

「俺等の國の人が大勢彼處に行つて居ると聞いたじやないか」。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「御父さん」

「何んだ」。

「御父さんが何と云つたつて、私は矢張りリピンツの方がいゝやうな氣がしますわ」。

ロレンツ、トポレは默つて考へた。自分は何故にアメリカへ渡るのだらう。何うしてそうなつたのだらう。

六ケ月前の此の夏、彼の牛は隣りのオランダゲングの花畑の中へ飛び込んで行つた。隣りの人はその牛を捕へたまゝ質に取つて置いて三ルーブルの損害賠償を要求した。ロレンツは拂ふのを拒んだ。二人は法廷に訴へて、その裁判は長延いた。隣りの百姓は賠償の外に牛を飼つて置く費用をも要求するやうになつた。そしてその費用は日々増して行つた。ロレンツはそれ等の要求を不當だとして、どうしても頑固に金を出すのを諾はなかつた。彼は引つぱり延ばされて行くその裁判に非常な費用を使はねばならなかつた。牛の費用は愈々毎日増して行つて、揚くの果がロレンツの敗訴となつた。彼は牛に就て非常な多額の債務を負つて終つた。それを償ふ金錢はなくなつて了つてるので彼の馬は取られ、彼自身までも捕はれの身となつて終つた。トポレは此の困難をきりぬけやうと一生懸命に努めたが、穀物を收獲するには馬も自分自身勞働も必要であつた。彼は穀物を收り入れるべき時期

を失して了つた。雨は降つて來て、穀物は滑車輪の中で發芽して居た。牛から被むつた少しの損害が、延ひて自分の收獲を無益にし、財産を棒に振つて終ふやうな始末となつて、彼は此の冬に於ける饑餓が目前に迫つてるのを考へた。

彼はかなりな百姓になる望みさへ今は失つて終つたので、酒に浸るやうな事になつた。そして居酒屋で一人の獨逸人を知るやうになつた。その獨逸人は表て向きは麻買ひだと云つてるが實は移民汽船會社の社員なのだ。彼はアメリカの不可思議な事、驚くべき事などを詳しく語つた。其處へ行けば無料で資本なしでリピンツの一番大きい農場よりも、つと廣い土地が——而かも森林も牧場もついて——得られると彼はロレンツに受合つた。そのとき百姓の眼は前途を豫想して光つた。彼は獨逸人の言葉を信じた、が倘ほ疑つて居た。所がその獨逸人と一緒に來た猶太人の牛乳商人が、アメリカ政府は誰にでもその人の使ひ得られるだけの土地を下附するのだと云ふのであつた。そして猶太人は自分の甥から聞いたのだと云つてゐた。又獨逸人の男は、百姓否地主でさへも未だ曾て見た事もないやうな大きな澤山の金の束を見せびらかすのであつた。ロレンツは遂々誘惑され、生け取られて終つた。何うして彼が此處に止つて居る事が能きやう。牛から負はされた災難がなかつたならば、未だ此の誘惑に對して彼の味方となつて吳れるものがあつたのであらう。彼は已

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が身の敗滅して行くがまゝにして居られるだらうか。杖を手にして教會の傍の物乞ひのやうに

「聖なる〳〵天使のやうな奥樣、

貴女の上に、神よ惠あれ」。

と唱ふ事が彼に能きるだらうか。そんな事は彼には耐へられぬ。彼は獨逸人と手を打つて、皆にはミケル祭りに行くと云つたまゝ娘を連れて家を出た――そして今アメリカへの途上なのである。

旅は彼が豫期した程愉快なものではなかつた。ハウブルグで所持金の大部分をぬすまれてた船の中では下等船客の群りの中に押しこまれた。船の動搖や限りなき廣大な大洋に彼は只恐れた。誰も自分の言葉を解して呉れ人がない、亦他人の云ふ事も自分には解らない。彼は荷物のやうなあつかひをされたり、道端の石のやうに突き飛ばされたりした。獨逸人たちは彼を嘲弄した。食事の時間には彼等は皆、錫の器を持つて行つて食物を分配してる料理人に迫る時、彼は押し除けられて一番後にされた。だから時によると腹一杯の食物を得られないで腹を空らして居る事もあつた。此の蒸汽の上では彼は心元ない寂しい、悲しい思を感じた。神より外には自分を思つて呉れるものはないんだと思つた。娘の居る前だ

けでは彼は力めて愉快氣に見せやうと、帽子の一方を立てゝ見たり、新らしいものに遭ふ毎に娘に見せてやつたり、事毎に驚いた風をして見たりした、けれども心中何も依るものがなかつた。不圖すると、彼は恁んな事を思つて恐ろしくなつた。此の「邪敎徒の奴等」は――彼は乘り合ひの人々を斯う呼んで居た――自分を海の中へ拋り込む氣じやないかしら、自分の宗敎を變ると或は何か紙に、若しかするとシログラフに迄も署名しろと――斯うして俺の心を惡魔に賣れと――嚇かしはしないだらうか。

日夜、船は底知れぬ海の上を進んだ。――搖れて吼つて、泡の立つ程水を引つ搔きまして、惡魔のやうな呼吸をして、夜は怖ろしい火花の尾をさへ長く引いて進んで行つた。だから彼には此船が譯の解らぬ程怖ろしい強いものゝやうに思はれた。斯んな小供のやうな恐怖は彼は口に出して云はなかつたけれ共始終心を苦しめて居た。實際、住み慣れた古巢から離れてきた此のポーランドの百姓は只神の保護のみの下に置かれた、誰もかまいてのない小供となつて終つたのである。彼の頭や心は見たり感じたりした事を皆記憶へきれなかつた。彼が卷いた綱の塊の上に腰かけてる時、その頭が重き心配や不安に襲はれて次第にうだれてくるのは少しも不思議はないのだ。海風は幾度も繰り返して「リピンツ、リピンツ」と彼の耳に囁く。時にはポーランドの笛のやうに鳴るのだ。太陽は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「御機嫌如何です、ロレンツさん。私はリピンツに居ますよ」。と話しかけるのだ。けれ共プロペラの水かきは激しく水を掻き廻はし、烟出しは煙を雲のやうに吐たいた。そして此の二つは惡魔のやうにリピンツから益々遠くへ彼を運んで行くのであつた。

その中に、メリンは他の思想、他の記憶に煩悶するやうになつた。その思想記憶は船の後に續くクリーム色の船跡のやうに、飛びかはす鷗のやうに何處迄も彼女を追求した。出發する少し前、此の秋の或る夕晩くリピンツのあの古い井戸に水を汲みに行つた事を思ひ浮べた。最初の星が空にまばたいてゐた。バケツに水を汲みながら娘は歌つてゐた。

馬を洗へるジヨンと、

水汲みあぐるカシア。

その聲は南へ移住する前に寂しげに囀る燕のやうに悲しげであつた。その時暗い森の方から馬丁のジヨン、スモラの直きに來る事を知らせる相圖の長い口笛が聞えて來た。間もなく馬蹄の音は響いてきて、彼は井戸の所へ乗りつけ、馬の背から飛び下りた。その麻のやうな髮の毛は顫へた。——そして今も、彼の云つた言葉は娘の耳には音樂を奏でるやうである。娘は今目を閉じた。スモラがその打ち顫ふ聲で自分の耳に再び囁いてるや

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うに思はれた。

「若しお父さんがどうしても肯かんのなら、俺も此の仕事を止め、俺の財産を片付けて、そしてお前と一緒について行かう。メリー、お前が何處へ行かう共私は、鳥のやうに空をかけり、鴨のやうに水を渉り、金の環のやうに道路をころがつて行つてお前と一緒に居るつもりだよ。俺はお前と離れて何うして居られるものかお前の行く所に私もついて行く。お前の運命は俺の運命だ。一緒に生きて一緒に死ぬんだ。そして此の井戸の處で私は誓ひを立てるからには神も私の思ふ通り戀人メリーを私に許して下さるだらう」。

此の言葉を思ひ起し乍ら女は、その井戸や樹木の梢にかゝつてる大きな赤い月や生きてるやうなジョンの姿を見て居た。

斯んな思ひ出は女の氣を輕くし其心配を安めたジョンは斷乎とした青年であつたから自分の言つた事は必ず實行するに異いないと娘は思つた。今娘は、彼が自分の傍に居て、一緒に悲しい海の響きを聞いて居て呉れたらと願ふのであつた。そうすれば彼の何者も怖れず自ら所理して行く事の能きる人であるから、娘は何んなに悦び幸福に思ふのであつたらう。多分初雪が降つてるだらうと思はれる。今頃彼はリピンツで何をしてゐるだらう。斧を手にして森へ行つてるだらうか、馬の世話をしてるのだらうか。橇に乘つて使者をしてるだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らうか、氷の中に道を開いてるだらうか。娘の愛する人は今何處に居るだらう。娘は此處から、心の影にリピンツの光景をえがいてゐた。途上に氷る雪、黒い裸木の枝の間に見ゆる赤い空鳴き騒ぐ鳥の群れ、空に立ち上れる烟突の煙、氷れる河流、そて遙か彼方には雪のふりかゝつた森に夕陽が赫々と輝いてる。

アヽ！　自分は今何處に居るのだらう。お父様は何處へ私を連れて行くのだらう。見ゆる限り只水ばかり何ものもない。計るべからざる海原の上には青いやうな濤と泡立つ浪ばかり、その上に此の船が只一つ——路に迷ふた鳥のやうに、頭上は空、眼下は海原、吼ゆるやうな浪やヒユーと吹いて行く風の大きな叫び、そして船の先、遙か離れた彼方に、世界の端に——陸地が。

アヽ、ジヨンよ！　お前は何してそんな處に居る娘を見出す事が能きる。汝は鷹のやうに空をとんで行くか。魚のやうに水の中を泳いで行くか、そして汝はリピンツにあつて尙ほ娘の事を思つてゐるのか」。

太陽は靜かに西に傾いて海の中に落ちて去つた。濤の頭には輝く光が金鱗で刺繡されたやうに擴がつた。太陽は閃き、輝き、反射して燃えた。そして遙か日光の中に沈んで去つた。此の輝く道を進んで行く船は落日を追うて行くやうであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

――未完――

元、一二、一九、

増田初譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『王昭君』筋書―長谷川時雨―

―これは歌舞伎座の。中村歌右衛門のためにつくつてみた筋書です―

處　西の國

時　足利時代の初期

節　秋の末

光景　大内家の一族義澄の館
　　筑紫の千代松原

人物　大内義澄
　　弟　義行
　　姉　弓女の前
　　侍女　昭子
　　支那の使臣
　　八播船の勇士等

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大内の家臣等
同　侍女等
昭子の女の童

（人物の姓名など多少變更するとも、昭子の名はあらためず。
第一幕の、義澄舘は或日の夕暮より其日の宵迄。第二幕の千代の松原は其日の夜半）。
（大内義澄の宗族、九州の豪族たる大内義弘は、明と貿易の勘合印を多く持ち、海上に於ては足利將軍よりも覇を稱せり。其の一族にて最も所領少き義澄は、志激しき性にて多く國に在住せず、或時は南朝に馳せ加はり、或時は北朝の爲めに戰ひ、又或る時は支那の沿岸を嚴かして、國内に志を得ぬ憤を洩せり。それ故に住國のこと少く、從つて妻子なし。姉弓女の前も寡婦にて、九星を重く尊み、奥向きを預りて、萬事占によりて事を處理す。末弟義行志望廣く、才智あり、風姿清く、また風流を解し琵琶をよくす。侍女昭子は義行と相愛の女にて、稀なる美人なり。

第一場

西の國といふ心地を失はぬ豪放なる舘のつくりは、さほど華美ならねど、足利の末期の華

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

麗なりし好みを、幾分か癈頽したる屋作りにて、所領少きも富有なる趣きを示す。

幕あくと弓女の前は陰陽師と相對してゐる。陰陽師は今日の占のよくなき事を言ふ。然し乍ら義行の出立は今日が宜しかろうと言ふ、弓女の前も同意する。殿が今日お歸りになると、すぐ舍弟の御出立、心忙しなかろうといふと、弓女の前は、ついぞ姉弟うちとけて物語をする時もないと喞つ。そして弟達の心が、自分と年一年に離れて行つて淋しいといふ。都に行つて足利殿に仕へようかとも思ひ、大内家から招かれてゐるからそこへも行かうとも思ふが、二人の弟を見るものがないのでそれもできないと言ふ。義澄は廊下を廻つてきて、自分が久しく居ないうちに、言つけておいた建築が非常に立派に出來た、姉上のお差圖に感服するが自分の好みにも合つてゐる。然しあんまり住居を好くすると、腰が温つて武士が柔弱になる。弟がそれである。今向ふの離家の方へ行つたら、香木の薫がしてしきりに琵琶の音がした。何處へ行くのか知らないが、これから出立といふのに暢氣だ。自分には何よりも霜夜に摺れ合ふ鎧の音、楯に當る鐵砲の響が心地好いと言ふ。弓女の前は義行を辨護して、今日は何か大事の用で出立するさうだ。大方大內家へ行くのであろう、暫く歸らぬつもりで琵琶を彈ひてゐるのかも知れないといふ。義澄はそれにしてもよくこ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んな館に老込んでゐられると言ふ。

それは美しい女がある故だと陰陽師が告げる、弓女の前は困じはて、決して妾がみだらを許してゐるのではない、お前に妻も迎へぬうちに弟にどうさせるものが、あれはほんの風說であると打消す。そこへ義行がくると、琵琶なんぞ彈いてゐないで、出立するのに時間があるならば、兄弟一所に話を打ちとけてした方が好いと義澄が言ふ。いやほんの暫時の片身に置いてゆくために音を合せたゞけで、彈いてゐたのではないと言ふ。片身とは誰にするのだ、美しい女かと義澄が言ふ。美しいと言つても高が筑紫の果の汐風にもまれた女、置土產に及ぶものか。京へ行け、京へ行け、京にこそ美しいのがゐる。戰亂が續いたので、筑紫武士とてもどんな高家の姬でも望み得られるといふ。義行は高家の姬を望まないと言ふ。それでは唐に行け、そして帝王の娘を取つて王になれと勸める。王になるのは拒まないが唐の女に目はかけないと言ふ。それほど氣に入つた女か、それではもしやいつか日本の美女の似顏を明に送つた中に、奥殿の侍女のうちの一人があつたと言ふが、それかと義澄も氣にする、弓女の前は返事を言いにごす。

義行は弓女の前に、どうか私が出立する前に二人の仲を兄に賴んで許してくれ、婚禮は今とは言はない、兄に正妻ができてからで好いと言ふ。兄は自分は妻を何日迎へるかしれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない、待つてゐると女の年が老けようといふ。自分は女の平常を知らないが、妻として好けれぱ姉が許す筈だと言ふ。義行は姉にせまる。弓女の前は首をふつて、實はあの女は家に置きたくないのである、あの女とお前とは尅し合つてゐる。そして兄とお前とも尅し合つてゐるから不吉である。兄の星よりも女の星が強い、あの女が家にゐては、いつか兄弟の仲に不和ができはしないかと心配してゐたのが事實となつて、お前とたゞならぬ樣子である。それ故あの女を兄の眼にふれないようにしてゐる。ちよど今が事のきまり時故、あの女のことは思切つて、お前の留守のうちに暇を出さうといふ。それは余りむごひ、私はかなり長い旅をして來ようと思ふ、大内家へ行つてはくるが、それはほんの顏を出すだけである。女には唯それだけのことを話してあるが、それでさへ歎いてゐる。私にしても若しその女が居なければ歸つてくる樂しみがないから、も早これぎり歸らぬかも知れない、然しともかく私のかへるまであの女を留置くならば、王にはならずとも何かしら大きな手柄を持つて兄にも誇れるようになつて戻つて來ようと言ふ。さてはお前も雄々しい志を持つてゐる、海賊ともなれ、和冦とも呼ばれてこい、內輪喧嘩は京の武士にまかせておいて、唐、南蠻を荒して來いと言ふ、もしさうならば私がその女を出させないでおくと義澄が言ふ。それから兄弟盃を取交すことがある。そこへ奥から北夷の使臣が待つてゐると告げて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くる。兄は弟に別れの詞を交して去る。姉も先刻のことを繰返し繰返して去る。

義行一人になると、昭子はいそ〳〵と出てきて別れを惜しむ。義行は昭子に誓のしるしだと言つて盃をさす。歸つてくれば一家を起すのだから、もはや館の舍弟ではない、兄もない、姉もない。〇〇の國に住んでお前と女夫になる。姉は相尅だといふが、尅し合つたら二人が死ぬばかりだと言ふ。淋しい心を紛らすために昭子に琵琶を取つて來いといふ。昭子は朝夕馴れ親しんだ殿もゐず、その人の大事にかけた琵琶までも無くなつてしまつては、なんぼ眼に面影が殘るとは言へ淋しいと言ふ。さらばかへるまで我身と思ひてかしづけ、琵琶はお前に與へると言ふ。そこへ出立の時の迫つたといふ知らせがある。義行もいつになく名殘を惜しむ。昭子は倘更一日二日の別れの氣がしないと悲しむで、せめて中門まで見送らしてくれと言ふ、それは見つともないと言はれて仕方なしに別れ、伸び上つて後姿を見送つてゐる。

義澄があわたゞしく來て弟の名を呼ぶ、答がないので行つてしまつたかと問ふ。昭子がさうだと言ふのを聞いて歎息する。一大事、弟にちかつた詞が立たなくなつたと言ふ。昭子がおど〳〵してゐるのに氣がついて、お前は誰だと訊く。昭子と答へる。義行の手許にゐる女かと言つて女の姿に見惚る。義澄は昭子に弓女の前に來るように言へと命ずる。昭

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

子の去つた跡へ弓女の前が來る。一大事になつた、義行の愛してゐた女をあんな美くしいものだとは思はなかつた。姉上は酷い、義行が遣ると言つても弟との約束が立たぬから私が遣らぬと言ふ。姉がその譯をきくと、

日本の美女をくれたらば、勘合印を贈らうといふ約束をしたのを、貴女もおぼえてゐよう。それが今日只今事實になつたのである。兼て迸つてある、繪姿の女と引あはせて、船の都合ですぐゆくといふが困るといふと。弓女の前は、多年の望みがかなふのに、とやかく案じるのは弟義行への手前だけではあるまい。今の女がお身も氣にいつたのであらう。いはぬ事ではない、やつぱり占の通りである。お前は見込むと烈しい男であるから、家に屹度大事が起る。どの道泣を見るのならば、あの女も館の大事を身に引うけ、役に立つ方が、その身にも光がそふといふものであるといふ。昭子はそれを後できいてゐる。

義澄は望みも望みだが、今迄おぼえなかつた、人らしい情を知つたのも、あの女を見たからである。此戀を失つたらば、永久に某の生涯は淋しからうと思はれる。これはやらぬといふ、

弓女の前は、義澄を故父親そつくり力の權化だと思つてゐたのはあやまつてゐた。奥向の支配は自分の役故、自分の思ふように計ふといふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

義澄は姉を、心弱い女だとばかり思つてゐた事の異つてゐたのに驚く。信仰は恐しいもの、弱いものを強くするといつて座をしりぞく。

昭子は涙にくれ、とほうにくれてゐる。弓女の前はいさぎよく役にたてと進める。昭子はをしからぬ命ながら、戀を知つてからは自分の命が尊くなつた。預けられた人がある故、主君にも親にもあげられないといふ。

それでは兄に從ふのか、弟を殺させるのかと、弓女の前は皮肉に問ふ。義行をお前の爲に兄に殺させるのかと泣く。

昭子もさういはれると、二人一所にならら死ぬのもなんでもないが、さういはれると死なせたくないと答へる。

其處が考へどころ、家の爲、夫の爲、お前が身を犧牲にすれば、義行はどのように感謝するであらう。すればお前は戀人の胸に、いつまでも生てゐるのではないかといふ。昭子の心の動くのを見てとつて、弓女の前は、よく得心してくれたと一人できめてしまふ。

やれ南蠻の王の后になれの、出世である。何處の人情もかはらぬのといはれても、昭子の耳へははいらぬ、たゞ一目義行にあつてからの事と賴む。

と、弓女の前は、弟義行は戀にばかり生てゐる弱虫ではない。大望をもつて出ていつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

から何時歸るかも知れぬと、態と心强くいふ。

では望は絕た。仰せの儘にならふと昭子は觀念をさだめて答へる、さういはれると妾も實になさけなくなる。どうぞ妾を怨んで怨んで、怨みぬいてくれ。お前の親は、母は早く死に、父親は妾の夫と一所に戰死した。お前も二人の弟と同樣妾の手に育つたのなれど、二人の弟が大切である。何故ならば、大望を持つて早く戰死した、妾の父上や夫の志望を二人の弟によつて成就させたいからである。せめて情には、繪姿はお前のときまつてゐるが、もしや使者の眼で違ふことがないとも限らない、女達を大勢呼出して見る。もしそれでもお前ときまつたらば、何事もいはない、義澄にお前の髮へ餞の櫛をさゝせるからといふ。昭子もそれを領す。

灯をともしはじめると、衣服をあらためた義澄が使臣と連立ち、侍臣を從へて座につく。使臣は繪姿をもつてゐる。義澄は使臣にむかつて萬一の間違ひのないように、大勢の女を出すから、自身で繪姿と見くらべてくれといふ。

女達はとりどりの粧ひにて出でゝ、一人一人會釋して通りすぎる。最後に昭子が出てくる。使臣は昭子に指差す。義澄も、弓女の前も、昭子も、三人三樣の心地にて顏を見合せる。義澄は力なく立つて、花櫛を昭子の頭に挿させる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

使臣は昭子の手をとつて立たうとする。暫まて、最後り盃をせうと義澄がいふを、昭子はとめて、誓の盃ぢやといつたお人の、口をふれた盃が最後の盃となつた。もう妾は此土を離れるまで、水一滴も口にいれますまいといふ。せめて手紙をかく間といふを弓女の前が許さず、琵琶をといふので義澄が使臣にとらせにやる。

女の童が琵琶をもつて出て昭子の背に、赤き緒にてくゝらせる。弓女の前は、中前にて見送らうと、女子共を引連れて奥へゆく。

義澄は使臣にむかつておごそかに、日本の武士は嘘りをいはぬとよく言つてくれ。此女は只今となつては、勘合印はおろか、國にも、親にも、身にも代がたいものとなつたのであるが、約束を守つて渡すのであるといふ。又昭子にむかつては、お前を忘れないぞ、南蠻へいつれいつて詫る時がある。俺は一生大方無妻でゐるだらうといふ。

昭子はそれに答へず、義行の踏んでいつた土をふんで、此庭から出立せうといふ。

道具が廻りかけると、義澄はものうげな面もちにて高欄に立ち、昭子のゆくを見送つてゐる。

中門が下手の奥の方にある。萑がところどころに生茂つて、篝が焚いてある。侍女達は手箱や、衣裝をもつて立つてゐる。

弓女の前は來かゝつて、それは何であるかといふと、何の餞もしないのに、お使者の前へ出る前に、昭子樣からこの品々を頂いたが、今思へば虫がしらせたのかお形見となりましたと語る。若殿義行樣が御歸館になつたらば、此品でもお目にかけてといふのを、弓女の前は、とんでもない事、何事も義行にきかせてはならない。昭子のものは一品も殘してはならい。代りはやるから燃してしまへと、手をかけて篝の火のなかへ投込む。煙りたつ影に昭子は悄然と停んでゐる。燃てゆく火を眺めて無言でありながら、弓女の前の無情を怨んでゐる。弓女の前も流石にその風情に袖をぬらす。侍女等は絶兼て泣きながら昭子に取縋る。昭子は思ひかへして、煙の中をくゞり、影のごとくに中門を出てゆく。

第二場

筑紫千代の松原の一端。上下に枝振壯大なる松樹、上手に稍小高き砂山、後へ下りて波打ちぎはのさま、浪の音のみ高く水は見えず。陸（くが）も水の上も暗き夜なり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

炬火をもちたる異國の强者共に護られ、昭子は馬の背にたすけられてくる。後より女の童は勞れし足を曳きながら、おくれじと引添ふてくる。異國の男等は昭子の乘りし馬を止めさせる。

大内家より附添ひ來りし、位輕き侍臣は(義行の侍臣の一人なり)もう馬を止めさせたところを見ると、御乘船の場所も近いと存ずる。御先途を見屆けて、主君義行が御歸宅の時に、委しく申上げたいと思へど、それも叶ふまい。また此女の童にしても、もうこれからさきへはお附添ひいたす事は出來まい。貴女は何とも思つてお出なされぬ樣子なれど、弓女の前の仕方はいかにも酷すぎる。專制だと考へる。某は後になつて此事をきく主君義行の胸中を推して、實に無念至極である。貴女の御胸中もお察しする。もし貴女が、此怨みをかへせと仰しやれば、某は悅んで、屹度弓女の前に復讐をするといふ。

昭子は無念がる從者をなだめて、其志はうれしいがそれには及ばぬ。弓女の前樣はお家を思ふ一心で、妾の心まで推察して下さる餘裕がないのである。妾は馬上にあつて、屠所の羊とひかれてきながら、やつと弓女の前の心持ちを酌む事が出持るだけ考へられた。館を出る時には、自然の成行におされて、何事をも思ふ暇もなく、どうしても館を出てしまはなければならない氣がして出てしまつた。それ故義行樣戀しさと、身の悲しさと、弓女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の前の憎さ、うらめしさに、どの歎きが一番深かつたのかわからなかつた。今になつて心靜まつて見ると、やつとはつきりした悲しさをおぼえるのである。誰を怨むよりも、果敢ない宿命に生れた身をくやむのと、義行樣の懷しさに胸はたゞもう一ぱいである。然かも日本の武士は、國にも身にも代られぬものでも、武士は嘘言をせぬ證據に、一たんの約束の爲に昭子を渡すといつた、義澄のいさぎよい言葉も耳に殘つてゐる。妾は甲斐ない女、戀に生てゐるだけの女ではあるが、あの言葉をきいた故、義行樣に二度と逢へない處へやられてゆく決心がついた。と泣く〳〵語る。

童は昭子にむかつて、貴女樣の日頃の御氣質にも似合はぬのは、夷の手へ賣られてまで生てお出になるのが審かしい。私はどうもお前樣には御決心があるようで、今別れたらば、二度とお目にかゝれぬ氣がする故、どうしてもお別れは出來ないといふ。

夷の王の手に、あの唐の使の人から渡されるまでは死ねない。妾の命は大事である。我儘に死ぬ事は出來ない。どんな愁い思ひをもしのんで長らへてゐる。日の本の武士に嘘りをいはせるような所業をしては、大事の義行樣の面目にもかゝはる。と昭子の面には悲痛の色をかくせぬ。

從者も何といふ言葉もなく、童と顏を見あはせて、昭子の美敷心根に泣く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭子は異國の人を呼び、砂の上へ文字を書きて示す。異國の强者等は炬火を近よせ、互に低語き頷きなどして、暫く猶豫せよといふ旨を領し、一團にかたまりて立離れてゐる。

昭子は心を落附けて、來し方を見やり、無限の感に心で名殘ををしみ、心でないてゐる。

今の間に一言でも、義行へ書殘しておく事があるならと、女の童は紅筆と懐紙を差出す。が昭子に文はかけなかつた。筆をとれば思ふ事が千々に亂れて、前後不覺に取亂してしまふのである。館では堪へてゐたが、どうぞ泣かせてくれ、此身ほどの愁い思ひをうけたらば、男でも心が亂れるであらう。まして妾は女故もうたへられぬとなげく。

それにしても弓女の前は、いまはしい門火のように、殘した形見まで燃してしまつたと、又更に從者はくやしがる。

文に殘さずとも、形見はなくとも、二人の心は二人だけが知つてゐる。妾の眼のうちには義行樣が笑つてゐる、笑つてゐる。と夢を見し人のようなさまに昭子はうつとりとする。

さうは義行樣のお胸に響くやうに、名殘の一曲をと進める。

さらば、義行が此處へきた時に、嵐よ吹いて吹いて、松の枝をならしてくれ。そしたら昭子の心の聲が義行の耳へきこえるであらうと撥をとる。

從者は書きそんじて捨し文屑を拾ひ、懐に納める。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四つの緒の哀音は、夜隠の暗に廣がり消うせる。彈く女も聽くものもたゞ涙である。從者が爭ふのも、女の童がもつれるのも、止る方に力がないので、昭子は異國の男共に引立てられて去つてしまふ。二人はそれでもと跡をしたつて追つてゆく。

巨松の後から、すつくりと强氣な男が二人立出て、昭子の行きし方を見送る。二人は昭子の何物であるかを、今昭子主從の問はず語りにて推量してゐる。が、大事の前故女の事は捨ておかうといふ。此者等は義行と共に事を量り、共に事を起さうとしてゐるのである。合圖をする。

と、義行主從は旅裝束で、一本の炬火を賴みに足早に來る。七幡船の仲間になつて、大將と仰がれるのは、男子の本懷、年來の宿意であると義行はいふ。

男二人は、蹄盟の印に奉公する事がある。唐土の岸に近づくのをまつて、只今此海を出帆しかけてゐる唐船を分捕らうといふ。勇者達は勇みたつて、血潮をしぼつて飯あふ。

義行は馬の嘶を不思議がる。其處へすごすごと從者と女の童が來かゝる。女の童は義行を目ざとく見つけて縋りつく。童も從者もあまりの嬉しさと悲しさに口がきけないのである。

沖の方では唐船の出る貝の音がする。從者と女の童は足摺りをしてあせる。義行は女の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

童の肩にせる、琵琶の袋を見て驚く。從者は文屑を取出して渡す。（一度默讀）二度目につぶやくように讀みし義行は、決然沖の方にむかひ、死ぬなと呼ぶ。

八幡船の勇士の一人は、出船と叫ぶ、一人は笛を鳴らす。と、暗の海の方にあたつて、仲間の人の悦びの鬨の聲をあげるのがきこえてくる。

義行は會心の笑を洩らして、琵琶の袋を掻抱き昭子の乘り來りし馬を引出すにまたがり濱の方へ下つてゆく。勇者の面々もそれに從ふ。

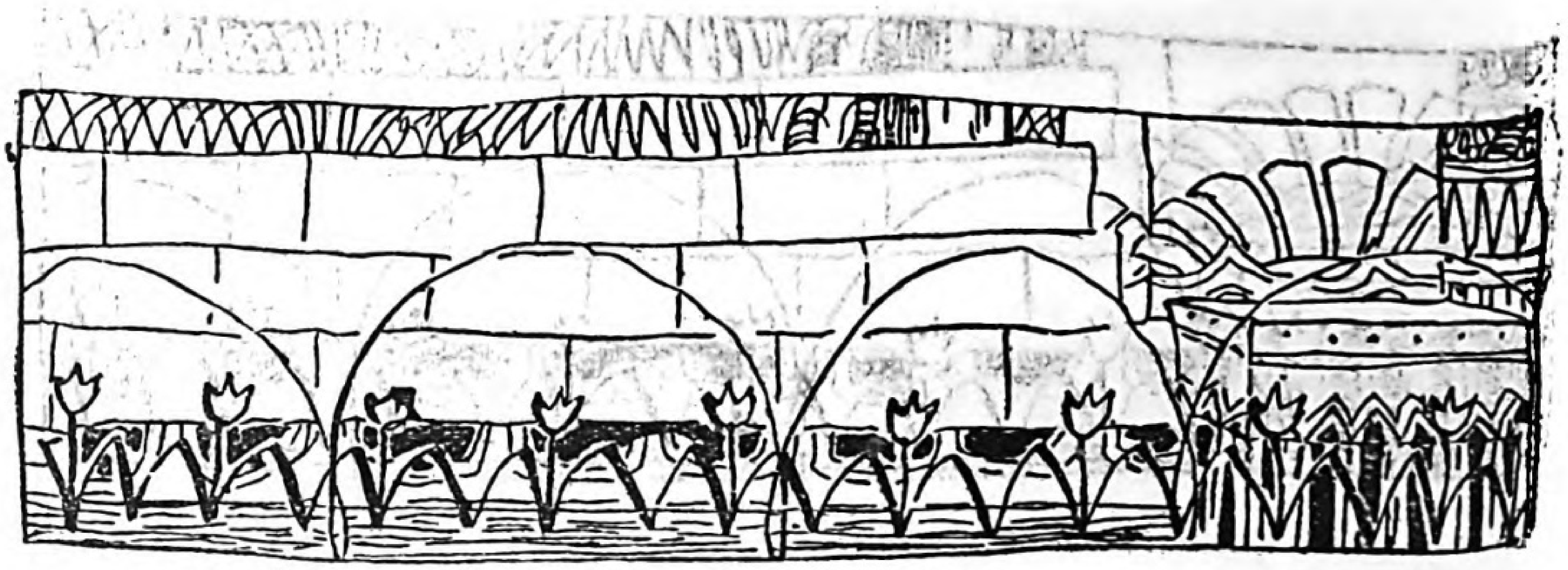
沖に唐船の貝の音きこえ、近き岸には鬨の聲起る。

女の童と從者は、足つまだて丶炬火に義行のゆきし方を見送る。

——幕——

締切りになる日なので、手傳つてうつしてもらつたので、抄りやくする手心がてんでばら／＼になり、誠に見苦しいものになつたのを讀んで下さる方へも、編輯の方へもおわび申上ます。

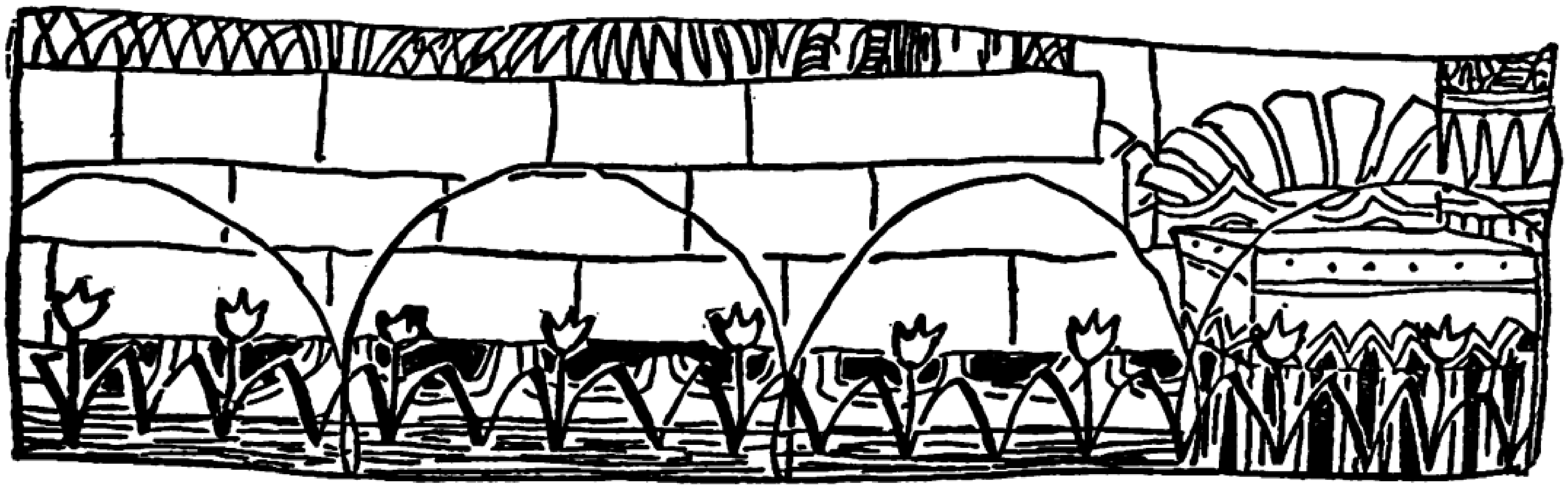
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



日常生活 ——茅野　雅——

君が與ふるままに我は生きむ。
春の日と、やさしき言葉と、
霜と、また甘き木の實と、
時ならぬ嵐と、雨と夜の吹雪。
若き血と心とを食む
幾人の子とを與へ給ふも、
をとなしく、しとやかに、言葉なく、
君が與ふるままに我は生きむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

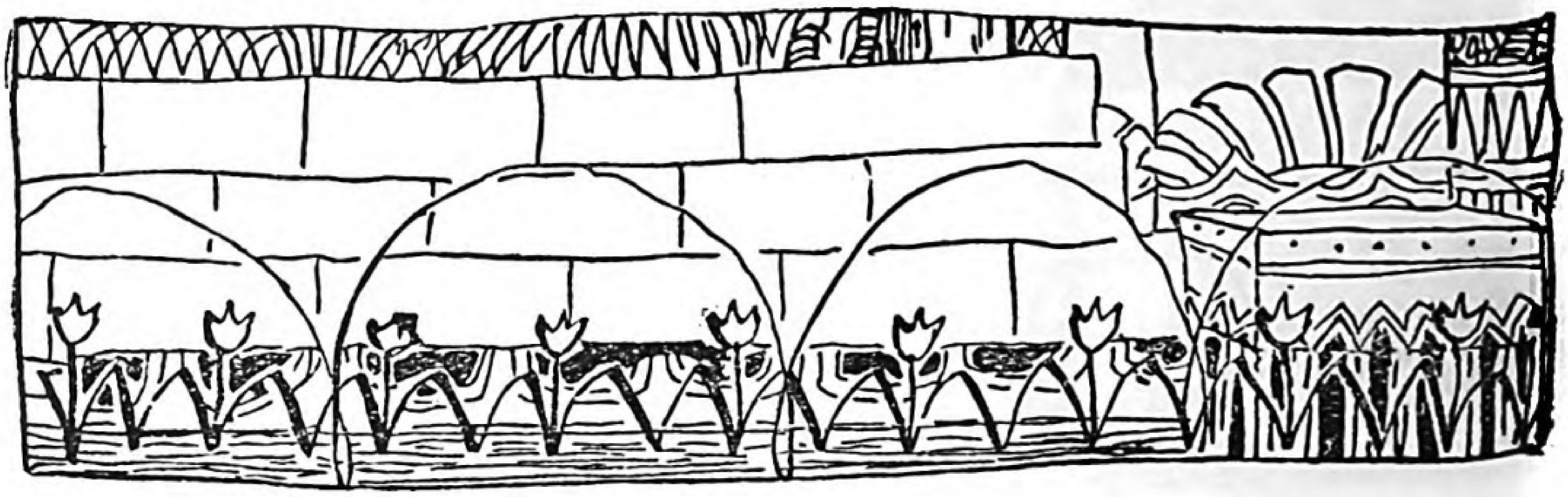


されど其時、
我がながす熱き、また、冷めたき
涙をば君は咎めじ。

さらにまた赦し給はむ。
淺はかのうばべ心に、
君が與ふる生活の、
いろさまざまの涙より

人世のまことの意味を、
深きこころを、
君が持たぬ寶石を、光を、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



私(ひそか)に我が集め拾ふを。
そは君にかかはらぬことなれば。

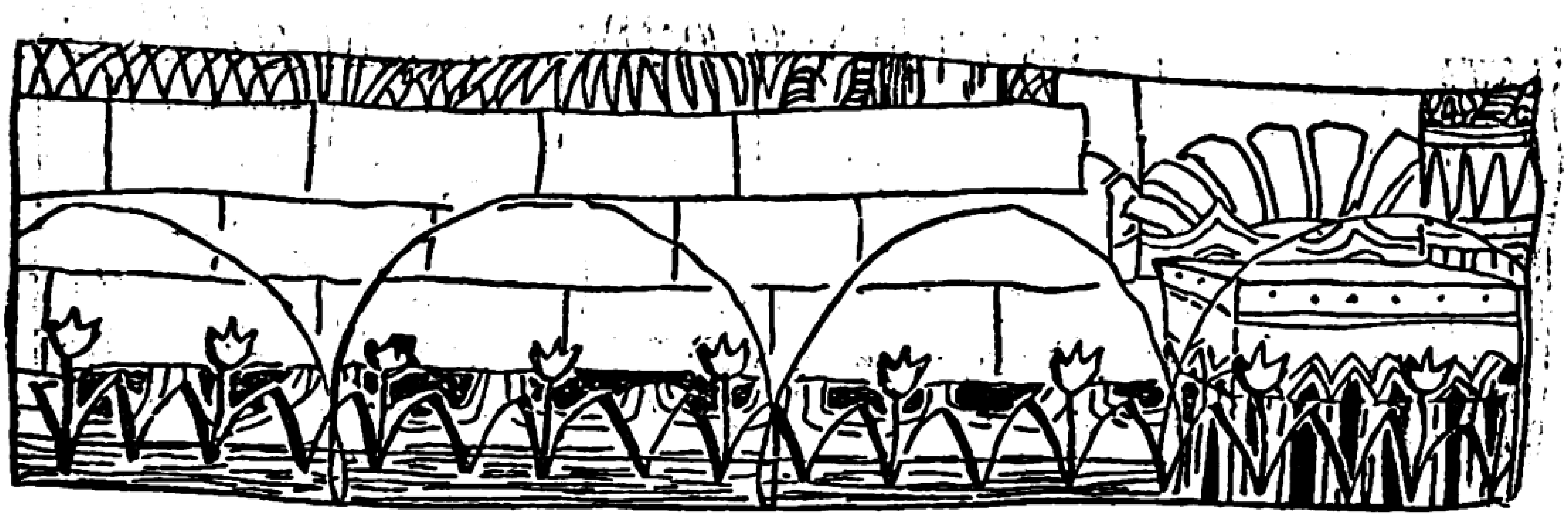
秘密

やはらかき我が皮膚の
妙にきざむ旋律を、

黒髪のしめやかに語る言葉を、
また、青き瞳(め)の細(こま)かなる味(あぢはひ)を、

女のみに神が與へし、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



顔の、手の、凡て身振の
かすかなる線の微動を、
如何でかの粗雑なる男の知らむ。
戀せざる男の知らむ。
この若き女の秘密。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひな鳥

—小笠原さだ—

一

其夜は殊におつとりと大氣が沈んで何かしら胸をそゝられる樣な物なつかしい晩であつた絹地に水をふくませた樣な柔らかな空氣の中に大地からは物を孵化する樣な温かな氣息が絶え間なく發散して、梢の芽はうすい木皮を破るかすかな音をたてゝ伸びてゆく……

暗らい階段を下りて來る時に女の手は不意に熱い男の手にしつかり握られた、女は思はずハッとして心がすくんで終ひそうであつた、こう云ふ場合にどうすれば好いのか途方にくれて終つたので仕方なしに女はじつと男のするまゝに任せておくより外は無いのであつた其でもあたりが暗い中なのと身動きもならぬ混雜さとによほど極の惡るい思をせずにすんだので女はわづかにホッとした。

けれども男のした事は決してそう突然なわけでは無いので二人はもうずつと〳〵前からの心安い間柄でそれに、互にこう云ふ機會の來るのを心ひそかにどの位待つて居たのか解

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らないのであつた。

互に長い間戰鬪準備をして心待に待つて居たのである、それだのに女は丸で見ず知らずの男にでも不意とこんな事をされた程に心があわてゝ終つて胸がハラ〳〵して耳朶が火の樣にあつくなつた。

階段を下りて終ふと其まゝ群集を離れて暗らい小道にずん〳〵進んで行くのだつたけれどいつ迄たつても女は唯じつと男のなすまゝになつて居る外一言も口をきかないので男は何となく相手が心の內に憤つて居るのでは無いかと不安な氣持がしてくるのであつた。

「おこつたの…………」男は耐らなくなつてそつと女の耳元でさゝやいた。

「…………」女はそれも默つて居た。

「おこつて居るの」

「いゝえ」かすかにこう云つた女の聲は今迄に聞いた事も無い程かすれた亂れた口調であつた。

二人はまた元の樣に默り合つて手をしつかりと握り合つたまゝサラ〳〵とかすかな水音の聞える小池のまわりを歩いて行くと不意に目を射る樣なイルミネーションのにぎやかな街が二人の目の前に表はれた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二人は其まぶしい光に體を照らされるとあはてゝ體を離して歩いた。華かな瓦斯の光に耀く色々な色彩や浮き立つ樣な音樂の音も障間もなくつめよつて居る群集も二人の心には微風が耳元をかすめて行く程にも感じなかつた、二人の心はしつかりと抱き合つたまゝ丁度水の中を早手を切つて突き集んで行く樣な心持で足早に此群集の街を横ぎつて行つた、そしてまた少し行くと常盤木のこんもりと茂つた所に出た。

と互の體は磁石に吸ひよせられる樣にぴつたりとよつて來て深かい梢にお丶われてなだらかな下り坂となつて居る長い間道を其まゝどこ迄もおりて行くのであつた。

其所はもう全く明るい街とは脊き合つて居てかすかに町のどよめきが二人の脊後から潮の樣に響いて來る外は森として人影もない靜かな細道であつた、二人はこんな小道があの華かな街の裏に通じて居樣とは夢にも知らなかつたのであつた、二人は今こうした所に出逢つたのが決して遇然では無い樣に思はれた。そして心密かに天に向つて感謝し度い樣な悦が胸一つぱいにあふれて來るのであつた………今は全く二人の外には人影も無い。

男はそつと女の肩に手をのせると

「ほんとに憤つて居ないの?」

「エヽ」

「じやほんとうね」

男はこう云ふと女の返事を待たずに女の首をしつかりと抱いた、温かな唇と冷たくふるへて居る唇とは始めて相逢つた。

始めての接吻を女は半ば夢心地でうけて居るのであつたが男の顔が自分の顔に近よつた時にそつと目を細めにあけて濃い紺色の空を見上げた。

兩側からおゝひかぶさつて居る常盤木の墨畫の樣な梢の間からは極くすみ渡つた夜の氣高い空の姿が眺められる銀の樣な星がチラ〳〵またゝいて居るのも夢の樣に思はれた、女は此夜程あの大空を高い〳〵處と感じた事は是迄にない事であつた、じつと大空を見つめて居る内に自分の心も次第に彼の大空の中に吸ひ込まれて魂はフワ〳〵と體をはなれてだん〳〵高く上つて行く樣な氣持がして來るのであつた。

女は久らくすると妙なはげしい目まいを感じて來て足が宙にぶらついて居る樣な氣持がしてきて立つて居られなくなつた、思はず男の肩にもたれかゝつた。

「どうかしたの、エ、氣分でも惡るくなつたの」

男は女の感情が激動してくるのを知つたので密かに心配してやさしくいたわつてやるのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「イヽエ、そうじや無いのですけれど………妾何だか不思議な様な氣持がして……」

女は切れぎれに云つた。

「何が？……僕とこうなつた事が不思議に思へるの」

「エヽどうしても不思議に思はれるわ」

「ちつとも不思議じや無いさ始めつから二人はこうなる筈だつたのだもの」

二人はまた靜かに歩き出した右手の涯の様にくづれかゝつた土手からは一面に木いちごのつるが道の上に下つて居る、そして星の様な眞白い木いちごの花は夜目にも見わけられる程ほんのりと匂ひ出て居るのであつた、傍のくさむらの中からは時折かすかな植物の葉のはね返る樣な音が聞えて居た。

「ね」、女は久らくするとひくい聲で云ひかけた

「何」

「私……夕べ夢を見ましたの………」

「そう、どんな夢」

「あの………」女は云ひかけてまた少し默つて歩いて居たつたが

「あの、今夜の様な處を見ましたの……やはり貴方となの、そして何だか丁度こんな小

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

道の様でしたの、それが眞實にはつきりとなんですもの」

「それは不思議だね、あの僕と二人で………」

「エヽですから妾今も夢の様な氣持なんですの」

男はこうした女の言葉を聞いて居るとまたはげしい戀の衝動を感じて平絹の様な女の頰に接吻した………。

「一生、變つちや否だよ、エヽきつと！」

「妾よりも貴方こそ………心配だわ」

其夜女は自分の室に歸つてからもどうしても眠る事が出來なかつた、夢じやなかつたのかしらとうたがつても見た。女は男の前では自分ながらおかしい程はにかんで許居たつたけれど一人離れてじつと床の中に横はつて居ると恐しく大膽な空想が渦の様に頭の中に湧き上つてくるのであつた。知らず〳〵のうちに女の頰には微笑の影がたゞよつて來るのであつた「あゝほんとうにうれしい」

女はひくい聲でこう云つて見たのであつたが此時程心から身の幸福を強く感じた事は今迄に一度だつて無いのであつた、此世のあらゆるものが美しい愉快なものに思はれて來た

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして極く取とまりの無いものではあつたが女が常にうたがひ考へて居る人生と云ふ女の目の前に霧の様になつてひろがつて居る其もの丶本體が今夜でもつてすつかり解決されて終つた様に女の胸の中はさつぱりとして終ふのであつた、此世のすべてのもの丶存在も戀の神によつてのみ始めて其意義が定められるのだと云ふ樣にも思はれて來た。

心は限りなく樂しく愉快でありながら耐らなくいら〳〵と寢苦しい樣で少しも安眠を取る事が出來なかつた。

「一生仲よく仕樣ね!」

女は一晩中暗らい細道と男の聲とでもつて呼び覺まされて居る樣であつた。

二

二人の間は全くすべてが都合よく過ぎて行く事が出來た、世間的なうるさい交渉は二人の間には少しもかゝわる事がないのであつた。

「まア、お待ちになつて?」

「少し待つた……どうしたの」

「お客が來て出られなかつたんですの」

女は男の姿を見つけると息を切つてあわてゝかけて來る事もあつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「待つてた？　いつ來たの」

「いゝえ、其程でも無かつたわ、十五分許り」

「それでも宜かつたね、出て來られて……」

男が外から一寸のぞいて見ると女は待合室に何氣ない風をして新聞などを讀んで居る時もあつた、こうした姿は郊外のステーションや靜かな木影などに時折眺められるのであつた。

二人はつれ立つて其所から電車にのつて遠くの郊外に出かけたり時にはステーションに通じた野道をどこ迄も〳〵歩いて行つたりするのだつた。

男が何よりも愉快に思はれるのは未だ女が何も知つては居なかつたと云ふ事であつた、そして何の經驗も無いのが可愛く思はれるのであつた、男は小鳥を馴らす樣に色々と敎育して見度い樣な不圖それにたかるい好奇心が起つて來たりした。

「何處に行こう」

「どこでも………でも妾今夜は少し都合がわるいんですの、直ぐ歸らなければならないのよ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「そう、そりやアつまらないね」
男は足の先をコツ〳〵土に打つけながら失望らしく云つた。
「切角逢つたのだから散歩位して行つても好いでせう、其位の時間は好いの」
「エヽ二三十分位なら」
入梅があけて間もない初夏の夕ぐれの空はしみ程の雲もなく晴れ渡つて居た。
大空は靜かに絶えず色を變へながらだん〳〵夜の色の中に溶けて行つた。
平和なさわやかな夕暮の氣は絶えず二人の胸をそゝつて居る。麥畑や大根の葉は新しい濃い空氣を精一つぱい吸ひ込んで活々と伸び育つて居た、畑にそつて少し行くと廣々とした野が一帶に目の前に展けて眺められた、遠くの西の果の森の上には未だ華かな夕暮の名殘りが彩どつて居たけれど大地は丁度凪ぎた海原の樣に紫ずんだ柔らかな色がどこ迄も果もなく廣がつて居るのであつた。
二人は柔かに濕り氣のある地をふみながら若葉の新鮮な匂のこもつて居る梢の下をゆつくりと歩いて行つた、麥の葉はうす暗い中にも香ばしい程あざやかな綠色をして女の裾や袖のふれる度にサヤ〳〵とかすかに鳴つた、女はもう輕るそうなセルを着て白い模樣のある帶が暗の中にほんのりと浮び出るのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「好い氣持ですね、散歩をするのは今時分が一番好い頃ですわね」

「好い氣持だね」男は梢の下のうす暗の中に浮んだ白い女の顔を美しいと思つて眺めたあたりに匂つて居る若葉の精が浮んで居る樣な顏の輪廓が暗の中に溶けて終つて露か霧がかたまつて出來た樣に女の體が不思議にすき透つて居る樣に思はれた。

「大變顏が白く見える」男はひくい聲でつぶやいた。

「そう、まわりが暗いからでせう」女はかるくこう云つが

「妾、貴方と夜も晝も一所に居たいわ、こうして居るんではほんとうに情けなくなつて終うわ」女はこう云ふうちにも感情が激してくる樣に男の胸にしつかりと顏をうづめた。

男は女にこんな事を云はれる度に妙に行ごまりの隅の方にだん／＼押つめられて行く樣な氣持がするのであつた。何爲女はこう結婚をしたがるのだろう、夫婦と云ふものがやがてお互の身をどう云ふ破目におとし入れるものだと云ふ事を知らないのだろうか。

いや此小供の樣な女には何も知る筈もない……………。

「ね、結婚なんて云ふ馬鹿な事はお互にしない事に仕樣ね、それはなぜだか今に貴女にも解る時が來るに違ゐない」

男は久らくしておだやかな口調で云ひきかせた、女は唯じつとうつむいて聞いて居た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三

女の心はだん〱時のたつに從がつて小供氣が少なくなつて大人らしくなつてくるのが男にはよく解つた。

女は今迄見る事の出來なかつた此世の影にかくれて居る色々なものを男を透して始めて眺める事が出來た、そしてそれらの新しい凡ての興味は女の體の中に眠つて居た感覺を一時に呼び覺して終ふのだつた。

若竹が一雨毎に伸びて行く樣に女の心はいちゞるしく肥え太つた、女はすべてのものを男から受け入れようとして居る。

男は女の心の變化してゆくのを興がつて居たけれども女に自分の心の裏をのぞかれる樣なのが不快であつた、そしてうるさかつた。

今迄通り小猫をじやらして居る樣にして戯れて居たいと思つた、が女はそう云ふ風に可愛がられるのをいつともなしに喜ばなくなつた。

でも二人の仲は別に變化もないのであつた、只始の樣な急激な火花のちる樣な感情の閃が少なくなつてゆるやかな波のひだの微動して居る樣ななだらかな調子になつた。

丁度深森にかこまれた濕地にある沼の水面が常に重々しく水銀をたゝへた樣な靜かさを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

保ちながら其水底には種々樣々な沈溺物が「おり」となつてたまつて居る、と同じ樣に二人の胸の底にもだん〳〵「をり」が溜つて行くのであつた。

道を歩いて居る時でも室の中に居る時でも絶えずさゝやき合つて居た二人は次第に言葉少なくなつて行くのであつた。

「何だか悲しい樣な氣持がして來てよ」。

「何故」

「何故ですか私にも解らないわ……………」

二人は薄白い月の光を浴びながら長い橋のてすりによつて黒ろい水の中に赤インキを落した樣に向ふ側の灯がチラ〳〵と映つて居るのをじつと眺めて居るのであつたが女は何とも知れず悲しさが胸一つぱいになつて來てどうしても氣が沈んで耐らなかつた。

「妾體が弱つたんでせうか、氣が沈で仕方がないんですの」

二人は涼し過ぎる程風の通つて居る眞白い橋を渡つて小意氣な造りの家の並んで居る池の端をぶら〳〵歩いて行つた。

「一つそ一所にならうか、こうして居たつて同じ樣な事さ」

男は不圖小ちんまりとした二人の住みそうな家の前を通るに一寸中をのぞいて見て戯談

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らしく云ふのであつた。

四

ステーションの時計はもう約束の時よりも四十分も過ぎて終つたのに其でも男は來る樣子も無かつた、女は幾度となく其近所を歩いて來たり待合室の入口に近かい處に腰をかけて出入りの人に氣をくばつて眺めて居たつたけれど中々男の姿は見えなかつた。

女は次第に心が苛立つてくるのを覺えた、一つそ逢わずに歸ろうかとも思つたりした。女は一人ぽつねんとして若かい男女が幾組となく開札口から出て行くのを眺めて居るといかにも其人等の心持が活々とした樂さに滿たされて居る樣にも思はれて一層自分の身の感情が荒んで行つてるのがはつきりと感じられて來るのであつた。ジツと目をつぶつて居ると色々な事が胸に浮んでくる、「二人の運命が高い〳〵頂からだん〳〵と深かい谷底にすべり込んで行く樣にも思われて來た、人生の春の悦びがまたゝく間に消えて行つて色も香も失はれた淋しい行末の道許が長く〳〵目の前につゞいて居る樣な氣持がした此まゝもう自分の魂の息吹を感じる事が出來ないのだろうか、女は今更の樣に最初の夜の有樣がはつきりと思ひ浮べるのであつた、最初の接吻、其程美しい高調なはりつめた心持を味はへる事が他にあろうか、魂は其悦に始めて聲を上げて地上にあるあらゆる物と語合事が出來る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のである。其時こそ此冷酷な自然も懐をあけて其内に入つて行く事をゆるすのである……

「もう歸ろうかと思つてたのよ、あんまり入らつしやらないんですもの」

「悪るかつたね、用事の都合でどうしてもぬけられなかつたんで」

其時はもう二人は人氣のない靜かな林の中を歩いて居るのであつた。男はあたりに全く人氣のないのを見るとそつと女を引よせてかるく接吻した、そしてじつと女の顔を探ぐる樣に見つめて居たが

「どうしたの、もう僕が否になつたの、興も味も無い樣な顔をして」

「いゝえ、そんな事無いわ」

女は餘義ない心持がした。

少し濁を帶びた黄色な午後の光は障子一つぱいに明るくさして居た。

室の中の空氣はすつかりかわき切つて茶ぶ臺の上や食べ物の皿の上などにはかるく埃が浮んて居る。

二人はだるい心持をしててすりによつて往來を眺めて居た、細い通りは絶え間なく人が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

行來して居るごむ輪がかわいた道を輕るそうにすべつて行つたりパン屋の箱車がガタ〳〵と音をさして通つて行つたりする、束髪やたばの長いいてふ返しの頭が上から見下すと可笑な形に見えた、向ふ側の駄菓子屋の店先で小供が五六人メンコをして遊んで居るのも面白かつた、二人はこうしたこせ〳〵した氣せわしい光景を不思議な程無關心な心持でいつ迄も眺めて居るのであつた。

女はいつかな男の手を握つて居た、そして默つてなつかしそうになでたりさすつたりして男の手を弄んで居たが彼の春以來の長い間の二人の姿がつく〴〵と思はれるのであつた。

「いつか聞こう〳〵と思つて居ながら未だ何にも聞かなかつたねヱ」

男は不圖思ひ出した樣にこう云ふと前の障子をぴつしやとしめた。

「何をですの」

「貴女は強情な人だね、どうしても聞かしてくれないの」

「あら何を」

「とぼけて……僕の前の好い人の事をさ」

まア、貴方こそわざとぼけて居るのよ……もう私お話する事なんか何にも無いわ」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「だつて若かい女が今迄に面白い話の一つ位はありそうなものじやないか」

男は心の心のどこかをほじくつて新しい興味が欲しくなつたのだつた、單純な明るい女は今は何となく物たらなくなつて來た。

女は腹立しそうな顔をして横をむいて終つた、冷やかに目を二人に見せて靜かに二人を離れて行く態の後姿を二人はあり〳〵と眺めて居るのであつた。

「別れろ」こう云ふ聲も二人の耳にははつきりと聞こえて居た――。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ホイットマン論 ―エリス―

一

ホーソン、ポオ、ブレットハルト及マアクツウエイン等の空想的作家をおく時に、米國は三人の世界的作家を有す。三者は同じき大陸の一隅に出で、各自他の階段となりしと共に、相互の空所をみたせるものにして、今その一を論せんに他を顧ずしてはよくすること能はず。

エマーソンはその最初に來る者にして、彼に於て清敎徒は二百年の沈默の後初めて聲をなしたり。バンバリー及マムステルダムの人々は彼等をみたせし歡喜と彼等の間に驚くべき力をもつて働きし精神とを、適當なる藝術的語法によりて表はすべく餘りに外見の世界に欺かれたりき。彼等は彼等の敵手の好餌となり、文學に於ては厭ふべき狂信者として我等に傳へられたりき。

ニューイングランドに運ばれし種子は、徐々として平和のうちに芽を出し遂に花を開き、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こゝに於て我等は健全なる自由と清敎の根底に潛みたりし神秘的狂熱の一致を見たり。六世の淸敎宣傳者の血を傳へられたる彼は、その冷靜にして峻嚴なる態度によりて、傳說の凡を打破し、その快活にして欣然たる懷疑に於ては「目前一個の世界は捕捉すべからざる二個の世界にまさる」べきを云へり。「過ぎしものを悟ることなき薔薇」を暗示せる冷靜なる音容と穩なる歡喜とをもつて、彼は宗敎、結婚、國家を審判すべき個人の權利を主張せり。而もスピノザ、ゲーテの如く、不健康の人に死を齎すべき自治の掟をもてその生を導き得しにも拘はらず、コンコルドの平和なる生家に於て、その主義の敷衍を常には認むること能はざりき。

エマーソンは考究の人たりき。彼には世界は目前の卓上に擴げられたる不分明なるカメラの如くにして、人類も自然も何等直接の交渉なく、寧直接の交渉の能ふべき餘地なかりき。

エマーソンと同じ風潮の下に生れて然も異りたる性格を供へ、原始的にして孤獨なる精神を有せしソーローは、世界に突出して、自然とその有する健康を吸收せんことを試みたりき。「余は生の物質的事實にのみ面し、安逸なる生を樂しみ、その敎へる處を學ぶにあら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ずして、單に之を見んことを希ひ死の底に至りては余が生きざりしことを發見せざらんことを欲したり。余は又生の樂しきが故に、生命なき生を欲せず、又必要あるにあらざれば、そを放棄することをも要せざりき」彼は「深酷に生き、且生の凡の精髓を吸收し、生命なき凡を打破し、强く、且スパルタ的に生き、生をその最も低き語限の度に於て生きんことを欲して、ワルデンウードに至りて茅屋に住み、鍬をとりて草木、鳥獸、魚介等あらゆるもの丶生活と不可思議にも親しみたりき。ワルデン池畔のこの自給の生活は、ソーローの全生涯を通じての逸話として注目せらる丶ものにして、實にニューイングランドの小都會にその全生涯を送り、鉛筆製造、敎師、測量師、雜誌記者、垣職人(フエンスビルヅング)、白塗職人(ホワイワシシング)等の職によりて、生活を得たりし人の生涯に於ては、疑もなき逸話の一にして、この經驗は又彼の生涯の活動と、彼に名聲を博せしその著書に形式と氣力を與へしものなるは疑ふ處なし。而もその經驗そのものに有りては勇士的行動のありしを見ず、或は單に彼の經驗は凡の敎育に對して、經驗の動かすべからざる位置を示したりと云ふ人あるも過言にはあらざるべし。凡の人はその若年に於て、短時期の間自身との融和せる關係に入るべく、自信の全範園を實現し、自然の寂寥のうちに只管自身の考案に倚るべく投げ出さるべきものなり。若し此經驗我等の爲に與へられずば、我等は少からざる不要の苦痛を苦まざるべからず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

バーロース氏が、嘗彼の爲になされたる尤も異れるその評價に於て、彼の祖先に溯りて考究を試みたるが如く彼の人格內には、狂熱と苛酷との不可思議なる混交ありき。家系に於て彼は佛人たりき。その祖父は私掠船の巡邏としてゼルジより來れり。「かの狂熱的革命の聲と、抑制せられたる一種の獰惡と、多毛質とは實に佛人の系」をうけたるなりき。されど母系に於ては蘇格蘭系にして、新英國淸敎派(ニユーイングリツシピユウリタン)に屬したり。丈短く、「巨大なるエマーソン型の鼻」と長き眉の下に落込みたる靑味を帶びし目、著しくすぼめる唇と小さなる腭、「さかしき正直なる動物を相起さしめる赫く日に燒かれたる顏」とを供へ、頗る健脚にして落ちたる双肩と、長き腕、短き兩脚、巨大なる手足は、大體に於て頗る似人猿の特長を有したり。その手は屢きびしく扼され、全身にわたりて精力の凝集せるを見たり。他に特長なく屢工藝品の行商人と誤られたりき。その友エマーソンの評せしが如く、彼は附加感官を表示せるが如き觀察力を有したり。「顯微鏡を用ゐて見るが如くに見、耳らつぱを用ゐて聞くが如くに聞き、その記臆は彼が見しことゝ聞きしことゝを、寫眞にうつせるが如くに記錄せり。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

尙彼はその嘆美者によりて、博物學者の冠をせられたりき。

彼がその性格内に、殆と理想的博物學者としての本質を有せしは疑ふべからず。その特種の觀察力と自然の事物を注意して記錄する習慣と、その耐忍力、戶外に於て數日數夜を送る別種の興味とは博物學者の要せし凡の要件に答ふべく思はれたり。かの解剖に對する病的嫌惡は果して如何の妨害をなしたりしか。如何となれば博物學に於ては、最も考究せられずして、然も尤も重要なるは實に生物の考究にして、之れ實に彼が最も多くの日子を費せし處のものなりき。彼は又鳥獸、魚類の恐怖を引き起すことなくして之に近付くべき驚くべき技能を有したりき。世には此種の人のみ有益に從事し能ふ驚くべき興味ある多くの探究あり。然も彼にはその智識の半はかくされ、學術的感覺に於て、彼は不完全たることを免れざりき。彼の赤裸々にして人格を有せざる觀察の記錄は、緩慢にして利益なき讀物たるに過ぎず。屢、偶然に巧なる觀察をなすことありと雖、その意義ある處を實視することは能はずして、未だ嘗之を確定し、追求することなし。彼の學術は徒なる小學生のそれに過ぎずして、事實と事實の間に於ける肝要にして組織的なる交涉、或はかゝる交涉の存在だに彼は知覺せざりしが如し。

今彼の著書をベルトの「ニカラグアに於ける博物學者」或はワーレースの著書の一に比

較せんに、學術的の人にありては、彼等の明細なる考究の精神に於て、凡の事實は敎訓を含めるものなるに反し、ソーローの手にありては、それらの事實は凡て死灰に等し。即ち彼は博物學者に非ずして、藝術家にして且道德家なりき。

文化の雰圍氣内に生れ出で丶、彼が大成せし偉大なる藝術は實に文章の構成なりき。その構造せんことを欲せし文章は、「述べんよりも遙に暗示にみちたる」「單に反覆するものならずして然もその建設の爲に人はその財寶をわたすも意とせざる創造的なる全紙に漂石の散布せられたる」が如き。又「羅馬の水道の如き永久的」なる文章なりき。然して彼は疑もなくその實に於ては成功して、彼の文章は、屢彼が到らんことを欲せし重大なる要素を備へたり。

然してこれらの要素は、彼にして若し型形の構造に若干の智識を有したらんには、十四世紀の寺院に於ける裝飾的なる尤も精好なるゴシックの斷片によりて示されたる、美と豪膽とそれに伴ふ自由を表現したるものなり。

彼は自然に於て尤も野生的なる最も慣らすべからざる物を愛したりき。彼の文章は崇高なる迄に古き褐色を含めるアララットの山麓、鵜の歌、或は最も彼を歎ばしめし、樂し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

き誇張家たる雄雞の鳴く音等の堅固に藝術化されたるものに外ならず。

ソーローの愛讀せるは希臘作家にして、ピンダー、シモニデス、グリーク詩集、特にエシラス、後世に及んでは、ミルトンを愛したり。これらに於て、彼の偶像崇拜の傾向、自然の原始的にして健全なる力に對しての尊崇を覗ふを得べく、よしその態度は謙遜なりしとは云へ、原始的にて純正にして、而も嘗キリストの存在を知らざるプラトー前の崇拜なりき。

同義に於て、たとへその融和を形成せし素質は少數なりしとは云へ、ソーローは自個との融和を樂しめり。彼の藝術に於けり峻嚴と興奮と單純なる偶像崇拜とは彼の道念に於けるそれなりき。その心髓に至りては、彼は正しく道學家たりき。彼が說きたりし道德は、我等にありては彼に關しての尤も意義あることなり。彼はその字の最高の意義に於て、大儒學派の人なりき。アンチセネスの學派は、ソクラチスのそれに比して、少しも興味少き學派ならず、彼はその派の產出せし尤もうるはしき花たりき。然して彼自身に於てはその學派との類似を覺らざりしならむも、今彼を論ずるに當りて、その觀念を有するは一の利益たらざるべからず。ダイオゼネスが人類の上に起せし妖力は、彼の特種の嶄新と創見ある智

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

能、法外の獨立と克己と、無骨にして然も有力なる機智によると思はれたり。ソーローはその創造力と獨立の精神と、卓絶せる内容に於てワルデンに同型なりしとは云へ、彼の智識は温和にその機智は決して無骨ならずして寧、屢非凡なる警句をなす絶え間なき諧謔に歩調をすゝめたり。自然と融和すべき生命、歡ばしき質撲、學術の道學に對する臣從とは實に犬儒學派の主義とする處にして、これ實にソーローの眞實ならんことを欲せし處なり。「毎日の日は余に取りては各祭日の如し」とダイオゼネスは云へり。メッロクレスは彼が波斯の王よりも幸福なることを祝へり。「天鵞絨の敷物に取り圍まれてあらんよりは、寧己れに屬する一個の南瓜の上に座せん」とソーローは云へりき。「庭に草花を栽培するが如くに貧を培養せん。………尤も樂しき時にありて、生は死屍に等し。………人の要する一のものを得るには金錢を要せず。

彼はコンコルドに屢旅行せり。「永遠にコンコルドの白楊の下に座するを得ば、世に野心なかりき」。ソーローの作を通して散在する是等の斷片は、純正なる美しき大儒派の主義を含めり。ダイロゼニスは彼の酒杯に男兒の口づけせるを見てより杯を捨てたり。ソーローはその客室の裝飾として鑛石の標本を有せしも、掃塵の煩に堪へずして、之を捨てたり。標本は遂にその煩の價値を彼には有せざりき。犬儒派の人々は奴隷主義の非自然なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を喧傳せし希臘(ギリシヤ)に於ける初度の人なりき。ソーローは余が認める一の主權は、「此土に正義を建設する權力なり」との下に、敎會及國家に納税せんよりは、牢獄に下されんことを欲したりしほどその獨立の範圍を擴張せしのみならず、千八百五十九年、ブルジニアに於てジヨンブラオンが獄に下りし時、その事件の重大なることを認めて、公然の彼の味方として立ちし米國に於ける一人の人なりき。「彼を見よ。稀有の品性を見よ。かゝる人をつくり、かゝる人を了解せんは多くの年月を要す。虚僞の勇者にあらず、黨派の代表者ならず。太陽の如く輝くかゝる人格は合衆國の暗黒には、再びあがることなかるべし。何人の爲に尤も高價なる尤も美はしき金剛石は造られしか。汝の贖主として獄に下されん爲なりしか。汝等の彼に要する處は單に汝等の縄の一瑞にかけんこと爲すなるか！」と彼は叫びたり。

犬儒學派の人々は道學家にして説敎師たりしことは疑ふ餘地なし。ソーローも又之れに外ならずして、之れ實に彼の大なる弱點たりし處なり。

……………………

自然の財寶の半以上は人なり。然もソーローがその尊き犬儒主義にも拘はらず、生を一隅によせし觀あるは事實なり。而も尙彼は凡の現象の間に有りて、彼の種族ほど神秘的に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して觀破しがたきものなきことを自白せり。「人の全責任は一行にて盡く。即汝自身を完全なるものならしめよ」と云へり。而して之れ又純正なる智的直覺の觀あり。

彼は我等がとるに足らずとして論ずることをはゞかる性及凡の動物的本能の純潔に對して美しき洞察をなせり。「我等は人類の必要なる本能を單純に論ずる能はざる迄に墮落せり」と云へり。而も彼はその洞察を公表するが如き大膽は有せざりき。

ウヲーター、ホイットマンを世界ありて以來の大民政論者として最初に歡迎せるにもかゝはらず、彼自身は貴族政主義に止れり。ボーロース氏が云へるが如く「彼は哀憐、同情、寛大、愛國心、彼等が一般に解せられる意義に於ては皆之れらを欠きたり」き。彼が學びし自然の神秘は他の知ることなきと等しく價なきものにして、彼は生の重要なる部を觸るゝことなくして逝けり。

而も彼は與ふべき凡を惜しむことなく與へ盡せり。その品質は善良にして且稀有のものなりき。我等は長くその歡喜に倦むことなかるべし。

「我等は狂熱の强壯を要す」。ソーローは我等の爲に自然の狂熱を進め、云ふ迄もなく戶外にて書かれしその作物は、この强壯の滿てるものにして、そは道學に於ける規那鹽の一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

種にて、或る種の事情の下は規那鹽に於けるが如く一種の好味を殘すものなり。

榊　纓　譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

愛の郷へ

—荒木郁—

三人の姉妹が死なうと思つた。
彼女等は黄金の冠を身につけた。
そして自分達の死を探しに行つた。
森の方へと行つた。
（森よ、私達に死を下さい、茲に三ッの黄金の冠があります。）

三人の姉妹は死なうと思つた。
海を探しに行つた。
三年經つて之と出會した。
（海よ、私達に死を下さい、茲に三ッの黄金の冠があります。）
すると海は涙を流した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして彼女等に三百の接吻を與へた。
市を探しに行つた。
一ッの島の眞中に是を見出した。
（オヽ市よ私達に死を下さい、玆に三ッの黄金の冠があります。）
すると市は忽ち胸を開いて熱い接吻を彼女等にあびせた。
その接吻は現在を彼女等に見せた。

……………その人は死にました。その人は死にました。銀の鈴を鳴らすやうな、か細い聲で歌ふ人は死にました。

この歌をうたつた人は私に一言も云はないで、私の知らない中にそつと死んぢまつたのでムいます。私はその日も時も、又容子も知りません。今、この歌の姿を見てその人の死んだといふことを知りました。

白い薔薇の花の下に、黒枠をとつたこのやうな詩が投げだされてあらうとは今の今まで思ひつかなかつたのでムいます。けれど、私は今、その人の奥深い眼と暗い影のまつはつた額の姿とを見ることが出來ます。最後に殘したその人の眼蓋のさゝやき、艶のない唇へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひたつた水を吸ふ微なふるへ、それ等が律を揃へて私の胸にじみ入ります。

私は造られた像のやうに固くなつてぢつとその囁を聞いてゐました。その囁は刻一刻と豊になつて、私の心臓は、世のありとあらゆる音樂を一度に調で出したやうになりました。が、それも束の間でひといろの優しい調に變つた時、私の死像は愛の花に包まれました。一とすじの細い線から春の朝日のやうな光が輝きだしたのでムいます。此の時私の足は機械のやうにがちがち動いて、衝動的に私の手箱に秘めてあつたメスを摑み出したのでムいます。

メスは光つてゐました。何年か前にその人の手から私の手へと渡つたメスは今も尙ほ青白く光つてゐました。丁度その人の影と魂が喰み附いてゐるやうに私には見えました。私は吸はれるやうにメスの側まで熱した唇のゆくのを不思議だとは思ひませんでした。メスから流れ出る美くしい光は私を幸福者にしてくれたのです。

私は此のメスによつて生きやうと思ひます。私は愛の爲めに肉體を殺すことは容易いことだと知りました。無意味な生存をするより例え瞬間であらうとも、眞實の愛に生きたいと思ひます。私は今までの間に、手を延せば直ぐに摑へることの出來得る幸福を氣がつかずに探してゐました。一年、二年、三年、丁度お互が結婚してから三年の間、私はあてど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なく探してゐたのでムいます。而も私の心は何を探すのだか求めるのだか知りませんでした。たゞ、自分の今の生存は立派なものではないと思ひながらいら〳〵してゐたのでムいます。けれど私の心はそれ以上考へる力はありませんでした。これは全く貴方の罪でムいませう。

貴方は私の心の上に暗いヴェールを懸けて下さつた。私がぢつと我と我が心を正面(まとも)に見ることが出來ないやうにして下さつた。私の心は不透明になつてゐました。けれど、私の弱い力はそのヴェールを破る程確ではなかつたのでムいます。三枚、五枚と日増にそのヴェールを増して下さつたのは貴方でムいます。

お歸宅を待つ冬のよる、夏の朝、私の卑しい肉體は淋しさに首を擡げていら〳〵しだします。こんなことから始まつて自分の心の在所を考へることがあります。だがこんな風ではいつかな淸らかな心に歸る譯はありません。ですから貴方がお歸宅になれば何もかも忘れて了つて實際的な用事の爲めに肝要な心の曇を拂ふ時は來ませんでした。

貴方は私の眞面目な權威ある慾望をお認めにならねばならぬ時が來たのです。貴方は凡ての心持の惡さを默つてお受けになる義務があります。私は貴方の權威と力、夫といふお

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つかぶせるやうな名目――それも貴方御自身から出るのではなくて、唯々昔から定められたる規約によつて――に壓伏されて今日の貴方の役廻りよりも、もつと厭しい滲な境地に沈んでゐたのです。

メスは光りかゞやいてゐます。さながら私の意義ある生を祝ふやうに………

私は奥山の岩上に立つて美くしい谷間の花を見てゐるやうな氣がします。その人の奥深い眞黑な瞳に接した時のやうに私はわなく慄へながらも眼を外らすことは出來ません。この眼です。この眼です。その人に始めて遇つた時、最後に分れた時に光つたのは。私は今、その人と最後に別れた懐しい思出が、その時よりも、もつと强く判然と眼の前に展けました。

丁度今日のやうな寒い暗い夜に東北の温泉地にその人と一共にゆくことを約しました。貴方はよもや忘れにはなりますまい。私と貴方との結婚は眞にそれが動機になつちまつたのでムいますもの。

さて、私共若い二人は、ぼつと霞んだ霧の中をさ迷ふやうに、やたらと眼を摩りながら、旅の支度に取掛りました。

二人は肩を並べて銀座のあわたゞしい暮の街を歩きました。商店の飾窓にはクリスマス

の賣殘りと新年の贈答の品物とがうずたかく積み上げられて、青い瓦斯の光は嬉しさうに商品の上を浮いて、ペーブメントの打水にくちづけをしてゐました。ちら〳〵と縺れるやうに動いてゐる自分の足を見ました時、私は女らしい世帶じみた考がふと起りました。――この心持はいつも私のこゝろを曇らせる哀しい魔でムいます――けれどその日はその外にこれと云つて取立つた事もなく、お菓子だの紅茶だの襟卷だのとを買ひ求めて各自の家に戻りました。

その翌々朝、二人は上野の汽車に膝を並べました。車臺が動き出すまでは、何もかもが一種に見えて、胸はわく〳〵してゐましたが、停車場を一つ越え、二つ越えする中に私は漸く著着きました。そして、凡てのものが明るくなつて、斯しいものになつてゆくやうな氣が致しました。何千人何萬人の人を腰掛けさせた椅子までが、特別に私達二人の爲めに用意されたやうに思はれて嬉しうムいました。小さなガラス窓に集つてくる果てしない原野は惡くそられた頰髯のやうに青い草がチヨピ〳〵と伸び上つて、細流に大根を洗ふ娘の姿が相應しうムいました。ふと窓から眼を外らして車内を見ますと、群集は二人の幸福を羨むやうに、多くの視線は私達に集つてゐました。

頓てT驛に着きました。その時何となく興をそがるれやうな氣がして車室を出るのが厭

でした。これからは電車を幾度か乘り變へねばならなかつたので、經驗の少ない私達は厭な思をすることが多うムいました。

其處で暫く休で電車でK町についたのは、五時五七分過ぎでした。此處から湯場までは五時が最後の電車であつたので、私達は乘り後れた譯なのです。で、仕方なしに俥でゆくことに定めて、旅館とも待合所ともつかぬ間口のだゞつ廣い家に這入つて支度の出來るのを待ちました。

『東京のお客樣で………これで夏場になりますと、もつと晩くまで電車があるのでムいますが………へい、へい………』東京辨の若主人らしいのがお世辭を云つてゐる蔭から、十八九の丸髷姿の女が羞しさうに澁茶と砂糖くさい餡の入つた最中を出しました。此時私は、あゝ田舍だな、田舍だな、東京を離れたんだ、と思ひました。すると淡いしめつけるやうな淋しな、果敢なさを覺えました。

俥は整へられました。

荒くれた四人の俥夫は、强く亂棒な言葉で何やらわめいてゐました。耳馴れない私は氣味惡く思ひました。頓て、勇ましい掛聲と共に俥は動き出しました。薄暗い街に燈火がちら／＼と點く頃から雪は降りだしました。多くの家々は半分位づゝ戶を閉めて、澁を引

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いた障子に書いてある文字によつて、僅かに其の家の商賣を知ることが出來る位でした。その中に一番眼にたつたのは、お泊料何十錢と書いた木賃宿めいた小さい家でした。家の中からは、夕飯の支度か、暖かさうな烟や、甘しさうな香が寒さに戰えてゐる私の鼻を衝きました。

人家がとだえた頃、吉原通ひの車夫のやうに勇しかつた掛聲がぱつたりやんで俥は漸く遲くなりました。雪は灰色に、樹立は幽靈のやうにのつそりと物凄く見え出して來ました。たゞ雪を蹴るかさ〳〵といふ音許りが四邊の靜寂を破つて、木魂に響いてゐました。

見るものとても小鳥の影一つない小道に差しかゝつた私は、唯々その人の俥の後姿をぢつと守つてゐました。と、何となく淋しい哀しい身になつて、冷めたい頰には、泪が無性に傳るのでした。何が泣けるのか、哀しいのか自分ながら分りませんでした。泣いてゐる中に、哀しいことを思ひ出しては、それからそれへと考へてゐますと、寄宿舍の先生に親族の家にゆくと云つたことと、親族の家には友人と一共に旅行すると僞つたことと、などまでが氣になりだしてゐても立つてもゐられないやうな心持になりました。寒さは一歩、一歩進むにつれ、增して、暗闇はだん〳〵深くなつてゆくのです。と、脊後から何か怖い人が追ひ驅けて來るやうな氣がして、みぢろぎも出來ず固くなつてぢつとしてゐました。する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と遥か遠くに兎の眼玉のやうな小さな燈火が見えるのです。長時間の俥に倦いてゐた私は飛び立つ許りに嬉しう厶いました。先頭に立つは俥夫が一聲掛けるとそれに應じて他の著も『アイヨー』とか何とか調子を合せました。

　私は冷めたく氷りついた身體が春の朝日に會つて溶けてゆくやうに、がつくり車臺へ凭りかゝつて眼をつぶりますと、もう湯瀧の樣子や、宿に着いてからの暖かな部屋のさま、よく温泉宿にある行燈の影、長火鉢の向側などが私の眼蓋を割つて覗き込むのでした。私はいゝ心持に醉つたやうに、うつとりと夢の人となつてゐますと、他で何やら妙な聲がするのです。私は吃驚して見廻すと、俥は汚らしい小屋の前に止つてゐました。而して今迄私をこゝまで連れて來た俥夫は各自に酒を煽つたり煙草を吸つたりしてゐるのです。

　その時の怖しさ。宿へ着いたと思つたのは違つて、薄暗い煤けたランプの下に荒くれた四人の車夫、酒の香、百年も前から住み馴れてゐたやうな老婆がバスで何とかわめく。私は子供の頃、今は亡き父の膝に縋つて夜話に聞いた人渫を思はずにはゐられませんでした。誘拐された若い女や男が逃げも隠れも出來ないやうな山奥へ連れ込まれて、思ひ懸けない生涯を送るといふことを……………昔噺そのまゝに我と我身の上に表現るかと思ふと一瞬間前まで考へてゐた樂しい心持も消失せて、わく／＼慄へるより外はありませんでした。と、

誰やら私の幌を取り外さうとするものがあるのです。私はもうこれ迄だと思つて何か大聲で呶鳴りたいやうな氣がしましたが聲はどうしても出ないのです。仕方なしに俥臺に力一ぱい確りと立ち上つて、元氣らしく、せき拂をしてみたのです。すると、ベルタさんつといふ聲が聞えたのです。その聲は幾度目かの呼聲らしく、いらだつて聞えたのです。けれどそんなことを考へる間もなく私はその人の腕に飛び縋りました。その人は何時も私のことをベルタとよんで居たのですといふのは私のクリスチャンネームなのです。この名は教會の極く小數の人と、外教人ではその人一人だけがかう呼んだのです。だから私はもう、私の幌を取り外したのはその人だといふことが直ぐに分つて、安神したのです。けれど極競に怖れた私の心臓は、どき〳〵して鳥渡靜まりさうにもありませんでした。車を降りた私は無言のまゝその人の外套のなかに首を埋めて、一緒に酒の香のする小屋に這入りました。

恐らしい顔をした老婆は案外親切で私達二人を爐端に連れて暖いお茶と鹽煎餅とを勸めました。

『ベルタさん、僕ね、僕ね、餘り寒いので貴女死ぢまつたかと思つた……』老婆が茶を注し替へに行つた時小聲でその人はかう云つたのです。その時その人の目は、光つてゐました。私はそのまゝ地面に顔を俯伏して泣きたいやうな氣になりましたが車夫が提灯の蠟

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

燭をつぎ始めたので嫌々ながら又俥の中に潜り込むことになりました。

暗い此道を雪をけりながら俥は走りだしました。又、可成淋しい心持になりかけた頃、遙か向ふから燈火が二つ見えるのです。こんどこそはと思ふと、それは宿からの迎でムいました。

『〇〇屋のお客様で被在いますか』。

『御苦勞様ッ』。私は力一つぱいの聲を出して叫んぢまいました。全く嬉しかつたので愧しいのも何も忘れたのでムいます。けれど直ぐに私は氣が付きました。それは、自分の叫だ聲の餘韻が耳の邊へうづをまいてゐるのですもの。で私は奈何しやうかと思ふ程顔は熱くなる、手は戰えてくる。だが他の人々も矢張り嬉しかつたと見えて別に私の大聲を蔑む者もないらしかつたので私は少し落着きました。

宿に着いてからは何人もが經驗するやうに寢て起きてお湯に這入つて御飯を喰べる。私達も別にこれと云つて他人と變つた日の消しやうも知りませんでした。だが夏場客の多い此土地の冬はその宿も全での遊で、私達の外、泊り合せの人も無いらしかつたのです。で、自然新らしい知己といつたやうなものも出來ずに二人は終日顔を合せて、淋しく笑つて暮したのです。途中の怖つたこと、學校の方が譯もなく案じられること、それから、貴方か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら送つて頂いた新聞の話、それ等がすむともう話すことがないやうに、行火に這入つて朝から夜へ、夜から朝へ、陽（ひ）の廻つてゆくのを見てゐました。これと云つて取りとまつた話もしない中に私は歸京せねばならぬ日が來ました。私はその時譯もなく、重荷を下したやうにほつとしました。何故なら、私達二人が萬一も一緒に一と月もゐるやうな事があつたら、きつと、その人は死で了ふだらうと私は思ひました。それ程、二人は好きで又、尊敬しあつてゐたのです。その數日間の苦さつたらありません。同棲するといふことは、とても銀座の街を散歩したり、カフエーで笑つたりするのとは違つてなか〳〵難いものだとその時はつく〴〵感じたのでムいます。

五日の朝、淋しいすがれた冬の湯場と別れをつげて、歸京することに定めました。いろ〳〵の都合から歸りは私獨であつたので、その人の案じやうつたらありません。何時になく暖かな陽が東の山の雲の上をそろり〳〵と上つて私の暗い心臟までも泌み入りさうなのです。その日に私は朝めさめた時から、成たけ華やかな事許り考へやうとしましたが、いざとなるとやはり哀しいものです。

その後のことは事新らしく私がこゝに記すまでもありません。貴方は何もかも御承知で被在いませう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私はその日限りその人の顔を見ませんでした。夢のやうな淡い樂しさ、それをあの窮屈な箱のなかゝらそつと覗いただけで私達は別れて了つたのでムいます。別れて了つたのでムいます。

東京へ歸ると直ぐに私はステーションからお宅へお伺ひしたのですわ。あの夜まで私は貴方のことを戀の守神樣だと思つてゐました。私は眞個に貴方を紳士らしい對度と、慈母のやうな愛を持つてお出での方と許り思つて尊敬してゐたのでムいます。私達若い二人は何もかも貴方一人を便りに便つてゐたのでムいます。お宅へ着いたのは夜の十一時過ぎ、それだのに貴方は私の爲めにその人の許まで安着の電信を打ちに被來つて下さつたのですわね。晩いから明日でもとおとめしたのに、而も貴方御自身にお出かけ下さつたのですわ。そして、貴方は私の爲めにタックになつて下さつて、寒さ凌ぎにと、パンだの肉だのを今も此處にあるこのストーブで燒いて下さいました。私は貴方の御親切が眞心から嬉しうムいました。而して貴方のお部屋にゐるのは、私にとつて大變らくでムいました。貴方は私の爲めに、その人の話を面白さうに聞いて下さつた。

「それから、それから、もつとお話がありませう」と貴方はお尋ねになつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『いゝえ、もうこれつきり』。

此の問答は私と貴方の間に幾度となく繰りかへされました。その時……血走つた貴方の眼、容子有りげな貴方の對度……私に好奇心を起させました。何も知らない小娘は、その外に何を話せば貴方が滿足するだらうと思ひました。と同時に、私の知らないものが、知らない或るものが此の世の中にあるといふことを覺知たのでムいます。

そのよる。

鍵の下してある此の部屋の、今私が掛けてゐる安樂椅子の上にちやくまつて私は、甘い美くしいお酒を貴方の手から貰ひました。そして、私の知らない物語を貴方は聞せて下さつた聞かねばよかつた、聞ねばよかつたと悔んだ時はもう晩うムいました。

私は全く東北くんだりまで好きな人と旅をしました。けれど私は知らないことは何時までも知らずに歸つて來たのです。けれど、その人と一共にゐる時、靜な幸な心持の中に何とも知らない怪しい魔の塊がありました。私はその塊がどんな種類のものであつたか知らない。何時の日かその人によつて敎へらるゝことのあるのを信じてゐました。

私は何と情ない弱い心を持つた女でせう。今だに思ひ出してもぞつとします。私は何も貴方にそれ程多くの感謝をする必要なんかちつともなかつたのです。貴方は全く私といふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小娘を甘く釣り出しなさつたのです。凡てのことを知らうとする慾望の多い發育盛りの私の身體、貴方は眞個にお手際のよいことをなさつたのです。

ところが、翌日その人からの手紙に貴方によろしくとして、又貴方をその人がすつかり信用してゐるらしいのを見て私はどうすればよいのかわからなくなりました。と、次の便には、

ベルタさんが行つてから僕は毎日哀しい日を送つてゐる。貴女の被在る時僕は何か失禮なことを云ひはしなかつたか、又、しはしなかつたか、僕はそんな事を考へてゐる。僕は直ぐに歸京しやうと思ふ。けれど又、恁う離れてゐて、あわたゞしい氣持の中から神々しい貴女の姿と心を思ひ出すといふことも私にとつては大切なことです。此の部屋に獨りゐるといふことが怖ろしいことのやうにも思へる。椽側を女中共が行來する音を聞いて僕はつひ耳を聳てる。僕は此頃神に祈る人となつた。母が逝いた時でさへ墓前にぬかづくことの出來なかつた僕は朝となく夜となく祈る。泣いては祈り祈つては泣く。神よ我がベルタを守らせ給へと叫でゐる。此頃何だか貴女のことがわけて案じられる。何か怖ろしいものが我々二人の上に來るやうな氣がする。守らせ給へ神よ。守らせ給へ神よ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と、かう書いてありました。私はその一字一句を覺えてゐます。けれど私はそれつきり、温泉場で何の氣なく別れたのがその人とは永劫の袂れであつたのです。私は身の置場のないやうなやるせない氣持になつて學校へも從順にゐることが出來ないやうになりました。で、私は出來るだけお互の結婚を急いだのです。その人からの手紙はもう決して見まいと思つたのもその時です。私はその人から來た最後の手紙、今此新にかきました手紙を見て、私は身のちぎれ〳〵に裂けて呉れりやよいと思いました。けれど又振り返つて現在の境地を見ます時、餘り惡い氣はしませんでした。何故なら、私と貴方との生存は樂で、且つ、低級な小娘の頭には、親しみ易かつたのでムいます。私は何の思慮も、深い思想もなくて、身體の我儘のできる貴方の側が反つてよいやうな氣がいたしました。即ち私は、靈のない生存に沈んだのでムいます。けれど私の心は始終それで滿足はして居ませんでした。

　東北の一と月後れのお正月はとう〳〵其年は追羽根の音を聞ずに了ひました。諒闇中の今日此頃、淋しい暗い新年は殊に思出が深うムいます。私はまことに、一番大切なものを取遁して、とう〳〵手の屆かなくなつた時に私は眼が醒めたのでムいます。

　この手紙を書き了ります時、私は私の領土へ戻ります。私は心の叫ぶまゝに愛の優しい僕になります。氣の附いた日、私は一直線に外のことを考へずに懷しいその人の側に走り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ます。例え肉體の死に人間の最終であらうとも、瞬間は確に愛の領土で厶います。瞬間と永遠とは同じで厶います。その人の眼のやうに和らかく光るメスは私の望むまゝ愛の郷へと旅立してくれます。私の胸から流れ出る紅い血潮は、この美くしいメスが接吻をして呉れます。紅い血は春の曉の色で厶います。希望の姿で厶います。例えそれが瞬間であらうとも、未來の多い國へ私は旅を急ぎます。

私は旅立つ日、貴方を憎みます。私がめさめた日、私は貴方を極端に憎みます。その多くの女によつて馴された貴方のお口と、貴方の肉感的な姿と、物質の輝きとを見せて下さつた貴方を憎みます。

貴方は私の敵で厶います。

貴方は私の敵で厶います。

私の初心な心を曇らして凡ての教導者となつて下さつた貴方は私にとつて、私といふ女にとつては敵であつたので厶います、私はときのこゑを上げて、私の領土に戻るのです。

さらば良人よ。

私は三年前の東北の旅の樂しさを思つて貴方とお別れをします。

さらば良人よ。

――一九一三・一・一五――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あまき縛め　——原　阿佐緒——

うれしかる苦みを今君により心におぼゆあまきいましめ

人並に戀をたのしむ素直さもなければ人の親まずなる

若き日の世にもかなしきみそかごと忘られぬまゝ年くれてゆく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀もうし死も思はじなひとりたゞかく投げやりの日に生きなまし

氣まぐれに別れし親に似しやなど兒をし叱れば涙流るゝ

さりげなく母とかたりぬ兒と笑みぬ人の戀しくかなしきときも

思ひ出でゝわが兒と遊ぶ目かくしの君にとられしこの手淋しむ

涙さへわりなく吾をあなどると思はれてつひ唇をかむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

煽ることせざれば燃えぬ戀ならば捨てゝ悔なきものと知りたまへ

故もなく涙をしたひ淋しがる吾にはまこと飽き給ひけむ

愛欲のおとろへもよし黒髪をないがしろにもふるまへる今日

わがたぐる糸のつきざるもどかしさ時にかなしき命にぞ見る

捨てても得ぬ保ちもあへぬ戀のためわが煩惑のしげきことかな

さびしかりしみ〴〵吾をあはれみて寝る夜の
夢に逢ふ人もなし

寂しくも投げ出されし身のはては歌ふに泣く
におのがまゝなる

悪しと知りためらふひまにそを強ふる魔のさ
ゝやきに負けぬ心は

罪をさへ詰ることとせずうらうへに君の笑めれ
ば心苦しも

わがひとりあなづらはしや戀ほるゝ友と語る
も身をせばめつゝ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まづさびしいときにくき男よりやうやく吾をうばびかへして

泣くばかり人の戀しきときもなきわがこのごろの安きさびしさ

親と子の心はじめて抱きあひ泣くことを得ぬ病の前に

今ぞ泣くおほよそ人とことならず君をもてなし死にやりしこと

見ては泣く君が文また思ふこと下に秘めつゝわがごとあれば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

[redacted]

何に似む興ざめごゝろよきとうき人の二人を
並らべ見ること

もろともに死なばと思ふひとりさへなき世に
生くる身のあぢきなき

戀を戀ふ少女心の殘りゐて若き日の夢見する
淋しさ

泣けばかのうち顫ふ手をわが肩にいたはりま
せし日もかぎりなる

かなしみてわがもの書ける紙の上の灯のあか
るみに羽虫ふるへる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

涙もてわが命とも思へりし昨日の吾にそむか
むとする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夢の夢——三ケ島葭——

十年を一日としても君とこそあらまほしけれ
死なまほしけれ

おろかなることかな君とあらんなど夢の夢な
り末の末なり

聞きをれば言ふにひとしくなりにけりこの時
悲し滅びたるわれ

こゝも愛し君が過ぎけむ追ひゆけばこゝもはかなし君が越えけむ

かたむけて來たまふよりはむしろ行けわが追ふよしもあらぬあなたへ

君戀し今か倒るゝ木の如く今か流るゝ花の如くも

よりがたくのがれがたかりわがために危きものは大いなるかな

ひれふしぬ君が悲み知らぬ日の弱者の前に膝朧の世に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たのむものみな仇なるを知れどわれ伏すとし言へば心より伏す

これ君がこれまぼろしかまかせたる身のわりなさに涙流るゝ

まもりにもざんげにも足らずあはれなる君にならびて流るゝ涙

いくばくを我はゆづりしゆづらしはしたなけれどことごとくなり

そのはじめ何思ひげんよるべなき身をなげくにも君によるわれ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もの言へばいよ／＼はかなしこれすべておの
れの思ふことにあらねば
あたりがたき君とは知れど何事かうなづきを
れば我もぬかづく
づゝましくなほ包まんと思ふなどはや放縦の
わが心なれ
放つとばみづから縛るいたましき臆病者のそ
らごとゝ知る
聞ゆるはつめたき言葉おぼゆるは燃ゆる唇君
は何ぞや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゆくりなく我を捨てたりはてしなく惑ふべき
身のありのすさびに
逢ひがたしその一人にもわれらある世のひろ
きこと數へられずば
愧づるなり導かれたるこゝのほか心のほかに
迷ひ出づるを
身衰へ呼ばんとすれど呼びがたきその一瞬に
逢ひにけるかな
君はさりぬ打たれたる身のおごろきに我を抱
きて我を放てば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とれといふ見よといふその心なり追ふべくもなし知るべくもなし

うつけくも待つ日は走る心にて追ふべき日こそこゝにさまよへ

なほ我を疑ふほどのあまりあるその心こそうらやましけれ

これもまたとるに足るまじみづからを欺く時に君を欺く

われは泣くとるやとらるゝはかなさに見るや見らるゝせんすべなさに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あはれとも思ひたまはゞおのれ今足りて忘れ
ん身をも君をも
はなれてはあひては心迷ふなり夢とは言へど
うつゝなる世に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東北風（つゞき）──ブヂシチェフ──

二

東北の強風は終夜止まず、唸づて、吹き荒れてゐた。コローボフは魘れては目を覺す、彼には何やら風の音が、強盗の群が自分のマウリタン式の家の直ぐ側を、えい〳〵と云つて駈けながら通つたやうに思はれた。かくて彼は朝に自覺めた後も厭な氣持で頭が痛む。常のやうにウェランダへ出て茶を啜つたが、氣が引立たない、たゞ不興げに海の白波の跳るを見、又騒しい風の音を、煩はしげに聞いてゐた。ふと其處へマリアンカは出て來て、ウェランダの石の欄干に頰杖をつく。

『お前にも驚いて了ふぢやないか、え、、嘘を云ふのも可い加減がいゝ！』と、コローボフは彼女を見て云つた。

『あらつ！』と、マリアンカは美しい眼を見張る。

『あらもないものだ、約束をして置きながら來なかつたぢやないか、取るものばかりは人から皆取つて行つてからに、餘り虫が好過ぎるだらう。』と、コローボフは苦り切つた顔。

『私が騙したつて』と、マリアンカは仰山に叫んで『騙したつて有仰つちや酷うございますわ、だつて昨夜から父が些とも外へ出ないで私の傍に附纏ひ通しなのですもの、私どうしても抜け出せるものですか、全くですわ、誓つてもさうなんですわ、嘘だと思ふなら、私、八裂(やつざき)にされても、粉微塵にされても構やしません、本當に辛いわ、私來られなかつたのですもの。』と、マリアンカ涙に眼を曇らして俯向いた。而して酷く辱しめられ、氣を揉ませられたかのやうに伏眼になつた。其様子は一層優しく美しかつた。

『さうか?』と、コローボフは急に元氣着いて、一眼鏡を外しながら問ひ返した。『さうかそれぢや可いさ、可いさ、なあお前は俺の大事な可愛い人だもの、なあ、さうだらう。』

マンアンカは有らゆるものを指して、其の虚言ならぬを誓つた。

『あゝ若し其れが嘘だつたら、本當に私を半分に裂いたつて構ひませんわ、蝸牛のやうに踏潰して了つてもいゝわ!』と、彼女は叫んだ。

『いゝよ、もう〳〵分かつた、よく分かつた。だがそれぢや、奈何すりや可いたらうな?』と、コローボフは兩手を振つて彼女を制しながら云つた。

『お待ちなさいよ。』と、マリアンカは急に聲を低くして呟いた。

『今日ね、晩に……未だ宵のうちにね……』と、彼女は紅の唇を僅かに動かす。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『うむ。』と、コローボフは息を切迫まして、手まで冷えた。
『あの、父を何處か町へ買物にお遣りになればいゝわ、何か、まあ何でも買ひに……解つて？』と、マリアンカは矢張小聲で。
『さうた、それがよからう、恁麼ことを考へるのは女に限るよ、ぢや今夜グオルギイを町に遣らうよ、何か機械の鋲でも買ひに、なあ？』
『えゝ、それがいゝわ。』
『で、さうすればお前は來るのかね？』
『えゝ、屹度。』
『屹度？此處へ？今夜？』
『えゝ、屹度。』
『さうか、マリアンカ俺はもう晩になるのが待ち遠しくて死ぬかも知れんよ。あゝ？』
『ほゝ、まさか那樣ことはないでせう、だけれどねえ旦那、本當に貴方は好い方よ……』
『何に？奈何したのか？』
『いゝえね、あの私ね、そら、あのアルメニヤ人の店にあるでせう、あの銀鎖の紫の水晶の三つ附いた頸飾……』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『で？』

『たゞね、それがもし此處にあつたらいゝのつてことよ。』

『さうか、それぢや買はうさ！』と、コローボフは直ぐに承知して了つた。

『それからねえ旦那、あの指輪ね、小さいんでもいゝからね、あの淺黄色の石入の……』

『さうか、ぢやそれも承知した。』

『それでね、皆今日のお中食までにね、後生ですから……いゝの？』

とマリアンカは得意の黒眼を更にコローボフを溶かすまでに優しく、愛らしく輝かせた。

『よし〳〵何でも。』と、彼は彼女を接吻しながら云つた。

マリアンカは肩を搖つて、彼の手から拔け出で其儘臺所に行つた。其處にはゲオルギイが卓に向つて食事をしてゐた。何か小魚の炙いたのを食べながら、一心になつて骨を舐つて、一々鄭寧に卓の端に並べてゐる。

『今日ね、父さん！旦那が父さんを今夜町へ機械の鋲か何かを買ひに行けつて云ふのよ……』

『ふうむ。』

『さうしたらね、はい承諾致しましたつてお云ひよ。』

『うむ、云はう。』

『でね、さう云つて置いて、此度は晩になつたらばね、旦那の處へ行つて恁う云ふのよ、左の腿が痛んで痛んで叫んでも足りません、御存じの通り右の足は跛で困却して居ります上になんで、何卒今晩町へは私の換りにマリアンカをお遣し下さいまし、つてね、恁う云ふんだよ。』

『ふうん、さう云はう。』

『ちやんと私の云つたやうにだよ。』

グオルギイは其の大きい髭で頷いて、脂の手を卓の縁で拭く。

『さう云うよ、皆其通りにの。』と、グオルギイはもう一度繰返して云つて、考込んだやうに溜息をして鼻を掻く。

『あゝ乾度ね！』と、マリアンカは聲高く云つて笑つた。

コローボフは買物にと町へ行つた。風に砂塵は白く舞ひ上つて、いつもは矗々と立てるトポリ樹さへ、病める老人か何ぞのやうに歪んで曲（くね）つてゐた。

『彼女の接吻たら堪らん、奴、所詮唯の女ぢやない！何だか氣が變になつてしまふよ！』

果物を並べた小さい店の前の戸の處に、黒い四角張つた鬚の、毛虫のやうなギザ〳〵な

眉のアルメニヤ人が立つてゐたが、コローボフを見て急にお世辭笑をする。
『はあ、あの紫水晶の三つ附いた銀鎖の頸飾、此間御覽に入れましたあの品を、畏りました』と、アルメニヤ人はニコ〳〵して、机の抽斗を開けて其所から卷煙草の紙に丁寧に包まれた珠玉や、寶石の一ぱいに入つた折鞄を取出す。
『これは旦那、お知合の間がらですから特別に十五圓に致して置きませう。』と、口の兩端に白い髭の生へてゐるアルメニヤ人の妻は云つた。
薄紫色の水晶はルサルカ(水中の女の靈)の眼のやうに、美くしコローボフの眼の前に輝いた。
『さうです十五圓にお負け申して置きませう、それよりはもう致方がありません、まあ特別に御懇意の間柄ですからな。』と、アルメニア人は其四角張つた鬚で頷いた。
『それから淺黄色の石入の指輪を見せて吳れ。』と、コローボフは紫水晶の頸飾にまだ見取れてゐた。
『九圓で御座います。』と、アルメニヤ人の妻は何か臭いものでも嗅いだやうに鼻を曲げる。
『其れよりは些とも致方がありません、で、相方で二十四圓、もうそれよりは一錢もお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

引き申されません、はい！』

然しコローボフは二品をどう／＼十五圓に負かして買つた。彼は代價を拂つて家に歸らうとしたが、アルメニヤ人は何か意味ありげな、狡猾な微笑をして、彼に更に立派な、價の高い胸飾(ブローチー)を見せた、ダイヤモンドに緑玉(エメラルド)と紅玉(ルビー)とを取合はせて、周圍には細かいサフヤを星と散らした眼の覺めるやうな美しい品、元來が這麼ものには道樂なコローボフは、あつと云つて兩手を延してそれを引捲(ひつたく)つた。アルメニヤ人は甘さうな舌打を續けながら云つた。

『これはウラル出ぢやないのです、眞物の印度です！奈何です印度の臭がするでせう！』

と、アルメニヤ人は指を鳴らして身を反らす。

三人で隨分烈しく競合つた末、コローボフは五百四十圓で此の品を買取つた。而して彼は暴風の荒むには氣も留めず、嬉しさに氣を呑まれたまゝ、夢中になつて家に向つた。彼はマリアンカが此の紫水晶の頸飾と、指輪とで甚麼に喜ぶだらうと思ふと、もう今から嬉しくて堪らず、子供のやうに巫山戯(ふざけ)出したい位であつた。

『これぢや大丈夫來るだらう！本當に可い娘さ、屹度今夜は來るに違いない！』

『止れ！』と、彼は云ひさま、馬車から勇んで降りて、直ぐに荒石造りの臺所へ行つた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『あら、紫の水晶！　あら〳〵まあこの紫水晶！』と、マリアンカは、コローボフが銀の鎖についた薄紫水晶の頸飾を、其淺黒い頸に掛けて呉れた時に、餘りの嬉しさに手を打つて叫んだ。

『それから、さあこれが指輪、皆お前が云つた通りのものだ！』と、コローボフは彼女の手に指輪を篏めた。

此の贈物に心を奪はれたマリアンカは、青い、柔(やはらか)な上靴を穿いた、可愛らしい足で、床を踏み鳴らして踊り廻つた。其の眼は矢張紫水晶のやうに艶に燃え輝いてゐた。

コローボフは彼女の嫋々(しなやか)な躰(からだ)を痛い程に抱き締めた。

『お前は來るか、え丶？』コローボフは一眼鏡を外しながら彼女に訊いた。

『參ります。』

と、マリアンカは太息をして云つたが、眼は急に暗く、暗く、夜の闇のやうになつた。

『屹度か？ぢや屹度と云つて御覧！』

『屹度！若し噓でしたら海の魔物に喰はしても構ひません』

『そいつは怖しい！』

其時コローボフは他の高價な胸飾(ブロチー)を彼女に見せた。と、彼女は、何か此の世のものなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ぬ強い、強い、日に打たれて倒れた日射病者のやうに、たゞ驚嘆に心を全く痲痺せられて了ひ、息も詰つて僅かに言つた。

『誰に……これは？奥様に？』

コローボフは、はつとして默した。

『奥様に、奥様に』と、マリアンカは心で窃かに云つた。

コローボフが中食の時も、彼女は始終詰らなさうに鬱いでゐた。食膳には雛のソースと鯽魚の炙いたのとで。彼は此夏中は其の上に肥滿するのを防ぐ爲にスープは全で食べなかつた。コローボフはマリアンカに調戲初めた。

『マリアンカ、お前は今日は一層綺麗だよ、紫の水晶のお蔭でお前も那樣に先つて見えるのたらう。』

然しマリアンカは考込んでゐた。『這麼胸飾で帆掛船が一艘買へる、日に二圓から三圓の仕事が出來る。あゝ、ペトルが若し這麼幸福に有りついたら、甚麼にいゝんだが！』

夜になつてグオルギイは主人の所へ來て言つた。

『誠に申兼ねましたが、御存じの通り右の足が跛で困難致して居ります上に、左の足が又痛み出しまして、痛くて、痛くて堪りません、何卒町へはマリアンカを御遣り下さりま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すやうに願ひたいもので！』

コローボフは顔色を變へた。而して怒りの聲も荒く。

『何に、マリアカカをだと！』

——（未完）——

瀨沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

年 ―岡田八千代―

おきぬさんとわたくしと勇さんとは、一ッ火鉢を圍んで話してをりました。おきぬさんはもう三十を幾つか越した人で、一度お嫁に行つたのですが、不幸福で今は生家に歸つて、氣樂にその離座敷に一人住をしてゐる人なのでございます。少し瘦せすぎてはゐますが、すらりとして意氣で、如何しても東京で生れた人と言ふ事は、一目見て知れる位、氣の短かくて、怒りつぽい代りに、また、かう何とも言はれぬ味な處のある人でございます。よく昔の江戸時代の事を懷しがつて話すものゝ、明治から大正に代つた今の世の事も嫌ひでは無いと言つた風な人で、言つて見れば生粹なハイカラを生粹な江戸繪風に表したと言ふやふな人なのでございます。いつも洗ひ髮を束髮にして、少し古けて居ても柔らかものを引かけて、朝越きるとまづお茶を飲まなければ心持が惡いと言ふやうな人なのでございます。

勇さんは二十五六でもございませうか。まだ髮なども分けて居ない、目のぎらつとした、一寸人好きは惡さうですが、如何にも若々しい氣持のする人でございます。

夫は丁度秋の事でございます。三人の間には、お茶道具と外に栗を澤山に盛つた鉢など

が出てをりました。最先から勇さんが無器用に栗の皮を剝いてるのを見て居たおきぬさんは、不意に笑ひだしました。

「何が可笑しいんだ」。

栗か工合よく剝けないのでぢれて居たらしい勇さんは、急に笑はれたので、グッと癪に觸つたと言ふ形でございます。

「だつて、栗を剝かうつて人が、片肱は火鉢に寄かけたまゝで、やらうたつて無理だわ、剝ける筈がありやしない」。

全く勇さんは、横座りになつた片肱を火鉢に寄つかけて、其手に栗を持たせて右の手丈で剝かうと言ふのですから無理には違ひないのでございます。

しかし田舍ものゝわたくしに言はせれば、笑ふのも好いとして、そこに何分同情を含んで貰ひ度いと思ふのでございましたが、おきぬさんの調子には全く嘲りの分子しか無かつたやうに聞えたのでございます。

「ヘン大きにお世話だ」。

勇さんも又江戸ッ子ですから負けては居りません。もう眼を釣り上げて怒つてゐるのでございます。さうですから、栗はます〳〵剝けさうにもないのでございます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「何がへんだらう。空威張りにも程がある。さう言ふ暇で剝いて呉れと言つたら好さうなもんね」。

おきぬさんは、勇さんなんかの怒るのは髮の毛の穢れた程にも感じないと言ふ風でございます。

「誰が手前なんかに剝いて貰うもんかよ」。

勇さんは、小僧あつかひにされるのがいま〳〵しいと言ふ見將もあつたかもしれませんがます〳〵眞面目なのでございます。

さうなるとおきぬさんはいよ〳〵面白さうに笑ひます。

「だれが剝いてやると言ひましたよ。賴んだつてしちりけつぱいだ」。

勇さんは栗を捨てゝぷいと立つてしまひました。さうして何にも言はずに外へ出て行くのでございます。わたくしは心配して緣まで出て見ましたけれ共、おきぬさんは平氣で、

「どうして、あの儘歸れるもんですか、打捨つときなさいよ。一時間も經てば返つて來る人だから」。

果して三十分もしない中に勇さんは返つて來ました。けれども相變らず怒つたやうな顏はしてゐるのでございます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「まア、よくお歸りでございましたねえ」。

おきぬさんの調子はやつぱり勇さんを馬鹿にしまつて居ります。けれども勇さんはもう何にも言はずに其處らに散らかつた新聞を見て居るのでございます。わたくしは間に這入つて、何とかとりなし度いと思ひましたが、なか〳〵おきぬさんがわたくしなんかの言葉に從つて調子を變へるやうな人ではありませんから、只默つて二人の樣子を見て居るより外はございませんでした。

間も無くわたくし達の間に御蕎麥が運ばれました。

そんなものを食べる間も、おきぬさんは勇さんに眼を離さないのでございます。

「あら、いやだ。そんなにかぶりつくやうにして食べるもんぢや無いわ。江戸ッ子の癖に」。

直ぐに又非難が始まりました。

「おや、お前さん海老の尻尾まで食べやしないの?」

わたくしは慣れてるとは言ふものゝ、何ですか、勇さんより先に顔が赤くなるやうな氣がいたしました。

夫から程なく、わたくしは自分の用丈を濟しておきぬさん達に別れて其處を出ましたが、勇さんはやつぱりぐづ〳〵とおきぬさんの側に殘つてをりました。そして、わたくしは歸

り道につく〴〵思つたのでございます。

男が女を思ひこんでゐると言ふものは、あんなものであらうか、殊に年下の男が年上の女を思ふと言ふものは、あゝしたものであらうか。

そして又、女も三十を越えるとあゝも剝きだしになつてしまふものか、おきぬさんもあの人故にお嫁入先も出て來たと言ふ噂であるが、さうまで思つた人に對しても、もう三十過ぎた女は、あんなにも色氣の無いものであらうか。

如何かするとおきぬさんは、こんな事を申します。

「なんでも人は、この人と思つたら、夫婦になつちまう事ですね、お互ひに潮時を圖つてなんぞ居やうもんなら、とてもあらばかし見えて來て、夫婦なんかになれるもんぢやありませんよ」。

おきぬさんは全く斯う思つてるのでございませうか、はじめはおきぬさんも勇さんの情にほだされて出て來たやうなものゝ、あんまり勇さんの戀のしつこさにもう捲きてしまつたのでございませうか。勇さんは又幼時おきぬさんが忘れられないので、やる瀨ない戀にもだえたものゝ、思ひ叶つて見れば、もう一度人に嫁いだおきぬさんは、昔のおきぬさんでは無かつたのでございませうか。けれ共、自分の爲に可愛いゝ子まである家を捨てゝ來て

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

呉れたおきぬさんを、今更捨てられもせぬと言ふ義理なのでございませうか。さうして二人ともに、お互ひの心は知りながら、只燃え盛つて居た昔の戀の余燼が戀しいばかりに、毎日毎日顔を合はさなければ、氣が濟まないのでございませうか。

かうして二人は遂に如何なるのでございませう。わたくしなどのやうに、娘から妻になつて、妻から直ぐ母になつて、夫だけで別に不平も不滿も無いやうに育てられた女には、おきぬさんのやうな人の心はとても計る事は出來ないのでございます。

只此二人を見る毎に氣の毒やら笑止やら、そして又三十過ぎた女の戀は、ほんにほんに凄まじいものだと思うより外は無いのでございます。

（十二月十九日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

京人形 ―岩淵百合―

おとなしく京人形とあそびたるころふと思ふ
心のひまに

かくてなほなほ偽りて世にあるをかなしや君
のうらぎりをする

かの影はさびし寂しき生涯をこころのままに
ひたはしりゆく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あはれなる心のはしに道を說くわかき男のときにうとまし

執着のこころかなしや世の常の女のみちをとうざかりゆく

かくてなほさびしかりけるこの生命はかなきことを常とおもへる

なげうちし戀のむくろに秋の花おなんどいろの悲しみを投ぐ

誇らしう秋をさく花執着の戀のこころに似かよいてよし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わが愁海に吸はれてひとときは海月のあそぶ
さまなどをみる

はかなげに十一月を鳴く蟲のくらきこころに
似たる愁か

北州は君に相應へりさびしげに撥を取る手に
愁漂ふ

疲れたるこころの底を顫はして胡弓かなしや
雨ふるゆふべ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Sよ、なとてさは聞きわけのなき

―岡本かの―

うるさしと叱(しか)るならねどなどてさは
聞きわけのなき汝(なれ)にかあるらん。

明(あか)き灯(ひ)の街にも近し聞きわけて
いざ涙をば拭(ぬぐ)ひたまへや。

つややかに涙のあとの君が頬を
てらし出せし街のともしび。

語るとき笑ふときより泣くときの

美しき君を見出でけるかな。
君かはた我が眸よりかふと面
あはせけるとき落ちし涙は。
常よりも優しなつかし今日のわが
涙にうるむ眼にうつる君。
つと涙おさへんとして左手の
指環つめたく頬にふれにけり。
味氣なき人の群より遠方の
君思ふことの淋しさうれしさ。
しのび來て入りもかねたる君ありや
門邊しづかに風わたる夜半。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

百年(ももとせ)も生きて抱かん誓ひをば
忘れてまたも死なんと云ふや。

姉と云ふ名のうれしきにあらねども
年ひとつほど多きばかりに。

うちつけの情(なさけ)にすこしまどひつゝ
我を見上ぐる眸(まみ)のあはゆさ。

おとなしく眼(まなこ)を閉ぢてとらはれし
子よいまさらにいかにかはせん。

かへり行く師走の夜半の風いかに
頬のくちづけのあとに泌(し)むらん。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜木林

―神崎恒―

風が鳴る。何處からか花が散つて來た。足許の草は皆青々と活きて居る。雜木林の中は重なり合つた若葉のさま〴〵な緣に包まれて、僅かに其の底の方にぽつちり蒼空が見える。薰さんと每日の樣に林の中を步いて居る中に、何時の間にか秋から春になつた。

英子さん！英子さん！　私は思はずさう叫びたかつた。かうして獨り林の中をぶら〳〵しながら、約束した薰さんの來るのを待つ間も、英子さんの事を誰に遠慮もなく考へられるのが、何より嬉しい。煩はしい規則で縛られた寮舍の中では、靜かに考へる事すら妨げられるのだつた。

「久子姉樣、此の字は何と讀むでせう」

といきなり本を前に出す子がある。お戶棚のお掃除をして下されだの、やれ切手を一枚貸して頂戴だのと、隨分うるさい目に逢はなければならない。この頃のいやなお部屋に堪へられない私は、暇さへあれば此處へ來る。

英子さんが鎌倉へ行つてしまつた當時は、がつかりして、まるで世の中が暗くなつた樣

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な氣がした。學校から寮舎へ歸ると、壁の黄色さと窓掛の白さばかりが眼に附いて、部屋中どこに一つ暖かな色も匂もない。英子さんの机の黒塗の硯箱の蓋に、薄白く塵埃がたかつて、筆立に二三本使ひ古しの筆がさしてある。私はいつもそれを見ると、少し俯向き加減に座つて居た英子さんの冷たい瞳を畫くのだつた。あのきれの長い美しい眼は氷の樣に冷やかで、まだ一度もわざとらしい笑や媚を浮べた事がない。雪の精を集めた樣な顏の白さ――と云ふよりむしろ蒼味の勝つた色は、北國の女と云ふ一種の暗い感じを誘ふのだつた。濃い眉や鮮かな生際や長い襟足は。輪廓の正しい顏立を、一層引立てゝ見せた。すらりとしたやせた身體に、荒い矢絣の着物がよく似合つた。聲も美しく澄んで居た――

ふと人の足音に氣が附いた私は、川添ひの道に薫さんの鼠色の袴を見ると、覺えず莞爾した。いつもゐ紅絞りの羽二重の袱紗に本を包んだ薫さんは、少しのぼせた樣な赤い顏して、靜かに此方へ歩いて來た。

「隨分お待ちになつて？」

「いゝえ」。

私はあわてゝ英子さんの事を、頭から去らうと努めた。薫さんは朱の緒の新らしい草履をきれいに揃えて、傍の木の切株に腰かける上手に櫛目の通つたローマを、私は上からし

げしげ眺めた。

「さあ貴女もおかけなさいな」。

薫さんは少し距つた切株を指さした。私はおとなしくそれに腰を下ろした。

「随分久しくお目にかゝらなかつたわね。

寮舎は如何？　やつぱりつまらないこと？」

薫さんは大きな潤ひのある眼に力をこめて、

私の顔を凝視めながら訊く。

「えゝ、變りませんわ、でもお休みの中だけは少し樂なのよ」。

「さう、ちや丁度勉强するにいゝわね。先達の血笑記およみになつて？」

とさう云はれて私は一寸ドギマギしたが、我れにもなく「えゝ」と云つてしまつた。

「どうお思ひになつて？」

疊みかけてさう聞かれた私は、いよ〳〵窮してしまつた。そして僅かに何だかよくわからなかつたと曖昧な返事をした。しかし薫さんはそれを僞だとは思はなかつたらしい。

「さうね、少しむづかしかつたかも知れないわね」。

と考へて、何かで讀んだ批評家の說なぞをいろ〳〵云ひ出した。私は感心して聞いてるば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かりだつた。まつたく私は薫さんと向合つて居ると、何だか強い力で惹寄せられてゞも居る様に、不思議な程此の人の云ふ事が、頭にしみこんで來る。哲學だの宗教だの藝術だのとそんな事を、口に出して云ふのさへ妙に氣恥かしかつた私には、内面生活(インナーライフ)だの、暗示(サゼツシヨン)だの、自意識(セルフコンシヤスネス)だのと、考へなければ意味のとれない言葉を、何の苦もなさ相に話の中に交へる薫さんは、よほどえらい人に見えた。慥かに自分より二段も三段も進んだ人だと思つた。

「あゝさう〳〵肝腎な用を忘れてしまつたわ、あのね、貴女私の塾へおはいりにならないこと？　寮舍よりたしかに自由(フリー)よ。空氣がまるで學校の寮舍とは違ふのですもの」。

と薫さんは、ふいと思ひもかけない事を云ひ出した。

「えゝ。さうなればいゝんですけど」。

「ぢや是非一つ校長先生にお願して見たらどうなの、何か理由をこしらへてね」。

「えゝ」

私は何だか嬉し相にさう答へたのを、自分ながら困つたと思つた。寮舍はいやに違ゐないが、英子さんがまた鎌倉から歸つて來ることを思ふと、決して外へは行きたくない。けれどもさう云つて斷るだけの勇氣が出ないのだつた。薫さんは私の級でも異彩を放つて居

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る人だ。將來きつと何かするだらう、せずには居ない人だと總てに見られる程、筆もしつかりして居る。薰さんの傍へ行つて私も一所に勉强させて貰へるのは、嬉しいには違ゐないが何だか氣が進まなかつた。親切な熱情のある人だとは思ふが、しみ〴〵なつかしい感じが湧かない。私は何だか英子さんの傍を離れて、西洋人の塾へ行くのは心細い樣な氣がする。

「ミスグリーンは大變喜んでいらしつてよ。いつからでもいゝんですつて」。

「さう――でもねえ……」

私は一寸言葉を濁らした。

「いけないの？　どうして？」

「いゝえいけないんぢやありませんけど、一寸出憎いわ」、

私はやつとそれだけ云つて、手に觸つたわらびの莖をいぢつて居た。薰さんは語氣を强めて、

「そんな弱い事ぢや駄目よ。許される迄根氣よく云はなくつちや」、

と云ふ。私はさう云はれると反抗し得ないできつと寮舍を出ますからと約束してしまつた。

「あゝ嬉しい、ほんとに私も力が出てよ」。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

薫さんは滿足して私の肩へ、しづとりと手をかける。私は泣き出したい樣な心持を押さへつけて、無理に笑つた。英子さん！と心の中で呼んだ。寮舍の乾からびた生活に飽きた私は、英子さんの胸に暖かさを求めると同時にしらず〳〵薫さんの强い力に惹きつけられて居た。私は薫さんと云ふ人を充分に理解し得ないで居ながら、どうしても離れられないつながりを作つてしまつた。それが私には嬉しい樣なまた薄氣味惡い樣な、いろ〳〵の感じがされる。

「これおよみになつた事あつて？」

と薫さんは袱紗の中から「春」を出した。私にはまだ初めての本だつた。

「私これ讀んですつかり氣に入つてしまつたのよ。此の中の人達のライフは、ほんとに私達の胸にひゞく樣だわね。殊に、透谷さんの死んだ事思ふと、何んだかぞつと身にしみる樣な氣がして」、

と感情の興奮した聲で云つた。透谷と云はれても、どんな人だかすぐ性格が浮ぶ程たしかな智識のない私は、只默つてきくばかりだつた。でも私には薫さんのかうした言葉や態度が、どれほど强く印象されたらう、私はまだ薫さんほどの女をこれまで知らなかつた。薫さんは私の知つてる女の中で、一番鋭い感覺と、はつきりした頭を持つて居る樣に思はれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。

午近い日光が木の間を洩れて、川向ふの畑からは陽炎がゆら〳〵立つて居る。いつもならば生徒の往來が烈しい畑の中の道も、今は春休みなので人の影もない。少さな板橋を越えた私共は、麥畑の中をあてもなく歩いた。目立たない程度に手ぎわよくお化粧した薫さんの顏を、そつと眺めた私は、この美しい人から會つてきかされた不思議な言葉が思出された。

「私は中性なんですよ」。

さう云つた薫さんの言葉は、私によく意味がわからなかつた。今でもわからない。私の單純な頭はさう、云ふ大膽な言葉を只驚いてきくより外知らなかつた。

「ぢやあお別れしてよ。寮舍のことは成可く早くなさいな、ね」、寮の裏門で强く念押された私は、薫さんの眸の燃える樣な輝きを、とても拒み得なかつた。

「えゝきつと」。

私はさうはつきり答へた。そして次の瞬間には、すぐ英子さんの冷たい眸を浮べた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

■この間の研究會だかその前だつたか忘れたけれども、らいてうにまた子供が一人出來たと聞いた紅吉の顔は實に見ものだつた。然しそれは猫の事だと分つた。

■その次にらいてうの圓窓の家に行つて猫を見た。その猫は灰色と白で尾の馬鹿に長い何となくらいてうの猫らしい。でも何だかあの尾の長い處が無氣味で油斷をすると化かされやしないかつて氣もするが、然し其處がホヽでも譯そうといふらいてうの猫たる所以かも知れない。

■らいてうは此間から二週間あまりも病氣で床に就いてゐた。それでも同人が何時行つても床の上に座つて、飜譯や小說を忙しさうに書いてゐた。でもやつと四五日前から外出が出來るやうになつた。

■紅吉も此の頃中耳炎でひどく惱んでゐる。それでも夜三時までも起きて氷で冷しながら表紙畫を彫つて吳れたのださうだ。同人は皆紅吉に感謝してゐる。

■紅吉の今の家は大變家相が惡くて長女が病死すると云ふのださうだ。紅吉は例の御幣かつぎからひどく氣にやんで此の間から直ぐにも引き越しさうな事を云つてゐたけれどもなか〳〵實現されない。

■新入社員　柴田かよ　林きみ　原阿佐緒　西田時子

■社費未納の方は早く東雲堂に御送り下さい。

■二月號には、婦人問題に關する男子の意見を發表する答になつて居る。阿部先生、生田先生はもう御承諾になつてゐる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寄贈書籍紹介

「妹に送る手紙」　水野葉舟氏著　（定價五拾錢）　實業之日本社發行

讀み終つた時にこの手紙を受とるといふ單純な美しい處女のお浮さんを想つた眞面目に、そして鋭敏な處女の感情の動揺に周到な注意を拂つて書いてある點など殊にうれしく讀まれた。書いてある事なども自分には同感の點が多かつた。何うかした女學校の倫理教科書よりもずつと面白くて得る處も多い。かう云ふ手紙を貰つて教育されて行くお浮さんは幸福な人だ。若い人達には勿論教育者の位置に立つてゐる人々にも是非一讀して欲しいものだと思つた。（野枝）

コサツク　トルストイ著　矢口達譯　新陽堂發行

繪の具箱　岡田千代著　籾山書店發行

兩方とも二月號に紹介する筈です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□寄贈雜誌

三田文學
早稻田文學
スバル
朱欒
黑燿
劇と詩
聖盃
黑猫
新人
新女界

モザイク
アラヽギ
近代思想
ホトヽギス
俳味
歌舞伎
六合雜誌
奇蹟
新潮
學燈

心の花
層雲
詩歌
微光(復活號)
ヒユウザン
スタヂオ
現代の洋畫
みづゑ
藝文

附録

新らしい女、其他婦人問題に就て

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛と結婚 ――エレン・ケイ著――

今エレン・ケイ著「戀愛と結婚」を飜譯するに先立つて私は其動機を一言して置きたい。私が彼女の名を知つた最初は昨年九月の太陽に出た金子筑水氏の「現實教」と題する一論文であつた。その論文を通じていかに彼女の思想に興味を有つたかはその日の日記に書き取つてある丈でも明かである。たしかその日の翌々日だつたかと思ふ、女子文壇の河井酔茗氏が見えて、今度同雜誌に諸家の戀愛觀を出す筈だから何か書けといふやうな御話だつた。私は例の憶病から御斷りしたが、同時にエレン・ケイを思つた。さうして「今月の太陽を御讀みですが。エレン・ケイの戀愛觀は何だか面白いものらしいやうですね。」と云つた。すると氏は「今森鷗外さんの處でも其話が出たのですが、餘程の女丈夫と見えますね。」と言はれた。私はまだ彼女の著書の名の一つさへ知らないので、「エレン・ケイの著書にはどんなものが一體あるのでせう」と訊ねて見たが、氏もよく知つてゐられないらしかつた。其後どうかすると彼女を思ひ出さぬでもなかつたが今日まで其著書に接する機もなく久しく過ぎた。ところが本月（十二月）の帝國文學に「自由離婚

說」と題して、彼女が同說の梗槪を紹介された石坂養平氏の論文に接した。さうしてそれが彼女の著、「戀愛と結婚」の第八章自由離婚の下に述べられたものだと分つた。折も折、私は「新しい女」と題する小論文を書かむがために、婦人問題に關する參考書をあさつてゐる最中だつたので、書名を知つたのを幸ひ丸善に行つた。

全體私は女には相違ないが、又世間の所謂「新しい女」とは其内容に於て全然違つてはゐるが、或意味で自分は新らしい女を以て自任してゐるものではあるが、實際を考へると、多くの場合自分は女だとは思つてゐない。(勿論男だと思つてゐるのでないことは言ふ迄もない。)思索の時も、執筆の時も、戀愛の時でさへ女としての意識は殆ど動いてゐない。只自我の意識がある丈だ。と同時にその自我を所謂光明の方面たると、暗黑の方面たるとを問はず自分のエネルギーのあらむかぎりに發展擴張し高調の世界に生きむとする根本欲求がある丈だ。(けれどその欲求とエネルギーとは殘念ながら常に相伴はないが。)もしこゝに人があつて、男でもなく、女でもない自我の觀念を笑ふならば、又人間たる以上は必ず男でなければ女だと主張するならば、そして私が女の髮と、女の乳房と女の生殖器を所有することによつて女の意識をもつて多くの場合生きてゐないといふのを卑怯だ、嘘つきだと言ふならば私は其人の自我意識を疑ひ、內觀の缺乏に基くことを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

斷言し、其淺薄を憫笑するに憚らない。自我深奥の消息は生理學や、解剖學や、世にいふ心理學を以て容易に律することは出來ないのだ。一たび自我の明確な意識に到達し、高上の世界に於ける人間神性の上に男女を認めない私は、斯くの如き自我に對する信念の上に生きて來た私は、さうして自我の根本欲求によつて、人間の眞正な本能によつて行動して來た私は世間と名づくる盲目の愚人が習俗的見解から放つ矢數がいかに多からうとも、又誤解と冷笑と罵詈の中に葬られやうとも、それは皆私自身にとつては、自我のやみがたを欲求の前にはあまりに力弱いものに過ぎなかつた。だから私は未だ曾て自分が所謂女として生みつけられた事を一度として眞に悲しんだことも喜んだこともない。（一寸したことに出逢つて、こんな時男だつたら都合がよからう位なことは往々思ふが）。

その故か自分は女なのにも係らず十九世紀から――いや十八世紀からださうだ――喧ましく言はれてゐる婦人問題も實のところいまだに自家心内の直接問題とはならずに來た。從つて左程の興味と左程の熱心とを以てこの問題を考へたことも、研究したことも實はあまりなかつた。（それよりも自分としてはもつと先に考へねばならぬことがあつたので。）自分の思考上の缺陷かも知れないが殊に社會學的、倫理學的基礎の上に立つてこの問題

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を考へることは殆どしなかつた。婦人問題、女性研究に關する書物を少し許り讀んだのは私には今回が始めてだつたと言つても差支ない。さうして其中にエレン・ケイの「戀愛と結婚」があつたことは言ふまでもない。

私は色々考へさせられた。さうして實に多くの問題に逢着した。

實に多くの問題に逢着した私は「新らしい女」に就て自己の意見を發表しやうとした最初の意志を捨てると共に來年の自分の研究問題の中心を婦人問題に置かうとまで決心した。今一つはそれと同時にまだどれ程の研究も思索も經ない内容なき自己の意見を敢て發表するの輕卒に出でるよりもエレン・ケイのこの著を目下の自分としてのある丈の理解力を以て忠實に飜譯する方がどれほど價値ある仕事だらうと言ふやうな謙讓の心になつた。

尤もこの間に、中央公論の記者瀧田氏から「新しい女」の原稿について再三の催促を受け、十二月號に已に豫告も出てゐるといふやうな次第なので次のやうな斷片的なものを書いて送つて置いたことは事實だが。

「自分は新しい女である。

少くとも眞に新しい女でありたいと日々に願ひ、日々に努めてゐる。

眞にしかも永遠に新しいものは太陽である。
自分は太陽である。
少くとも太陽でありたいと日々に願ひ、日々に努めてゐる。
湯盤の銘に曰く、「苟日新、日々新、又日新」と、大なるかな、日に日に新なる太陽の德よ、明德よ。

新しい女は「昨日」に生きない。
新しい女は最早しいたげられたる舊い女の步んだ道を默々としてはた唯々として步むに堪へない。
新しい女は男の利己心の爲めに無智にされ、奴隷にされ、肉塊にされた舊い女の生活に滿足しない。
新しい女は男の便宜のために造られた舊き道德、法律を破壞しやうと願つてゐる。
けれど舊い女の頭に憑いた色々の幽靈は執拗に新しい女を追ひかけてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「今日」が空虚であるときそこに「昨日」が浸入してくる。
新しい女は日々に色々な幽靈と戰つてゐる。
油斷の刹那「新しい女」も舊い女である。

自分は新しい女である。太陽である。唯一人である。少くともさうありたいと日々に願ひ、日々に努めてゐる。

新しい女は啻に男の利已心の上に築かれた舊道德や、法律を破壞するばかりでなく、日に日に新なる太陽の明德を以て心靈の上に新宗敎、新道德、新法律の行はれる新王國を創造しやうと願つてゐる。

實に新しい女の天職はこゝにあるのだ、さらば新王國とは?新宗敎とは?新しい女はいまだそれを知らない。只新しい女はいまだ知られざるもの丶ために、研究し、修養し、努力し、苦悶する。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新しい女は今は只力を欲してゐる。自己の天職を全うせむために、知られざるものゝために研究し、修養し、努力し、苦悶するに堪へる力を欲しつゝある。新しい女は今は美を願はない。善を願はない。只、いまだ知られざる王國を造らむがために、自己の尊き天職のために力を、力をと叫んでゐる。」と。

今、私は第一に自分の前に、第二に同じく婦人問題を研究し、解決せむとする青鞜社員の前に、第三に世の多くの婦人の前にこの書を（拙譯ながら）提供するの光榮を擔ひたい。

けれど私は語學の上に何の自信もゝたない。私が女子大學英文科出身のやうに世間に紹介されてゐるやうだが實は家政科出身なので（それも森田草平氏と鹽原に行つて以來其の資格を奪はれたから實は自分の口からはそれも云へない筈なのかも知れない）卒業後のあやしい獨學で、辛じて讀んでゐるのだから、今日本に自分より英語學力ある婦人は何千人あるか知れないといふこと位氣付かない自分でもないが、自分の如くこの書に興味を有し、この書を譯出するの勞を惜しまない婦人は自分を外として今日本にあらうとは信じられないので敢て無法の冒險を試みるのである。さうしてこの自信が私の語學

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

力の缺乏をよく補つてくれることを祈つてゐる。

最後に私はエレン・ケンを私に紹介して下さつた金子筑水氏と坂本養平の兩氏に感謝せねばならぬ。

序ながら言つて置くが、青鞜社は世の所謂新らしがらむとする女を煽動して一種のムーヴメントを起さむとするものゝやうに考へる人があるならばそれは甚しい誤解である。由來團體を作つて或運動をするやうなことはとかく內容なき空騷ぎに終つて徒らに個人の尊き精力を消耗するに過ぎない場合の多いのを知つてゐるから殊に私は好まない。前年某々婦人達によつて唱道された男女同權論や、婦人參政權運動等は果して婦人の上にどれ丈の貢献をしたらう。自己內生命の覺醒、新生命の發動に基かざる何等の根底なく、內容なき運動は氣の毒ながら時ならずして水泡に歸するの運命を有してゐる。しかもいまだ何等の定見もなく附和雷同を事としてゐる今日の多くの日本婦人を相手どつて或運動を興さうとするやうなことは愼むべきことだと自分は考へてゐ。我々青鞜社員が目下の急務のとして努めるところは新人として、眞に新しき女として心靈上の自由を得た完全な一個の人格たらむとすることである。

もし社會に向つて或運動を起すことがあるならばそれはそれ次に來る事でなければな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らぬ。預言者宮崎虎之助夫人光子氏は青鞜社員達が公會演說會を開いたらよからうといふやうに言つて下さつたのは忝じけないが、又社員の中にもさういふ意見を有つてゐるものもあるにはあるが私は空虛な御祭騷ぎを恐れるから容易にまだ同意することは出來ないのである。

目次

一、性的倫理發展の過程。
二、戀愛の進化。
三、戀愛の自由。
四、戀愛の撰擇。
五、母　　權。
六、母務解除。
七、聚合的母心。
八、自由離婚。
九、新結婚法。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（本文にとりかゝる前に彼女の傳ま著書や、此書に對する批評の一般を知る必要があると思ふから、此書に寄せたハアベロク・エリスの序文からまづ譯出することにした。）

序

始めて英國で出版されたエレン・ケイの一番めぼしい著書は英語界では誰れ知らぬものもない。彼女の Century of the Child は英國に於けると同樣、米國に於ても已に多數の鑑識ある讀者を有つてゐる。エレン・ケイはガスタヴアス・アドルフアスの下で戰つたスコットランド高地方人、マッキー大佐の子孫だが、彼女は名門に生れたことに少なからぬ意味を置いてゐる。彼女は常に英國の事物に興味を有し、いぎりす大帝國の人生や文學によく親しんではゐるが、何と云つてもまづ第一に北歐に親しんでゐる。

彼女は一八四九年、瑞典なる父の所有地、スマーランド地方に生れた。父は過激な急進黨として瑞典の國會の大立物だつたが、母は高貴な古い家柄の代表的婦人であつた。この二人の仲の長女、エレンは幼時から自然と自然の事物に對する愛情が著しかつた。自然に對するこの熱愛は遺傳とも考へられる、何せなら彼女の曾祖父はルソーの熱心な學徒で、殊に彼の有名な敎育說を崇拜してゐたから。曾祖父は自分の息子を「エミール」と名づけた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その名はエレン・ケイの父にまで傳へられた。多分ルソトの說に從つて、この若い娘も幼時から、泳ぐことや、船を漕ぐことや、馬に乘ることや、其他男兒に對してさへ普通差控へられてゐるやうな、運動をも敎へられてゐたことであらう。と同時に彼女は音樂を好み讀書に耽つた、その中にはスコットの小說や、セークスピアの戯曲があつた。幼少の熱心はゲーテの Hermann and Drothea に注がれてゐた。この書物が敎へる自然的な、美的な、そして調和的な生活の理想は決してエレン・ケイの心を離れなかつたといつても差支ない。彼女は主として獨逸、佛蘭西、瑞典の敎師に家庭で敎育された。併し猛烈な、そして獨立的な非常に個性を有つた少女は取扱ひ難く、よく人に誤解されるといふことは容易に信じられる。何人でも The Century of the Child に述べられた兒童に對する同情的態度や、兒童の健全な本能を尊重することなどからそれのことを推察することが出來る。幸にも若きエレンには賢明な母があつた。彼女はその母に負ふ處が多かつた。母は精緻な直觀で、娘が家庭の仕事に無頓着なことを大目に見、自由に彼女自身の本能に從はせると同時に彼女の發展の上に思慮深き感化を與へた。なほ少女の時、ビヨルンソン其他北歐作家の感化を受けたこの未來の著述家は國民狀態の硏究に身を獻げやうと決心して、農民生活を描いた色々の小說を書いた。併し母の注意――それは娘は確に小說を書かむがためにこの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

世に生れて來たのではない。何故から彼女の重大問題は彼女自身の心靈問題なのだからといふ――は創作をすることが自分の天職ではないといふ眞理に彼女の眼を開かせた。併し自分の生涯の事業が何であるかはなか〳〵分らなかつた。彼女の空想は名をなさむとするよりも寧ろ戀愛や母たることにあつた。

彼女はビョルンソンと生涯親しい友情的關係を結んでゐた。彼は彼女がまだ何も書かない中から其の優れた才能を認め、又彼女の方でも彼の天才と氣力と善良な性質とを十分に崇拜してゐた。エレン、ケイは北歐の他の世界的文豪をもその作品を通じて知つた。十八歳の時母が Love's Comedy と Brand と Peer Gynt を彼女に贈つたことは又彼女の生涯に影響を及ぼした一事件であつた。其後彼女の注意を惹いた著者の中にはエリサベス、ビー、ブローニングや、ジョーヂ、エリオットや、ジョンスチュアード・ミルや、ハーバート・スペンサーや、ジョン・ラスキン等があつた。廿三歳の時、エレンケイは始めて歐羅巴の總ての主要地に旅行に出かけたが、それ以來絶えず旅行し續けてゐたと云つても差支ない。最初は父の書記官となり、信任者となり、又は殆ど共力者のやうにもなつて行つた。さうして彼女は次第に新聞雜誌に筆を執るやうに導かれた。併し藝術に對する愛着心がこの若い頃の旅行の主たる動機だつたやうに思はれる。何故なら當時エレンケイは日頃それよりも偉大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な天職に心を奪はれてゐるやうに繪畫に夢中になつてゐたから。彼女の繪畫に關する該博な知識は彼女が後年の著作に快い光彩を屢々放たせた。とはいへ千百八十年の後、農業上の危機の結果、父が其財産を失ふやうになつて、彼女は三十歳にして處世の方針を選ばねばならぬやうに余議なくなつた。さうして一時女學校の敎師になつた。全體彼女は日頃から敎育といふことには心を惹れてゐた。さうしてずつと以前ビヨルンソンに唆されてデンマーク學校制度を研究したこともある。後年に至つて彼女は文學、歴史、並びに美學に關する講演を數回した。又二十年間、彼女はストツクホルムのポピューラア大學に於て瑞典文明史の講座を擔任してゐた。

敎師として世に出た最初の何年かはエレンケイの生涯の中、多くの努力、困難や、一身上の不幸から來る心的壓迫の一時期だつたやうに思はれる。是等の不幸の中には彼年が極親密にしてゐたソフィーコウァレスキー、シヤロットレフラー、エルンストアールグレン（これは自殺したのだが）等の四五の高名な婦人が僅の間に相續いて死亡したことなどもあつた。彼女はまだ充分發達してゐなかつたし、又この世に於ける自分の眞の地位をも發見してゐなかつた。まだ廿歳の娘だつた時、瑞典の有名な女權主張者ソフィー アドラースハアルに其才能を認められ、彼の雜誌に執筆すべく勵まされたけれど エレンは何の自信

もないことをいつも恥ぢて、遠慮ばかりしてゐた。この行爲は門外漢にはかの嘘つきのコリーンのやうな者と彼女を思はしたかも知れない。彼女は中年に至る迄、何の書物も公にしなかつた――彼女の最良の著書は主に現世紀に屬する――さうして文學や美學の問題を公に論ずる迄には自分の憶病に打勝つたが、激烈な反振を惹起すやうな危險なさうして困難な問題に公然觸れることはまだしなかつた。彼女の潛在せる勇猛心を奮ひ起させるには一番胸の奥底に包んでゐる彼女の確信の上に一槌を下す必要がある。ところが其機會が來た。それは宗教並に性的倫理に於けるダアウインの敎義に就て自分達が認めるまゝに其斷案を自由に論じた青年を獄に下さむ爲めに、異端に對する瑞典の舊法律が再興された時であつた。エレンケイにとつては個人の意見、並に個人の發展に關する權利ほど神聖な何物もなかつた。彼女は不斷から不公平な、又は壓制的な觀察を深く憤慨してゐたのだが、今や此機に當つて、彼女は其兒を守護する牝獅子のやうな格鬪振で躍り出た。ジョーヂブテンデスの說によれば彼女は生來の說敎家である。今や彼女は其胸に懷く主義を行はむために彼女の雄辨を以てした。此問題に就いて彼女の論ずるところは中庸を得てゐるのと、巧妙なりと、學識あるのとで著しかつた。併しこの際の彼のの態度は其の異の地位を公に表すに役立つた。その時以來、瑞典社會の習俗に重せられてゐる人達は在來の法律に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

從つて、大膽不敵な首唱者に向ふ見ずな、又手當り次第な不法を加へることを正當と考へた。ところが彼女の方では、其心の中に母としての多くの心情と、子供としての多少の無邪氣を有する眞の婦人の性質を保ち泰然として動かなかつた。併し間もなく彼女の文學上の活動力は彼女自身の生來の氣質と共に發展した。さうして後年に及んで彼女は人生並に心靈の根本問題を公然說くに至つた。引續いて公にされた多くの書册は法式に於ては破格で、文體も亦特殊なものだが、著者の思想感情を運ぶに自由自在で、燃えるやうな熱誠に滿ちてゐるのみならず、なほ又精緻な直觀や、圓熟した智惠に富んでゐた。千九百〇三年に彼女の最も浩翰な著述 Lifslinjer の公刊が開始された。其著述中、最初の二册が玆に英語讀者に提供された此書物だ。それから二三年後に The Century of the Child 千九百九年にその最も廣い關係に於て婦人運動のためになされた最良の記述として多くの人から考へられた The Woman's Movement が公にされた。エレン・ケイは又カール・ジョナス・ルドウイック・アルムキイスト、ブラウニイング家、アンナ・シャロット・レフラー、エルンスト・アールグリン等の文學者に關する多くの長論文を公にした。其人達は彼女自身の理想の或方面を說明するものとして彼女の心を動かした人達だつた。是等の中で最近のものはラヘル・ファーンハーゲンに關する長論文である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エレン・ケイは北歐人であり、又恐らく其地方の代表的人物として第一におされる婦人だとさへ云つて差支あるまい。且又彼女は故國を愛し其國の勝地アルヴアストラに家を立て、晩年を送る積りでゐるが、其處は有名な瑞典の聖者ブリギタとの關係で已に神聖な場所とされてゐる古代瑞典の僧院の舊跡に程近いウエッタ一湖畔である。併し預言者は其故鄕では尊ばれない。立派な瑞典人でもエレン・ケイが故國の上に放つた名譽を自國の名譽として主張することを切望するものゝ稀なのは見易いことだ。彼女の名聲は獨逸であがつた。今日では獨逸人、就中獨逸婦人は婦人運動の新局面を長夜の眠から醒めて堂々と開始しつゝある。この運動の第一步は十八世紀に始り、其理想は主として男子に對すると同等の人間の權利、即ち敎育せらるべき同等の權利適當な職業を採るべき同等の權利、政治上の同等の權利等を女性に向つて要求する有名な英國婦人達の相繼いて起るによつて形成されてゐた。一世紀の中にいまだ完全には實現されなかつたが是等の主張は漸次に道理あるものとして益々一般に容れられて來た。

併し、それと同時に、是等の要求は重大なものではあるが決して婦人問題の全部を占めてはゐないことや、又一方では是等の要求を別々にして見ると誤つた方向に導く傾向即ち女子を男子化し、人種の要求を無視してゐたといふやうなことに氣付きだした。解放に對す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る彼等の熱心のあまり、時には婦人が其性から解放されることを切望してゐるやうに思はれた。男子が自然と女子よりも卓越した人間と考へられてゐた時代では殊にこの樣に人間としての婦人の位置を要求する丈では不十分で、それと共に女としてこの世に於ける婦人の位置を要求することが必要になつて來た。一見して分るやうにそれはより狹い要求にあらずしてより廣い要求であつた。何故なら單に人間としての根據に立つ婦人は男子と同等に競爭場裡に陷れられ、しかも普通問題の解決には彼等自身何等貢献することを許されないばかりか、何より惡いことには人類の母としてのその世に於ける最上の位置が全く無視されてゐたから。それ故女としての婦人の根本權利の主張は同時に婦人が與へねばならぬ最良のことに對する社會及人種の權利の主張を意味する。曾て一度、人間の根本衝動に關する花々しい主張で歐洲文明を指導し、それ以來社會組織の上に於ていつも卒先者であつた獨逸人が婦人運動の新機運の叙幕式に主として與つたのは決して偶然のことではない。

エレン・ケイの著書の刊行は性の問題の上に完全を期し、實際を尊ぶ彼等チユートン族の特性を以てする獨逸人の輓近思潮と其時期が符合した。それだから世界に對する多方面の觀察力を有し、人間胸奥の秘密に就いて大膽なしかも靜平な記述をしたこの瑞典一婦人が其最も女らしい方面の運動の自然の指導者として迎へられたのは別段あやしむに足らぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エレン・ケイの言ふ通り戀愛は婦人問題の心髓である。就中 Lifeslinjer の始めの書冊は一世紀前、メリー・ウオルストンクラフトが公にした「女權の要求」より近代的な、さうしてもつと完全な意見を婦人問題に貢献してゐる。

米國に就ても同樣に云へやうが英國に於ける我々はまだ單に婦人運動のこの新機運の初にあるのだ。我々は主に男子と等しかるべき女權に就いてのみ考へてゐたのだが、今や男子と異なるべき女權を理解し始めた。エレン・ケイの理解する處にすれば、其權利は初期の要求と一致する權利と共になほそれ以上のものをも含んでゐる。各派の獨斷的な狂信徒等がエレン・ケイを容れることの出來なかつたのはさもあるべきことで、彼女は彼等を理解し、我々がモンテーンやセークスピアやゲーテの學徒に期待するやうな或同情的寛大をもつて彼等を取扱つたにも係らず彼等は彼女を理解することが出來なかつた。彼女は多方面で、眞理の兩面を見、且それを受容するに十分適してゐた。彼女が最初に書いた論文に於て或人は兩立しがたいものと假定してゐる個人主義と社會主義とがいかによく一つに織り込まれてゐるかを示したが、今や同じ方法で人種の生育と戀愛――人種の社會的要求と愛の個人的要求――の必ずしも矛盾するものでないといふことを示した。同樣に彼女は助けること、救ふこと、慰めることが女權の最大なものだと宣言した。併し彼女は婦人を亦公民

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

權を所有しなければ其權利を十分實行せることが出來ないと附言した。かくして相互の狹隘な黨派心を打挫いた。細事に亘つて意見を述べることは多くの點で差控へやう。何はともあれ、エレン・ケイは――或點で血族關係あるオリーヴ・シユレーネルのやうに――單に孤立的な一方面の改革にとゞまらず一運動の豫言者である。彼女の著は彼女が内心そのものゝあからさまな表現である。特に我々はこの書に於て其人格が現代の主要な倫理力の一つなる感化力ある一婦人の面前にあることを感ずる。

一九一〇、九、ロンドンにて

ハアベロック・エリス

らいてう譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新らしき女の道

―伊藤野枝―

新らしい女は今迄の女の歩み古した足跡を何時までもさがして歩いては行かない。新らしい女には新らしい女の道がある。新らしい女は多くの人々の行止まつた處より更に進んで新らしい道を先導者として行く。

新らしい道は古き道を辿る人々若しくは古き道を行き詰めた人々に未だ知られざる道である。又辿らうとする先導者にも初めての道である。

新らしい道は何處から何處に到る道なのか分らない。從つて未知に伴ふ危險と恐怖がある。

未だ知られざる道の先導者は自己の歩むべき道としてはびこる刺ある茨を切り拂つて進まねばならぬ。大いなる巖を切り崩して歩み深山に迷ひ入つて彷徨はねばならぬ。毒虫に刺され、飢え渴し峠を越え斷崖を攀ぢ谷を渡り草の根にすがらねばならない。斯くて絶叫祈禱あらゆる苦痛に苦き涙を絞らねばならぬ。

知られざる未開の道はなを永遠に默して永く永く無限に續く。然も先導者は到底永遠に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生き得べきものでない。彼は苦痛と戰ひ苦痛と倒れて、此處より先へ進む事は出來ない。かくて追從者は先導者の力を認めて新らしき足跡を辿つて來る。そして初めて先導者を讃美する。

然し先導者に新らしかりし道、或は先導者の殘せし足跡は開拓しつゝ歩み來し先導者にのみ新らしい道である。追從者には既に何等の意義もない古き道である。

かくて倒れたる先導者に代る先導者は更にまた悲痛に生きつゝ自己の新らしき道を開拓しつゝ歩いて行く。

新らしきてふ意義は獨り少數の先導者にのみ專有せらるべき言葉である。悲痛に生き悲痛に死する眞に己を知り己を信じ自己の道を開拓して進む人にのみ專有さるべき言葉である。何等の意義なき呑氣なる追從者の間には絕對に許さるべき言葉でない。

先導者は先づ確固たる自信である。次に力である。次に勇氣である。而して自身の生命に對する自身の責任である。先導者は如何なる場合にも自分の仕事に他人の容喙を許さない。また追從者を相手にしない。追從者はまた先導者の一切に對する批判者の資格を有しない。權利がない。追從者は唯だ先導者に感謝しつゝその足跡をたどるより他はない。彼等は自から進む事を知らない。彼等は先導者の前進にならつてやうやくその足跡を辿つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

進む事が出來るのみだ。

先導者は先づ何よりも自身の内部の充實を要する。斯くて後徐ろにその充實せる力ある勇氣と、しかして動かざる自信と自身に對する責任をもつて立つべきである。

先導者は開拓しつゝ進む間には世俗的の所謂慰安などは些もない。終始獨りであるそして徹頭徹尾苦しみである。悶えである。不安である。時としては深い絶望も襲ふ。唯口をついて出るものは自己に對する熱烈な祈禱の絶叫のみである。故に幸福、慰安、同情を求むる人は先導者たる事は出來ない。先導者たるべき人は確たる自己に活くる強き人でなくてはならぬ。

先導者としての新らしき女の道は畢竟苦しき努力の連續に他ならないのではあるまいか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人類として男性と女性は平等である　――岩野清――

現在に於て男性が我々女性よりも智識に、才能に優者であることは私は否定しない。私は現在に於て男性を先輩として尊敬する。

然し私は世間の婦人を論ずる或者のやうに、絕對に女性が男性よりも劣者であると云ふ說には肯定できない。私は世の婦人論者の多數が、徒に男女體質の强弱を比較して見せたり、生理上の關係を上げたり、神話的の男女の善惡を並べたり、境過上から修養された遺傳的男性智能の發達を誇つたりする淺薄な、形骸比較論には斷じて服すことは出來ない。

近頃或知人の家を訪問した時其家の主人がこんな事を云つた。

「女二人の力量と男一人の力量とは相等しい。それだから男は先天的に女よりも優者である」。

私は此辭を聞いた時時思はず失笑した。

もし論理に於て力の優つたものが尤も優者だと云ふ論が成り立つものとすれば、我國に於ては相撲が何人よりも優者でなければなるまい。又相撲よりは熊、大蛇などは人間よりも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

優者であるべき事になる。更に虎、象、クロコダイル等はより以上に高等動物であるかもしれない。彼等猛獸の男性との力の强弱は、決して女性と男性との差ではない。然も人類は彼等猛獸よりは高等動物だと云つてゐる。即ち單なる腕力の問題が動物の優劣論に關係ない事は自ら說いてゐるのである。然も女性との比較論に於ては男性は此前提を破つて力優るが故に先天的に優者だと云ふのである。

生理上の關係に就ても亦同樣な矛盾を云つてゐる。女性は妊娠其他の故障に依て活動時期をさまたげられる事が多い。だから女性は男性と共に社會上に馳驅することは出來ない。故に女性は家を守るのが天性である。然るに男子と同等に社會に活動せんとするが如きは女性の生理的事情を無視した愚見である。又女性は頭腦幼稚にして理性に缺けてゐる。物を見るに單純にして感情に奔り安いから男性よりは劣者である。

世の女性論者は大抵こんな事を云つてゐるのである。

古い諺ではあるが「人は病の器」と云ふのがある。男性と雖も人である以上、病なきを保し難い。何時病に犯されぬとも云はれまい。否、不時に病に犯されるまでもなく、社會現狀よりみて疾病はます〳〵多くなつてゐる。原始時代の人類には殆ど知られなかつた病まで世の進むに從つて複雜多樣になつてあらはれて來てゐる。今日文明人と許されてゐる人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人は此複雜多樣な病を背負つてゐるのである。各身につけてゐるのである。然し文明人が疾病多くして野蠻人が疾病少なき故に生存競爭上野蠻人におくれを取るとは考へまい。

ましで婦人の月經の如きは生理上よりくる自然の經過である。決して疾病ではない。健康なる婦人にとつてこれがために事業や職務を廢させる程の苦痛ではない。現に婦人にして個人として職業を持つて活動してゐる婦人が我國にも多々あつて證明してゐる、姙娠に至つては結婚婦人にかぎる問題にして、然も普通二年に一回か三年に一回のものなるが故に又事業上に大なる故障と見るべき程のものではない。假に一歩ゆづつて多少生理上から故障が起るとしてもそれ故に人類として平等に許さるべき思想の自由權利の平等を制限さるべきいはれはない。

智識の問題に至つては、冒頭に述べた通り男性は現在に於て一般に女性よりも優者ではある。然し智識の王國に入るを禁じ、永く家庭に囚へて置いた今日迄の女性と、自由に智識國に入る事の出來た今日の男性とを比較して女性に理智の能力なしと斷定するのは問違つてゐると思ふ。男性は只一日の長をもつて、徒に、後輩たる女性を劣者だとあなどつてゐるに過ぎない。

維新當時に於ては我國民は、英米獨魯佛の國々から、確に劣等國民とみなされてゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然し我國民にも彼等と同等の智識を受入るべき素質があつた。四十五年の歲月は現實に之れを證明してゐるではないか。

今日の女性を以て男性より劣等な人類と論ずるは、あたかも維新當時の日本國民を劣等人種と考へ居たる彼の泰西諸國民と同樣の早見である。

佛敎が女性を惡魔と說きたる、或はアダム、イブの神語を唯一の眞理として、女性を論ずるもの丶如きは、單なるお伽噺の一種或は女性壓迫の方便の爲めに古き男性の作つた惡罵を只單純に口まねしてゐる愚者である。

「罪惡のかげには女がある」

斯う云ふ諺がよく世人の口にのぼる。然り世間の出來事は何事によらず男性のみにて行はるべきものでない。社會は文野を論せす男女兩性の共同生活から成り立つてゐるのである。故に社會萬般の出來事が男女兩性によつて起るのは當然である。罪惡が常に男女兩性の相よつて行なはる丶如く、善行も亦男性のみによつて行なはれないのも事實である。故に云ひかへれば

「善行のかげにも常に女あり」ともなるのである。

彼等婦人論者は少しくも目を動物學の研究にさらして見る必要がある。彼等の謬見は顯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はれたる形體の上にのみあまりに重きを置いてゐる。男女兩性を絶對に區別してゐる淺見が根本の誤解をなしてゐるのである。

勿論私は動物學者ではない。動物學に就て深い智識は持つてゐない。然し狹い私の讀書から得た動物學に就ての智識の中に於てすら男女兩性が絶對に相異なるものでないことを證明されたのである。少しく立入るきらひはあるが一言云はしてもらひたい。

或中年になつた婦人が、生理上の變化から生殖器に變化を來たし、遂に男性になつたと云ふことを、或醫書で見たことがある。又男女兩性をそなへたものが一方を切斷してから純然たる女性的性格を帶びたと云ふ事實も書いてあつた。これらを見ても男女兩性が生殖に於て相違あるのみにして根本の人類としては相容れない程の差別なき事を證明できるではないか。

然し私は玆で動物學を論じやうとするのではない。只男女が先天的に優劣の區別を持つて生まれたものでないことを云へば足りるのである。男性と女性が野蠻人と文明人との智識能力相違の如く區別する世の婦人論者の蒙を啓くことが出來れば足りるのである。

我々は母の體內に於て性の區別を受くる先きに人類の種として宿つたことを云つて置きたい。然して後に性の區別を受けたのであることを云はなければならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

我々は人類の中の女性である。女性と云ふ人類ではない。人類として思想の自由を許さるべきものであれば、女性も亦思想の自由を許さるべき理山あることを否定されない道理である。して其思想に於て舊道徳を認めないとしても何人かそれを止する權利があらう。「匹夫も志を奪ふべからず」。古人既に云つてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「新らしい女」に就いて――加藤綠――

旣う「新らしい女」と云ふ言葉は此の頃では耳馴れて古い響きを傳へるやうになりました。新聞に雜誌に此の言葉が繰り返されてまあ此の樣な人迄がと思はどによくも新らしい女を解しもせずに兎や角云ふのが私等の目には實に片腹痛く思ひます。抑々新らしい女とは唯最近にのみ生じた女性のみの謂ではないでせうと思ひます意味は異ふがどんな時代にも必ず從來、現在の型(タイプ)を破つて出た女があつたでせう。其の時に此の新らしい女と云ふ名の代りに變(かは)り女(もの)とかお轉婆女とか云はれたのです。又外形――即ち髮の結ひ方とか服裝とか云ふものにも新らしい道を行つた者もあつたでせう。それが丁度「新らしい女」が現今では流行の衣裳のやうな勢で現れて來た。世間では一寸目新らしい從來の習慣より突き出た事をすれば直ぐ「新らしい女」と云ふ名をつけて騷ぎ出す。全く新らしい女は風船玉のやうに安々と揚げられてしまいました。又其の風船玉を揚げて手を叩いて喜んで居る坊ちやん孃ちやん達の有髯男子が多い世の中なんです。私は願くば世の女性論者が最も眞面目に此の時代の女を研究して欲しい。而した上で惡評なり善い評なりして頂き度いのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

所謂猫も杓子と云つた風に矢鱈に吾々女性を弄して貰い度くありません。丁度パリのサロンでどんな人でも彼の判らない三角ばかりのキユービスの繪や人形（でく）見たやうな未來派（フユーチユアリスト）の繪の前に立つて判つたやうな顏をして批評する見物人のやうに唯目新らしい女を見て何が何だか解らずに騷ぎ立てる人々を私等は大に攻めなくつてはなりません。

兎に角新らしい女とは今日のあたりに現れた女ではない、明治二十一二年頃の我政變の頃に女乍ら自由を叫んで立つた福田英子女史などもありました、然し此の時代の女は髮を束髮にし、英語を少しばかり口にし、政事や時代を論じて世間からお轉婆視せられたとは云へ「女」として深く自覺し、思慮したのではありません、唯時勢と云ふものに操（あやつ）られて盲目的に男性の半に交つて活動した越があります。熱烈ではあつたでせうが冷靜に「女性」と云ふ位置に立つて考へなかつたよりです。現今のかりにも眞の「新らしい女」と云はれる者には、深刻な時代の煩悶があります。唯外見の行爲のみを見て兎や角云ふ男子の決して解することの出來ぬ眞面目な考へがあります。私は左に私等新らしい女としてどんな道を進むで行つていいか考へて見たいと思ひます。

「新らしい女」はどう云ふところから現れるか？國亂れて忠臣出で、家貧にして孝子出づの如く此の宗教道德、混沌として亂れた過度時代は遂に此の「新らしい女」を生みました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

從來男子と云ふ者に頭を押へられて三從の敎へに縛られて文字さへ世間さへ勿論自分の影さへ顧るを許されなかつた女それが突然に重い壓迫の手をはねのけて頭を突き上げました、又此の「新らしい女」が頭を上げたは其の押へて居た手の浮んだ爲めもあります。即ち男子は今迄女子を道具のやうにして扱つて居ました。何でも男子の心の儘になるものとして居ました。それと同時に生活の責任と云ふものを一身に背負つて立つて居ました。女を養ふに男子の普通の務めとして居ましたが、然し現今の男子は矢張現代的、世界的苦痛と煩悶、懷疑に迫られて非常な苦しい位置に立つに至つた。從つて生活難はひしひしと身に喰い入つて來る、思想上の煩悶懊惱からは逃れる事が出來ぬ。個人主義は遂に女迄をも養ふだけの餘裕を與へなくなりました。從つて女に對する男子の權利が減じたと同時に女子の權利が上がつて來ました。これではならぬ!と思ふやうになつて從來の首を垂れて何等も御無理御理もで居た女が男子に對して頭を上げ自分の位置を守るやうになりました。第一に女は一人で生きねばならぬ男子を手賴つてのみ居る事は出來ぬと、然る時に男子と同じ位置に立つて生活を爭ふやうになりました。噫!今迄男子にのみ特別に許された道德、自由。それを默して居た從來の女も男子の理不盡を責むべき權利を有して來たと同時に、男子と同じやうな自由を得べき者だと自覺して來ました。「女」と云ふ名の許に縛られて居

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た者が、人間として目を覺まして來ました。

扨て今度は個人として云つて見たなら即ち境遇に依つて生れる「新らしい女」、譬へばイプセンの「人形の家」のノラ、「故鄕」のマグダなどが左樣でせう。家庭と云ふものから生ずる種々の事件や壓迫の爲めに止む無く自覺される女――境遇が生む「新らしい女」です。又先天的彼の同じくイプセンの「建築師」のヒルダ又ヘッタガブラーなどは生れるつから新らしい女の性を得て居た。現代のやうに男子は勿論何物がの刺激を求めて止まぬ如く、女も眠つたやうな平凡な單調な生活にあきて來ました。從つて常に或物を憧れて居ます。氣分の充實、それです內慾にのみ走る男子の戀には到底滿足は出來ません。もつともつと靈肉の滿足が欲しい。凝乎と自分と云ふ者を傍觀して見度い、男子に對しても從來のやうな尊敬を以て見ない。或は慘憺と云ふやうな心を以て相手を見る。丁度ヘッダカブラーが昔自分を戀した男に對したやうに、又其の男の戀人を無慘に弄むだやうに、彼のヒルダが幼い時から奇なる空想に憧れて果ては高い塔に演せられる慘劇を待ち焦れたやうに……丁度さうした心が新らしい女にあるやうです。冷靜に運命の來るを見る。世間の出來事に對して批評的に凝乎と觀察する。それが新らしい女の態度ではありませんでせうか、彼の羅馬ネロ王時代に花の如き貴婦人、淑女が競技場に於て眼前に演せらる實に目も向けら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れぬ悲慘極まる光景を平然と見て居られる――私はサロンの書集の中の End of spectacl at Nero's circus を見た時に却つて其の女達の凄壯な美にうたれた位です。然し是れほどまでゝもないでせうが、現代の新らしい女には確に斯うした強い刺激を平然として受けいれられるところがあるでせうと思ひます。

前に述べましたは新らしい女の生ずる所以。扨て是等新らしい女は如何なる態度を以て世に立つて行くか？又新らしい現代の女として如何なる新らしい道を進むべきか？

第一に男子に手頼らぬのがそれでせう、職業について自活する。今の日本で騷ぎ立てる女の多くは藝術家から出て居るやうです。物を客觀する。第三者の位置に立つて自分をも見なければならぬと云ふ點から、又藝術、殊に文學などは自然と眠つて居る自己を呼び覺ますところが多い。ですから藝術の爲めに自覺される女が多い所以かと思ひます、で前に云つた自活も多くは此の藝術に手頼る者が夥しい現です。書家、文學者、女優、それ等が最も華々しい道と同時に世間の人も目を止める。そこで「新らしい女」「新らしい女」が叫ばれる。兎に角男に手頼らないとしたならどうしても獨身で居なければならないでせう。現今の新らしいと云はれる女は大方獨身者が多いやうです。それに未だ生活と云ふ辛い味を知らない方が多いやうです。親の手許で、親の金子で我儘をするうちは何と云つても深

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

刻でないと思ひます。

次に考ふべきは十人が十人、百人が百人皆此の獨身で一生居られるか、如何か？これが目下最も重要な問題だと思ひます。殊に青鞜の同人には獨身の方が多いやうですが其の方達は一生獨身で行かれるか？若し行かれないとしたらどんな結婚をされるでせうか？私は自分の立場から折々これを考へて見ます。感興の動く儘に好きな事をし得る獨身時代、憧憬と空想に滿ち、希望理想に輝いた娘時代、それが一旦良人を持つて社會に打ち出た曉、抑、如何な矛盾に泣く事でせう。自己の爲めに生きて來た今迄が什うしても或る一部は他人の爲め即ち良人の爲めに生きねばなりませぬ。幸に良人なる人が新らしい現代の男で女の心を解して居てくれて或る程度まで自由を許されたとても或は生活が充分でないとか、子供でもあつたら又其處に自己滿足、新らしい心の進むにまかせる事は出來ますまい。其の他「人間」として立つよりはどうしても「女」として人妻、人の母と云ふ名の許に立たねばならぬやうでしたら、矢張「汝の名は女なり」の悲しいそしりを聽かねばなりません。生活の上に於ても一切良人に手頼ることなく云はゞ共に活動し得て生活上の權利を二分し得たとは云へ、又其處に云ひ得ぬ矛盾、衝突が生じはしませんでせうか。所詮は男と女とは到底解し得るものではありますまい。男の世界と、女の世界は全く別です。接近し得たと思ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もそは外見に止る刹那の和のみ、一生男と女は相ひ反目して居なければならぬと思ひます。然し新らしい女、新らしい男には、從來に見る事の出來ぬ深刻な懷疑と煩悶があります。殊に現代の女には今迄の女のやうに空な虛榮に憧れたり、美しい裝飾に心を奪はれたりするやうなことはありません。常に何物かの缺乏を感じ、心は寂しく理性は發達して何物に對しても其の奥迄究めねば止まぬところがあります。自己をも他人をもごまかして置くことが出來ない。それだけ苦しいわけなのです。沈默に弧獨に、一生を或何物かを求め求めて過ごすのが現代の女性の運命でせう、殊に現在社會の狀態は未だ全く新らしい時代に這入つたのではありません、新舊兩派の衝突。其の間に立つて女は行く道に兎角迷はねばなりません、五十年、百年後の女性は或は幸福な光明に浴し得るかも知りませんが、私等は到底、此の懷疑を一生抱いて悶々として過ごさねばなりますまい。從つて夫婦の間でも弧獨の世界に或る一致を求めて進まねばなりません。

以上述べ來つて未だ何事か物足らぬ心地が致しますが、今度はこれで筆を置きます。乞ふ私等同胞は最も眞面目に現代の女の進む道を究められんことを。

（十一月十日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新らしい女の解説　——長曾我部　菊——

新しい女の解説——と云ふ問題が私の心の正面に現れて來た時、私は可成大きい重荷が私の前に据えられたやうに感じた。然し同時に此の荷を解いて、中に何があるかを知るのは、現在の自己に對して少なからず興味のある事と信ずる事が出來た。

其の上此の問題に關しては、私は或る程度まで實感を有つて居り、考へる材料をもつて居つたため、そう自分に距離のある問題とは思はれなかつた。兎に角私は、今の私の心が許すかぎり眞劍(しんけん)になつて考へて見やうと思ふ。

先づ最初に於て、私は是の問題にどのやうな態度で向はねばならないかを定めなくてはならないのである。所謂新しき女と云ふ呼聲は、今の日本の婦人の中の唯『青鞜』社同人に向つてのみ、何の判斷も反省も有たぬ人々から浴(あび)せられて居る。所謂新しい女である青鞜社と私とはたゞ僅に一月の間の親しみしか私にはない。然しながら今に至るまで私は局外の婦人として可成長い間傍觀して居つた。此の事は多少私の言葉の内容を冷靜なものたらしめることゝ信じる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

所謂新しい女――かう云ふ言葉はいかにも粗雜なもの丶云ひ方であるが、論の終るまではそのまゝとして、私は私が靑鞜社の同人であると云ふ立場から――新しい女と呼ばれて居る事を是認した態度で考へてゆきたいと思ふ。それと今一つは此の問題を嚴重に且眞摯な態度で考へると云ふ意味の中心は、いかに自己の爲めに此の問題を忠實に取り扱ふかと云ふにこした事はない、それで極めて自己は密接させて、極めて個人的に考へてみるのが正しい事と思はれる。

さて新しい女と云はれる新しいと云ふ文字であるが、新しいと云ふ事、從つてそれに對照して起る舊いと云ふ事の二つの內容の示すものは、多くの場合あるもの、あることの創始の時期に於て、從來のものと區別するために、唯甲、乙と云ふ程の輕さに名付け得るものと見られる。それで新しいと云ふ名稱を附せられてゐたものも未成の時期をすぎて完成し終へた時、もしくはそのものの外に猶同じ性質の創始のものが生じたときには、既にもう新しいものとは呼ばれなくなるものである、つまり彼等のものと之れに反動して起るものとの新陳代謝を區別する程の意味であると思はれる。

新しい女、是れに對照するものは舊い女と云はれるものであつて、此の二系統のものを女性の中から解說しやうとする、此れは實に女性全體に取つても亦、私一個についても面

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白く感ぜられる。然しながらこれを解說し得る立場は唯一つとは限られて居らない。内外兩面から仔細に進めてゆく時には、余程複雜に多方面になつてゆく事と思はれるが、私はここのところでは、唯女性の生活と云ふ方面から云つて見たいと思ふ。

而して何よりも話し易くするために、最初には一つの事實を理解して見たい。一つの事實と云ふ意味は一人の實在の女性を此處に引き出してそれを生きた材料として證としたいと思ふのである。私はその例證とする實在の女性を何處からか發見したいと思つた時、直ぐ青鞜社同人の中に、その適當の人が幾人もあることを感じた。私は所謂新しい女と呼ばれてゐる私どもの仲間のすべての人に、其の人が今の思想、今の生活に至し到達し、得た徑路がどれほど波瀾曲折して居るだらうかと云ふ事を察して心からその經歴を尊んでゐるものである。私はその一人々々について充分に考へて見たい、が此の場合此處に實例として引き出して來なければならないのは、自分と云ふものより外にはないのであつた。然しながら、自己と云ふものをかう云ふ解剖の材料にするのは、比較的有利でまた遠慮もなくていゝと思はれる。また、さうすることが正直な仕方であると私は思つた。

まづ或る年のある日の一刻に、私と云ふものが、母の體から分離した、その時にもう私は女性であつた。此の「女と云ふ名稱を與へられたと云ふ事は、是れは誇りでもなければ、

耻でもなかつた、まして優でもなければ劣でもなかつた。「女」と云ふ性を享けたと云ふ事柄は、男子が男性としての自由があり光明があるならば、同じ量の自由と光明とがある筈であつた、然るに女性である私の生活が漸次に進行してゆく中に、数へ切れぬ相違が私の境運に加はつて來た、私の前に展開した社會と云ふものは、舊い習慣に充ちた、不完全な——しかも強い勢力を持つて居るものであつた、殊に女性に對しては不公平であり不行届であり、同時に「自己」と云ふ考を持たさせまいとするものであつた、然しながら、是れは、私の生れた時代、私の生れた周圍の生活狀態が根底となつて、習慣的にかうなつてゐたので、決して男性の罪でも、又女子自らの卑屈でもなかつたのである。

その中に私には年齡がもつて來る一種の反省の時期が來た、自分と云ふものが何者であるか、女と云ふものが何であるか、『女性』と云ふ名稱を兎も角も理解しやうとする意識自然に胸に訪れて來た。」

如上の事實はたゞ是れから語らうとする意味の脊景を開いたにすぎないものであるか、私は、私が、「人である」と云ふ觀念よりも「女」と云ふ觀念、しかも習慣的の女の約束と云ふものに、第一時に顔を合せた事を告白したい。自分が人間であると云ふ意識を持つ事なく、女性と云ふものに突き當つた、而して周圍のものから、さうなかめられるより外は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なかつた。

女性――先づ此の事に對する理解がなくてはならない、舊習の眼より見た女性ではなく、科學的の正しい頭から見た女性觀を私はどれ程知りたいとおもつただらう。而して漸く知るを得た觀念は畢竟するに金子筑水氏が最近に論せられた左の一節であつた。

子供をそのまゝ大人にしたやうな女子の體質、和に曲線美にとんだ肉づき、骨格やさしく、つやつやしい皮膚の組織、これらの形體だけでも、女性の本質がいかに根本的に男性と異なつて居るかを容易に想像させる。犧牲的戀愛は、女子の中心生命である、女子はたゞひとへに戀想のみによつて生きると云ふ觀察は一見あまりに單純に且矛盾してゐるやうにも見えるが、我等はいかにしてもこれが女性の根本特質である事を否定し得ないと云々。

私は是の意味を知るを得た時に、まつたく自分は女である。自分の生れて來た理由はこの事のやうに思はれた。敎育家の唱導する賢母良妻の主義を充分に自分に取り入れる用意まで私はした、私がそう考へ、そうすると云ふことは當然な事であつた、女と名のつくものである以上は一應は晩くも早くもその道程を通るものであつた、學問の有無に係はらず、すべての女は暗默の中に、その觀念に支配せられて居る、それでこそ彼女達は、親の手を離れて夫に就き、家庭と子供との間に一生を滿足して居られるのである、此の女性觀念を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

有つと云ふ事は、有つと云ふよりも、女性そのもの丶細胞全體に沁み込まされてゐるといつてもい丶。私は私の性格、私の境遇を、私の生活から切り離してゐる時に、矢張その軌道を歩いて居つた。

女性と云ふ名稱が自分の生存の上に下されてゐる間は——此の女性觀は私の心の一隅をいつまでも占めて居るものである事を疑はない。自分の性格の境遇とを、基礎として、その女性觀の必要を痛切に感ずるまでは永く私の心に眠つてをる可き一つである。

この私の心持は、彼の意識せずに、其の女性の目的を歩いて居るものよりは眞實であり熱烈である、知らざる心より知り得る心の方に價値のある事は論をまたない。

然し此處極めて重大なる事柄がある。それは、私が生きて行く、生きて行く間に、自分の性格、自分の境遇を自知し得る時期に遭遇した事であつた、何よりも私の胸を打つた事は、まへに云へた女性と云ふ一種の茫漠とした理思がそのまゝ私の生きてゆく事に役立つのではなくして、私の境遇と私の性裕とを基點にしてこそそれらを生活方法に役立てる筈であると思つた事である。いくら立派だからと云つて、此の女性觀念を——自己の性格自己の境遇、ひいては自己の時代に對する交渉をぬきにして、たとへば足を宙にして歩くやうな愚をなされ得るものでなかつた、私はあくまでも、自己の境遇、自己の性格、自己の

時代から出發してすべての智識を生活方法として驅使し得るだけの見識を有つて居た、これが私の思想なり行爲なりの一切の根底的説明である。

私は自分の性格を、自分でだん〳〵理解する事が出來た。先天的、後天的の性質にある欠陥があり、ある長所があると云ふ事を自覺したときに、然らばこの性格をどのやうにおし進めて、私の生涯の最良な道を歩かれやうかと云ふ事を考へた、同時に私は自分の境遇を觀察する事も出來た。自分のもつてゐる職業、自分分に常に顏を合せる生活難、それから自分の結婚と云ふ事にまで、そうする事が果してよいものであらうかと結果を價値づけねばならないやうな境遇も來た、此の境遇をどのやうに生きて行くべきであらう、人間としていかに生きゆくべきものであらうか。

私ははじめて此の時『人間』と云ふものに對して、眼が開いた。漸く、人間と云ふ觀念が私の心の暗がりを明々と照らす時を迎へたのであつた。

私が「人間」と云ふ觀念に達し、「自己」の意識が確實に心にすはつたのは重に私の境遇と性格とであり、啓發される形は受動的であつた、此の徑路は當然各個人に於て異なる事であつて、自働的にこの思想に至り得た人達に對しては私は厚く敬意を寄せる。

到達の形はどうであるにしても、人間と云ふ自覺と自己意識とを胸に得た時、私たち女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性はまづ一層眞面目になり、人生に對して忠實になると共に、窮して止まる憶病や、時間を徒費する事や、なすべき事をなし得ぬやうな弱々しい女で居り様はなかつたのである。或る人が云つたやうに、

女子も人間である、單純な事ではあるが、女子から云ふと大した事である、一切の進歩はこの地盤の上に立つて初ゆて逐行されるべきであつた。かくして女性が、自己の生活の充實と云ふ事に心が覺めてゆくにつれて、其のする事、其の觀る事、其の話す事、其の考へる事が、一歩は一歩より進行してゆくのも自然であつた。理解したいと云ふ欲望や、活動したいと云ふ要求が、知情意の三方面に對つて旺盛となりゆくのも亦當然であつた、安倍能成氏が云はれた樣に、

生きたい、自分の承知の出來る充實した生活に生きたいと云ふのは文壇の流行が如何に拘はらず、自分の切なる願である、藝術が自己を以て始まり自已を以て終るべきのみならず、生活も亦自己を以つて終るべきものである、我等は何を置いても先づ自己でなければならぬ。

何れかの方面に對つて、進步、努力と云ふ形で運動を開始しやうとする女性達が、いづれの日にか意氣相投じて一つの團體となつた時——而してそれが文藝の方面に向つて步く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

團體であつた時に、はじめに、日本の婦人社會は靑鞜社を所有する事が出來たのであつた。

かゝる一つの團體の眼からふりかへつて已前の女の群れ、意識の有無を論せず、習慣的に女性の目的を、各自の性格、境遇に支配されて歩いてゐる群れを見たときに、たとへば山の峠から、平野の川を眺める程の距離があつた。

これは優劣と云ふ事ではないもとより賢愚と云ふ事でもない。花は花であり、實は實であつたと云ふにすぎない事である、傍觀者は此の二つの群れの對照を見て、これを區別するために、甲、乙、と云ふ程のかるさで彼の群れを古い女とし、此の團體を新しい女と呼ぶのであるらしい。舊新と云ふ文字の示す内容はたゞこれだけに止まつてゐる。

新しい女の解說は以上で私はつくし得たやうに信じられる。最後にたゞ一つ附加したことは長谷川天溪氏の最近の土產話である、英國の婦人に多い第三性を紹介して、

「人間はどう考へても、男性と女性との二類だけであるが、近來は此の何れにも數へがたき一種の人間が生じたやうであり、且益々增加しはせぬかと思はれる、所謂第三性とはこの種の人間をさしたものだと云はれてゐる。」

此の英國の第三性と、日本の婦人から生じやうとする新しい女の行く道とは果して同じ

ものであるだらうか。私は多分それが同一である事が信じられる。而して文藝の方面に青鞜社を所有した日本の婦人社會は、早晩、學術に、醫學に、宗教に、實業に、其他あらゆる婦人の範圍の階級に、幾多の青鞜社を所有し得る日があるに相違ないと思はれるのである。

（終）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

超脫俗觀

——上野 葉——

「門松や冥途の旅の一里塚」何度誦して見ても面白い。一休がすべてに超脫して居たことは彼の言行の一つ一つが證明してをる。有名な話であるが或時一休が行脚の途上不圖大きな幹も枝も曲りくねた老松の根本に立札のしてあるのを認めた。

此木を眞直に見たものには褒賞を呈す

通りすがりの旅人といはずそこら界隈の人々は朝から晩まで立ち盡してをるが未だかつて一人の選に與つたものはない。一休これを見てカラ〳〵と哄笑しながらやがて懸賞者の門を叩いた。一見上﨟の僧らしい。

「今日は御恩賞に與り度い。」

「いかなこと。何と見られた。」

「ハヽヽヽ、曲つたものを曲つたものと眞直に見てござる。」

覺人と覺人と肝胆相照した時の快哉思ひやられる。これ今日の現實を現實とする新しい思想である。ルーソーの自然主義亦一味の消息の様に思はれる。物各其性を發揮すればやが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て天の至極にかへつて行く。零は即ち無窮大である。千差萬別の事相めでたい正月が積み重つて行けばやがて冥途の關門に達する。死生何ぞ悲喜するに値せん。しかしながらたゞ單に俗を脱することを知つて再び俗にかへることを知らなければ未だ首肯することは出來ない。所謂小陰は山にかくれ大陰は市にかくるとや人情に遠い不自然なものになつて了ふ。出つたものを眞直に見様と努力すると同じ理屈になつて了ふ。群と一緒になつてお祭騷もする。馬鹿な眞似もすが其ドン底には自覺がある。酸いも甘いもかみしめてゐて泣いたり笑つたり人並みにする。これがほんとの超脱俗者ではあるまいか。そんな人の眼には裏表四十八通が洞然として見え透いてゐる。

○

人の門前を通りかかると若い美しい細君らしいのが子供を遊ばせながら立つてをつた。一人の女が、

あんなに子供と一緒になつて馬鹿の様な貌をしてボンヤリ暮してをるが考へて見ると女程つまらんものは無いなあ。

と歎息した。すると他の女が、

子供のために犧牲になると云ふことが第一母親としての本能を滿足しとるのだし、ああ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して美いなりをしてめかして一人天下でし度い放題なことして夫から可愛がつて貰つて俸給の全部を喜捨して養つて呉れてお負けに心掛次第でいくらも文學でも科學でも渉らうと思へば渉れるし。何のこれも婦人の職業だと考へてをればこんな割のいい氣の利いた役はないさ。ちつとはそりや世話もやけるだらうけれど滿更憎いと思つてする仕事ぢやあるまいし。何？權利が對當でないから馬鹿々々しいつて？そりや要求しない者の罪さ。いゝえやつぱり女は體のいい支配人よ、

と囁いてをるのを熟々ながめてをつて、

「そう云へばそうだはね。やつぱり女の方がよかつたかね」

と苦笑してゐた。

○

禮樂興つて仁義廢る。婦道興つて婦道廢る。酒が呑み度いから呑む。性が合はないから離婚する。どんなことを爲樣と誰れと驅落をしようと勝手じやないか。天下の誰一人抗議を申込む權利は持つてやしない。己れの信ずる所を己れが行ふと云ふ程尊いことはない。女つてものはあゝあれかうあれと不自然な道を敎へたものだから遂々片輪者に出來上つて了つた。明るい道には出さないで暗い世界に突込んで了つたのだから遂々視力を失つて急

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に明るい世界に出様つたつて盲には何の感じもなくなつて了つた。此盲の中には同時に耳も聾し口も啞となつて殆ど一擧手一投足の自覺をも保つてゐないと云ふまでに傷つけられて了つてをるのもある。しかし憐れな不具者は更に蓄音機となつて「お前の道は？」ときかれると良妻賢母と無意識に答へさせられてをる。女つてものの先天性はあんな卑屈な偏狹なものではない筈だつた。もつと自由自在に蒼穹翺翔して悠々自適の境に逍遙してをる美だつたに違ひない。庭造の手に陷つてからあんなコセ〳〵した曲つたものになつて了つたのに違ひない。無意識に邪道を歩いてをるのに氣が付いた時には如何に彼等は愧慚を覺えるであらうが。如何に背汗の洽きを感ずるであらうが。群集と共に押し流されて行く。輿論に掉して船を下すのは何の雑作もない。苦悶や追求や努力や何處に覓め得られ様か。嶄然群をを拔いて一度自覺の境に自己を見出した先覺者の胸中や果して何うだらうか。區々たる世論は關する處でない。紛々たる誹謗亦それ意に介するに足らぬ。自己の聲を聞き初めた霽風光月の襟裡には一點の私心もない。確固たる自信の大盤石は如何なる惡魔の術策も遂に施す道が無からうとほゝ笑まずにはゐられない。言論は各自の自由。筆に税はない。お互に勝手な熱を噴いてをればいつかは黑白が分れて來るだらう。燕雀安ぞ鴻鵠の志を知らん。まだ敢て自ら辯ずるまでもない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

今時の男は云ふ「今時の女は强情で利己主義で始末に終へない」と何ぞそれ笑止なる、何ぞそれ明なきやと嘆じ度くなる。强情と云ふ目の内容は色々あつて自ら別は存してゐ樣。惡い方を見ればそりや全く偏狭な心理狀態でこれには好ましくない處もあるけれど深思熟考事の兩端を洞察して之れに對する自己の實相を窺ふ。自己の立場を定める。此に信仰を齎したならばそれが嘲弄を以て迎へられ樣が罵詈を以て迎られ樣がそんな群集のお祭騷には同じないだけの見識が潜んでゐるのを看破するだけの男に明識がほしい。愚にも似てゐ樣狂にも似てゐ樣、しかしながら一定の見を持して動いてをる女性の胸奥にはどんな閃きが如何に根强い力を持つて蟠つてをるだろうか。某々の國には婦人參政權運動が行はれてをるが彼等の行動はたとへ一部の男子側から如何なる惡言を浴せられつゝ有らうとも其眞相に至つては意想外な着實性と熱とが潜でをることが信じられる。彼等の熱誠はむしろ一笑に附して看過すべきではない。あれだけの行動――犧牲的な――を續けるにはそれに伴ふ固い信念がなくてはならない。時流の趨勢に先つだけの勇氣がなくてはならない。心ある女性は一見狂に似た彼等の行動に向つて滿腔の同情を捧げるに吝ならざるを疑はない。女の叫ぶ自己と云ふ聲を誤解して自己を充實し樣と努力する行動は即ち利己主義から出て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

をると斷じ去る今時の男は何ぞ早計ではなからうか。あらず、女性自身亦此自己充實と云ふ詞の内容を極め盡してゐない者もあらうと思はれる。勿論淺學菲才の私なんぞがかれこれ饒舌を弄すべき幕ではなかろうけれど短を披瀝して敢て他山の名玉を得度いと云ふだけの至心に過ぎない。

自己充實。一言にして蔽へば「心眼を開いて道を歩む」と云ふことではなからうか。是とする所若も其處に自覺が伴つてゐなかつたならばそは他人の意識の中に無意識に自己を沒却してをるのではあるまいか。貞操と云ふことの大切だと思つてをる女の心意を解剖して見た時に其德が果して合理的な自己の踏むべき完璧の德であるか、自己の天禀に些の矛盾をも見出さない行間であるかと云ふ究竟の窮理を經た意識ではなくて何千年昔の社會に既に死で了つた信條を今も猶生けるものゝ如くに將又先天的に命令せられてをるかの如く無思慮に呑み込でをるのであつたなら其女はそをかつて教へた人格の中に吸收せられて了つてをるのではなかろうか。同じく貞操を是認する人であつても其處に新しい活きた生命を見出して取つて以て自己の信條とするならば其女は其意識の中に生きてをることが知られるであろう。たゞ單に他人の説に附和雷同するが如きは自己を呼ぶ人間の最も耻辱とする處だろうと思はれる。その社會主義であろうと個人主義であろうと利己だろうと兼愛だ

ろうとナチユラリズムだろうとシンボリズムだろうと自己の性格から割出された自意識の發露であつたならば敢て選ぶ所でないことは明かであろう。自己の內容に生きて自己の聲に指導せられて行くと云ふ程尊いことがあろうか。敎へられたから犧牲を德とするのでは心細い犧牲は自己を欺くことなくして自己を滿足させることが出來るから信奉するのである。新人の腦裡にはたゞ此濾過せられた同化せられた社會的意識と云ふものがあるが苟も舊套の束縛だとか習慣の拘泥だとか云ふものは何の權威をも認むることは出來ない。新人に對しては強いることを許さない。彼等は全く自由な彼等自身の意志を以て自己を實現して行くものなることは言を贅するまでもない。然し世の中には何事によらず多くの似て非なる者が存在してをる。自己實現と云ふ名をかりて所謂放埒を演ずる輩がある。貧弱な經驗と淺薄な智識とを以てわけもなくたゞ世の故老を一棒の下に斥け通俗な常識を平凡だとけなして無闇に新しがる輕卒な輩。そはげに面に唾しても飽き足りないだろう。玉石混淆の世の中にはたゞ伯樂の來らんを翹望するの外はあるまいと思はれる。

○

正直な人間に限つておだてられる。そはおだてる人間もほめたものではないけれど第一乘るものが惡い、自己覺醒と云ふことは反省の結果であるとすれば反省を試みた人の胸底

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

には自他の觀念が潜でをる。已に自他の差別を設けた以上己を以て他を推すは愚の至ではは有るまいか。差別觀は平等相であると悟るまでにはやはり此差別相を經由して後始めて得られる概念であつて如何なる赤ン坊でも單純から複雜に入つて來ると必ず一度は自他の聲に驚かされるで有ろう。一度驚疑の眼を放つてからは再び原始的無意識狀態にかへることは出來ない。惡と云ふ意識を知らなかつた美しい善人も最早いつまでも昔の地點に戀々してをることは差別相の世界が許さない。いつそ死ぬまでも醒めなければ却つていゝかも知れない。「馬鹿に限つて起きて働く」と笑つて過せばそれでも過される。けれど眞の嘲笑には幾多の苦悶が裏つけられてをる。

差別に入るのは或程度までは惡人になれと云ふことである。賢者は一面惡人に相異ない。大聖は愚の如しと云ふことがあるが一は差別平等を超越して其何れにも住する一は平等に住して差別を知らないものである。二者形は相似てをるけれど其徑庭に至つては黑白の差がある。何れを採り何れを選ぶか。そは人其人の性格なり境遇なりに左右せられて運ばれて行くのであつて所謂天の眼界の懸解は如何ともし難い。一を喜び一を悲しむのは未だ愚はざるの甚しきものではあるまいか。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

道德律と云ふものは元來人間相互の利益と認められた行間の長い間に萬人に默認せられていつの間にか成文の尊重すべき信條となつたのが眞正の意味に於ける生きた德であらねばならぬ。一方を益して一方を苦しめる樣なものであつたならそは決して道德律と云へないのみか不德とも罪惡とも云つてよかろう。惡德として最も適切な例は過去の東洋に於ける婦人の貞操問題の右に出づるものは無かろう。男の嫉妬から出た惡手段は支那に在つては婦人の纏足が好標本である。日本に在つては女に姦淫罪を問ふて男には見逃してあるのでわかる。若も貞操と云ふことを男女に普遍的に適用させ樣とするのならば聞えてもをる。男は妾を蓄へ妻を換へて平然たるのに女に向つては二夫に見ゆべからずと制するに至つて、啞然たらざるを得ない。敢て二夫に見へ度いと云ふのでは勿論ないけれどこんな不公平な掟が果して道德律として認めることが出來ようか。これに甘じて自ら貞操を叫で男には勝手な眞似をさせて德としてをる東洋の女ほど不道德者はなかろう。元來貞操なんて强うべきことではない。又强いられべきものでもない。貞不貞は愛の問題である。若もお互に愛があつたならばそんなこと言はれるまでもなく美しい貞操が行はれるにきまつてをる。好いても呉れない女に貞なれ貞なれと迫るなんて耻を知る人間の出來る眞似ではない。誰れ一人强いるもの敎へるものは無くても意氣相投じ相愛してゐたならば反くにも反

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かれない。愛の實現は刻々に美しくなつて行くに定つてをる。嫉妬と云ふことは自然愛の衰滅互解を妨ぐることが出來る。否進で愛を濃かならしむることの出來るのは何人も認むる處で嫉妬のために起る相互の幾分の束縛と云ふことも相對的ならば寧ろ快いではないか。それが一歩進で一方の專制となつて來ると一方の不平不快となつて愛に根底を置いてゐない喧嘩肌のものになつてはもう仕方がない。世界の隅々に至るまで專制の影を殘さゞる今日斯樣な不合理な道德律の存してをるのは寧ろ奇蹟と云つてよかろう。十七八の娘の子の讀む修身の教科書には令々しく「夫に貞操なるべきこと」なんて個條が擧げてある。忌はしいのみか國民の蠻風を暴露してをるもので寧ろ國辱と云つてもよかろう。男の鐵面皮にも呆れてし了ふ。貞淑なれの貞の意味ならば心を堅く固に持つて容易に男に屈服などしてはいけないと敎へるので相互の幸福をはかる自尊心を意味してをるから勿論いゝ。たゞ從來の夫に貞操なれが滑稽だと云つて置き度い。

女に誨へる信條の中にはまだ〳〵不道德なものがある。己の欲せざる所人に施す勿れと口に仁義を唱へながら盲を驅つて死地に陷れた東洋道學者の罪は甚大であるが何時までも其奸計を打破することの出來なかつた女の罪も許すべきではない。何しろ人に强いられ敎へられて守る樣な貞操では一向有難味に乏しいではないか、貞操を破らんとして破ること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の出來ない程の夫を持つのが萬金の計ではあるまいかと考へられる。

——續く——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

諸姉に望む——宮崎　光——

新しい女、ノラだのマグダだのが、もてはやさるゝ時代も過去の夢となつて、更に生命ある活時代の來るのが待遠しいのである。なまぬるい、生氣のつきた、死にそうな繪體のわからない、つかまへ所のない現代の文藝が、苟も讀者の前に提供さるゝ間は、生命ある新文藝の時代はなか〳〵に來ないのだ。由來文藝家は、藝術上の深い高い趣味を與へると同時に、身自ら社會の教師、教導者でなからねばならぬ、文藝上の作品が、如何ばかり世道人心を感化するか、思ひ半ばに過ぐるものがあるであらふ。

かゝる重大なる責任を完からせしめねば、文藝の價値は皆無である、然るに近代女子の間に、文才ありと思はるゝ者は、女流作家たらむとして其才等を揮はふとする、然も何等根底のない淺薄なる作品を出して、徒らに文字を縱橫排列するに過ぎない、世の無用な贅澤品を亂造するよりも反て害がある、富豪の家庭が物質の應用をあやまつて無益な虛飾に其の財を費すのと一般、社會人類の高尙なる能力と偉大なる精神は、これが爲に消耗され

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て極めて貧弱なるものとなつて了ふ。

我等は文藝の眞意義を諦定したる作家の出でん事を待つのである、此間の消息を納得した作家、確固不秡の信念に立つた作家、權威ある作家の出でん事を望むのである、社會萬衆の暗愚蒙昧を覺醒し、新先明を放射せしむる精神的豐富なる潑溂たる文藝の作品を待つのである、今の多くの作品は、徒らにものしたる文字の行列にすぎないではあるまいか、甚しきは俗惑な陋劣な、社會に迎合して其の歡心を買はんとしたり、甘つたるいヘコナチヨコな世評を有難がつて居るのではないか、か丶る有樣で藝術の創作も神聖もあつたものではない、現代の大家と目さる丶文士などが、めそ〳〵した泣虫のやうな作品を公にして愧づるところを知らないのはまだしも、狒々のやうな主人公を書いて得意がつて居る連中もあるが、これには驚かざるを得ない、犬の糞と人間の糞とが似て居るからとて、人間を以て、犬と同樣に取りあつかふ譯に行かぬではないか、人間の他の動物と異なる所は精神にある、人間の人間たる所は精神に存する、この精神上の事は顧みないで、人間の糞が犬の糞に似て居るとか、猫の糞に似て居るとか、糞の詮議ばかりして居るのは、雪隱文學と言はれても申譯がないではないか。

近頃は演劇の方面が非常に開展して來たからして、この雪隱文學も追々〳〵に消滅する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

であらふ思ふ、唯小説に書いてあるのを文字の上で讀んで居ると左程にも目に立たぬが、これを舞臺の上に演出することになると、見るに忍びない淫猥なものになつて了ふ、演劇はこの意味から淫猥な雪隱文學を亡ぼすに最も有功なるものである、現に目に見せつけられては如何な狒々先生も堪らない、そこで演劇上の脚本とするに資格がなくなるのだ。

近代劇の向ふところは、重に社會劇といふやうな方面が普く行はれるやうになつたのは喜ぶべきことである、がノラやマグダではやりきれない、このノラやマグダは僅かに婦人開放の一端を示したまでのことで、婦人なるものゝ人生に於ける位置、或は進んで價値といふやうな深い高い意義は、全く現はれて居ない、尤も歐米の作者大家と雖も、漸くこんな風の書きぶりを始めたばかりではあるし、且つ婦人そのものを知つて居るといふ譯でもなし、あれ位のところが相當なのかも知れない。

それにつけても、近代の婦人は、婦人の持つて居る全能力、全精神を發揮して、何んな伏能があるか潜在精神の何んな偉いものがあるか、實際の上に試むることをして見なければなるまいと思ふ、お互婦人の實生活は、有史以來、歴史上に現はれた又是迄の婦人が行つたゞけのものではない、更に新らしい、深い／＼高い／＼方面を發揮しなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近頃歐米では婦人の參政權運動もあるよふだが、これも婦人の活動として至極よろしからうと思はれる、又彼の未だ解決を見ない、戰爭廢止のやうな世界的平和の運動などもよろしいと思ふ、戰爭の廢止や軍備の徹廢は、實に婦人が現代に於て其位置を明かにするとせざるとに關係するものと思ふ、自覺ある婦人をして相當な社會の位置に進めたならば、戰爭は必ず廢むに相違ない、軍備の徹廢なども從つて行はれるに艱難はあるまい、西園寺内閣との瓦解となつたのも、軍備問題の爲であつたが、私共婦人の仲間から一人でも、内閣の椅子に居たならば、陸軍擴張などは一口（ひとくち）も言はせないけれども、殘念ながらまだ參政權がない。

參政權問題や、社會問題ばかりではない、藝術の方面も、道德倫理の方面も、信仰問題の方面も實に山の如く解決し、奮鬪すべきものがあるであらう、諸姉は廿世紀の初めに於て、大正二年、第二維新として、自由に大膽に各々の所信を披瀝し、天下に訴へては如何でしようか、それには先づ婦人の演說會など催ふすのは極めて適當であらうと思ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は古い女です ―堀　保―

私は古い女です。古い家庭と古い周圍との間に育つて、古いしかも極く初歩までの教育を受けた、何にから何にまで古い女です、從つて理窟と云ふ習慣もつけられてゐませんし、又むづかしい理窟などは聞いてもてんで分りもしません。

それで私は、私自身の事や、又はそれに連れて思ひ浮んだ事を、極くきれ〴〵にお話しいたします。尤もそれが讀む方々に對して失禮か、又其の內容が『新しい女』と云ふ課題にあてはまるか何うかは、私存じません。

社會主義婦人の婦人問題觀を知りたいとあつて、私のやうなものにまでお手紙を下すつたのは、あなた方のなさり方として、先づ第一に私の腑に落ちません。

なるほど私は社會主義の男と一緒に暮らしてゐます。けれども私は、自分を社會主義者だとも思ひませんし、又自分でさう云つた覺えもありません。さつき申したやうに、社會主義だとか無政府主義だとか云ふむづかしい理窟は、私にはてんで分らんのです。分るや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うにと、又分らうと努力するやうにと、私は少しもしいづけられてゐない女なのです。

それだのに、なぜあなた方は、私は社會主義婦人として取扱はうとなさるのでせう。あなた方ばかりぢやありません。世間の人達もみんなさうです。甚しいのになると、お上までがやつぱりさうで、何にかの際には（私の）男と同じやうに、私にまで尾行巡査とか云ふものをつけて下さいます。

私は古い女です。從つて私の思想も感情も、總て男のそれに從はせなければならぬ筈です。乃木さんが自殺せられて、奥さまがそれに殉死なさいました。私も、若し男が男の友人のやうに他殺せらるれば、男と一緒に他殺せられなければならぬ筈です。此の古い考へから、みなさんが私を社會主義婦人扱ひなさるのも、或はいたし方ない事かも知れません。けれども男と私との思想と感情は、さうなる爲めには、不幸にもあまりにかけ離れてゐます。殘念ながら私にはとても從ひきれません。男の亦、敢て私に盲從を強いてくれません。

それで私はたゞ古い女としての勤めに、せめては男の仕事の邪魔にならぬやう、又出來るだけの手助けをするやうに、心掛けてゐるに過ぎません。

私とは違つた意味で、女が一個の人としての自覺をもつて、男にも從はず、世間にも據

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らず、一人で自分の道を行く氣持になれば、それが新しい女の第一歩のやうに、私には思はれます。

それから先日のお手紙には、私の宛名が『大杉御奥様』としてありました。これも古い女としての私が、他の古い女の方から申されるのなら、私も其のまゝ默つてお受けいたします。

私はもとより古い女です。『大杉御奥様』と云はれる方が、私の望みでもあり、又喜びでもあります。けれどもあなた方からさう申されると、あなた方御自身のために一寸文句と云つて見たくなります。

女が男と一緒になれば、女はさきに申した思想や感情と共に、其の姓も男に捧げて了はなければならぬのが、私共古い女の掟であります。私も實はさういたしたいのですけれど、何分男がそれを受けいれてくれません。そして私は、男の云ふなりに、やはりもとの堀保子のまゝでゐます。

姓と云ふものが、これほどまでに大切にしなければならぬか何うかは、私存じません。又男もそれが大切なものだとは申してゐないやうです。たゞ男は自分等二人の間に、法律

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

などゝ云ふ無粋なものゝ入つてくるのを、ひどく嫌つてゐます。男と女との關係は、其の始まりや終りを、法律で認めて貰はなければならぬやうな、又許して貰はなければならぬやうな、そんな性質のものではないやうに、申してゐます。

いつか(私の)男の事件で、私も參考人として裁判所へ引きだされまして、私の籍のいれてない事に就いて、さん〴〵御役人様にお叱りを蒙つた事があります。其の方の仰しやるには、若し子供が出來たら何うするか、と云ふのです。私も仕方がありませんから、私生兒としてゞも屆けませう、と云つて置きました。

私とは違つた意味で、又世間の多くの所謂內緣の夫婦とも違つた意味で、御自分からこんな事を仰しやり又はなさる女の方があれば、それもやはり新しい女のなさりさうな事の一つかと、私には思はれます。

男の申しますには、若い女と男とが相愛の中となれば、斯うして、別々に住まつてゐて、別々の獨立の生活をして、猶、若し他にも相愛の男か女があればそれ等の人とも遠慮なく戀し合うて、そして若し愛がさめればいつでも其の關係を離れる、と云ふ風になれば理想なんださうでございます。けれども古い女の私には、とてもそんな事は承知が出來ません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

又せよと云はれてもとても出來さうにもありません。

けれども猶男の申しますには、斯ういふ理想は、今日の社會制度、今日の經濟制度の下では、僅かの例外者を除いては、とても出事ない事ださうでございます。それで私も先づ〳〵安心してゐます。

新しい女と仰しやる方々も、やはり斯んな風の戀愛觀をもつてゐらつしやるのでございませうね。

私は今、紅吉さんと同じ病氣で、床に就いてゐます。男もやはり病氣でふせつてゐます。猶申しあげたい事もいろ〳〵あるのですけれど、話をする私も疲れますし、代筆をする男も大ぶ苦しさうですから、これで御免を蒙ります。

誠につまらん事ばかり申しあげまして。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

賀正

大正二年一月一日

本郷區駒込蓬萊町萬年山內

青鞜社同人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

改年に際し各位の幸福
と健康を祈り申候

大正二年元旦

東京市京橋區南傳馬町三丁目

圖書出版 東雲堂書店

店主 西村寅次郎

出版部・地方部一同

（電話京橋一六三九番
振替東京五六一四番）

諒闇中

年賀缺禮

謹みて江湖各位の御健康を
祈り併て倍舊の御愛顧偏に
奉希上候

神田區表神保町三番地

圖書雜誌勉強販賣 合資會社 東京堂

電話本局 長 二百四十八番 百二十三番 二五五二番 小賣專用 四五六一番

振替口座 東京 二百七十番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女學世界 第十三卷第二號 增刊

新しい女と古い女

新しい人、必ずしも新しい人に非ず、古い人必ずしも古い人に非ず、今の古い人も曾て新しかりし時代のありし如くに、今の新しい人も亦後の古い人となるべし。されば新しい人として古い人を罵り、古い人となつて眉を新しい人に顰む、いづれも一時の幻相に等しきものに過ぎざれども、時代の思潮は常に此時々刻々刻に移り行く幻相によつて彩られつゝあるなり。幻相か幻相か新しい人果して甚麼の言をなし、古い人果して甚麼の言をなすか、兩岐の流潮一峡に合して相鬪ふ花々しき光景を觀よ。

菊判紙數二百〇八頁
口繪石版寫眞版豐富
正價二十錢
郵稅二錢

一月十五日發行

東京 博文館 本町

昭和44年4月15日発行　【第4回配本】

青鞜第3巻　1月号

編著者　平塚らいてう
発行者　藤原正人
発行所　(株)明治文献
印刷　江明印刷
製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 3,800円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.3
no. 1

University of Colorado at [redacted]
[redacted]304 6746254

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER